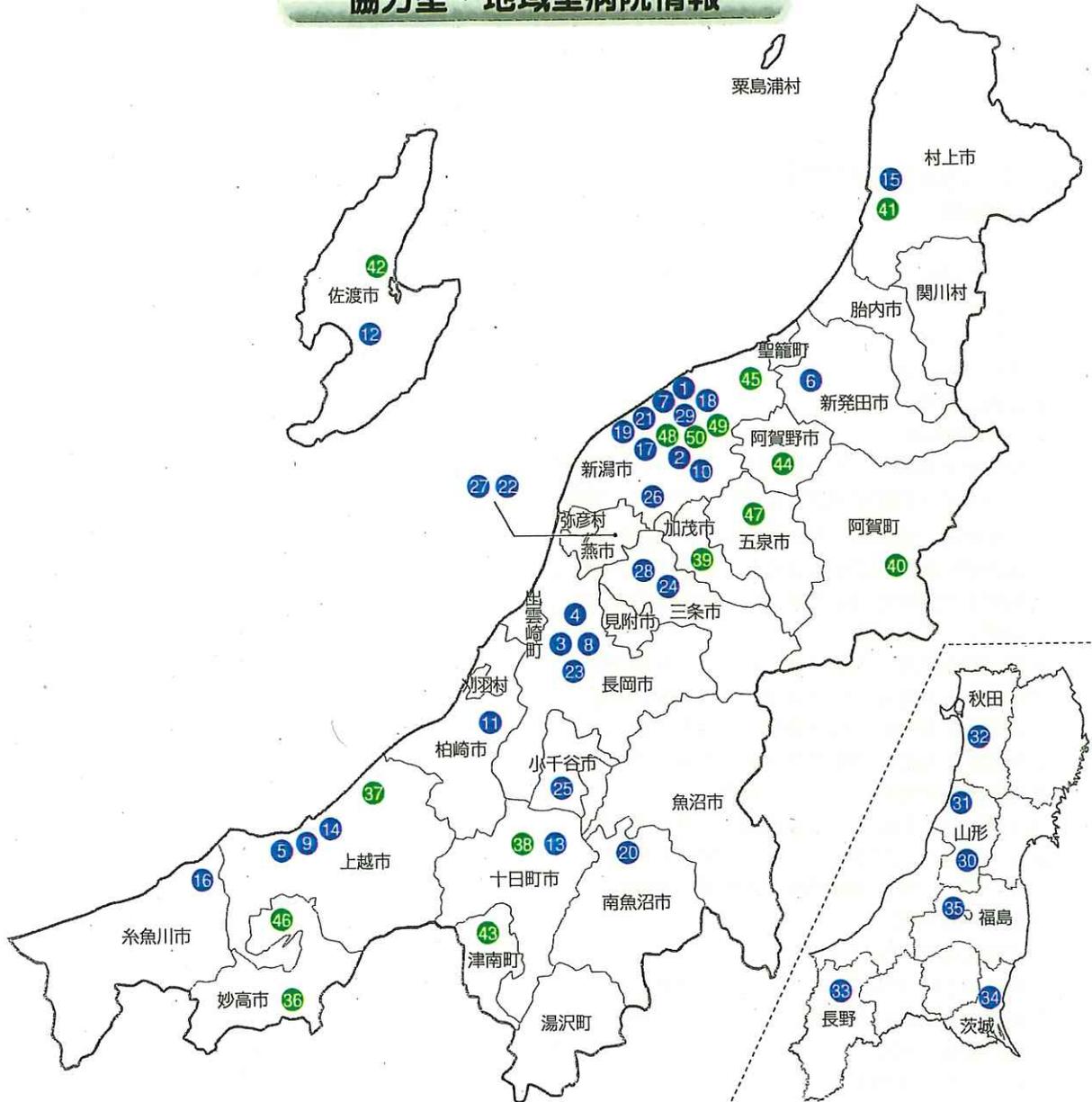


目 次

協力型・地域型病院情報	58
〈協力型病院〉	
新潟県立がんセンター新潟病院	59
新潟市民病院	60
医療法人立川メディカルセンター立川総合病院	61
長岡赤十字病院	62
新潟県立中央病院	63
新潟県立新発田病院	64
済生会新潟病院	65
新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院	66
独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院	67
社会医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院	68
新潟県厚生農業協同組合連合会 柏崎総合医療センター	69
新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院	70
新潟県立十日町病院	71
新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院	72
新潟県厚生農業協同組合連合会 村上総合病院	73
新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院	74
新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター	75
新潟医療生活協同組合 木戸病院	76
社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院	77
新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院	78
独立行政法人国立病院機構 西新潟中央病院	79
新潟県立吉田病院	80
新潟県立精神医療センター	81
新潟県厚生農業協同組合連合会 三条総合病院	82
新潟県厚生農業協同組合連合会 小千谷総合病院	83
新潟白根総合病院	84
新潟県立燕労災病院	85
新潟県済生会三条病院	86
社会医療法人仁愛会 新潟中央病院（整形外科のみ研修可能）	87
山形県立中央病院	88
鶴岡市立荘内病院	89
秋田赤十字病院	90
長野赤十字病院（脳神経外科志望者のみ研修可能）	91
水戸済生会総合病院	92
竹田総合病院	93
〈地域型病院〉	
新潟県立妙高病院	94
新潟県立柿崎病院	95
新潟県立松代病院	96
新潟県立加茂病院	97
新潟県立津川病院	98
新潟県立坂町病院	99
佐渡市立両津病院	100
津南町立津南病院	101
新潟県厚生農業協同組合連合会 あがの市民病院	102
新潟県厚生農業協同組合連合会 豊栄病院	103
新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院	104
五泉中央病院	105
医療法人恒仁会 新潟南病院	106
新潟臨港病院	107
医療法人愛仁会 亀田第一病院	108

協力型・地域型病院情報



【協力型病院】

- 1 新潟県立がんセンター新潟病院
- 2 新潟市民病院
- 3 立川総合病院
- 4 長岡赤十字病院
- 5 新潟県立中央病院
- 6 新潟県立新発田病院
- 7 済生会新潟病院
- 8 厚生連長岡中央総合病院
- 9 新潟労災病院
- 10 下越病院
- 11 厚生連柏崎総合医療センター
- 12 厚生連佐渡総合病院
- 13 新潟県立十日町病院
- 14 厚生連上越総合病院
- 15 厚生連村上総合病院
- 16 厚生連糸魚川総合病院
- 17 厚生連新潟医療センター
- 18 木戸病院

- 19 信楽園病院
- 20 魚沼基幹病院
- 21 国立病院機構西新潟中央病院
- 22 新潟県立吉田病院
- 23 新潟県立精神医療センター
- 24 厚生連三条総合病院
- 25 厚生連小千谷総合病院
- 26 新潟白根総合病院
- 27 新潟県立燕労災病院
- 28 済生会三条病院
- 29 新潟中央病院
- 30 山形県立中央病院
- 31 鶴岡市立荘内病院
- 32 秋田赤十字病院
- 33 長野赤十字病院
- 34 水戸済生会総合病院
- 35 竹田総合病院

【地域型病院】

- 36 新潟県立妙高病院
- 37 新潟県立柿崎病院
- 38 新潟県立松代病院
- 39 新潟県立加茂病院
- 40 新潟県立津川病院
- 41 新潟県立坂町病院
- 42 佐渡市立両津病院
- 43 津南町立津南病院
- 44 あがの市民病院
- 45 厚生連豊栄病院
- 46 厚生連けいなん総合病院
- 47 南部郷総合病院
- 48 新潟南病院
- 49 新潟臨港病院
- 50 亀田第一病院

〈協力型病院〉

①【新潟県立がんセンター新潟病院】

住 所	〒951-8566 新潟県新潟市中央区川岸町2-15-3		病床数：421床
診療科目	内科、精神科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、歯科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、緩和ケア内科、病理診断科		
研修責任者名	田中 洋史（副院長）	連絡先：shomu5@nigata-cc.jp 025-266-5111（代表）	連絡先担当者名：庶務課 臨床研修担当
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：2人、20年度：3人、21年度：3人、22年度：3人、23年度：4人、24年度：0人、25年度：5人、26年度：3人、27年度：4人、28年度：3人、29年度：3人、30年度：3人、令和元年度：3人 ・その他プログラム採用 平成16年度：10人、17年度：15人、18年度：16人、19年度：13人、20年度：1人、21年度：4人、22年度：3人、23年度：1人、24年度：1人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：1人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科、外科（消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、頭頸部外科、整形外科、形成外科） 選択研修：泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、放射線治療科、放射線診断科、病理、婦人科、小児科、緩和ケア科	内科17人、外科14人、婦人科3人、小児科3人、整形外科4人、呼吸器外科3人、泌尿器科4人、頭頸部外科2人、脳神経外科1人、皮膚科2人、放射線（診断科・治療科）8人、病理2人、緩和ケア科1人	内科4人、外科3人、整形外科1人、呼吸器科1人、頭頸部外科1人、脳神経外科1人、皮膚科1人、放射線（診断科・治療科）1人、病理1人
施設の概説・特徴			
昭和25年に「新潟県立新潟病院」として開設され、性病患者の治療と予防及び健康診断を目的に、内科・性病科の2科で開院した。 昭和33年に新潟県では全国に先駆けて「ガン対策推進委員会」を設置し、県民のガン対策について検討した結果、がんの診療と治療及び研究を目的とした総合センターの建設が決定され「新潟県立新潟病院」を拡充整備し、昭和36年1月から「新潟県立がんセンター新潟病院」と名称変更のうえ、総合病院として新たにスタートしました。 また、昭和62年に移転改築し、名称を「新潟県立がんセンター新潟病院」と改め今日に至る。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科は、呼吸器、消化器、血液、循環器、内分泌代謝の5分科がある。外来検査としては、内視鏡検査（上部消化管、大腸、気管支）、甲状腺エコー検査などの件数が多い。当院では、地域の医療機関との緊密な連携、診療に関する情報提供、検診従事者の研修など、新潟県全体の医療水準の向上のための様々な活動を行っている。また、血液悪性疾患及び固形腫瘍（乳癌、泌尿器癌、婦人科癌など）を対象として化学療法・造血幹細胞移植療法を実施、消化器内視鏡に於いては、その開発と技術の向上に先駆的役割を果たしている。更に、糖尿病・高脂血症などの代謝疾患、甲状腺・副腎疾患などの内分泌疾患を幅広く診断し、高血圧、狭心症、心筋梗塞、心不全、血管、動脈硬化などの循環器全般と一般的な腎臓病をも扱っている。 外科◆：完全な臓器別体制を取っており、疾患毎に必ず専門医が主治医となる。進行度に応じて縮小手術から拡大手術まで幅広い分野をこなし、早期な癌に対しては、QOLを考慮に機能温存手術を、高度進行癌に対しては、血管切除・再建や拡大郭清、合併切除を積極的に行っている。また手術のみならず化学療法、放射線療法、ホルモン療法にも力を入れている。 小児科：小児血液・悪性腫瘍の診断・治療が主体であり、造血幹細胞移植を含む高度医療からターミナルケアまでのトータルケアを中心とした医療を行っている。 婦人科：悪性疾患を中心とした婦人科疾患の診断と治療に参加できます。また、子宮鏡下手術や腹腔鏡下手術などの内視鏡手術も行なっています。 整形外科◆：骨軟部腫瘍、がんの骨転移、手の外科、関節疾患（関節リウマチ、変形性関節症）、再建外科（腫瘍切除後の組織欠損に対する血管付き組織移植による再建手術）おこなっており、またがんのリハビリも担当しています。 呼吸器外科◆：悪性肺腫瘍、特に肺がんの診断・外科治療・補助療法について、豊富な症例での実習が可能でです。 皮膚科：皮膚腫瘍・皮膚外科を主体とした高度専門医療を行っている。 脳神経外科：脳腫瘍患者を中心に一緒に診療を進めながら、神経学的診察、手術手技などを学んで行く。 放射線：放射線診断部門は、全診療科のCT、MRI検査を担当し、更に、超音波検査、消化管造影、血管造影、核医学検査等、幅広い画像診断業務を実施している。また、主に悪性疾患を対象に、動注治療・塞栓術・デバイス留置などのIVR（Interventional Radiology）治療を積極的に行っている。放射線治療部門は、全国有数の患者数を診療し、定位放射線治療をはじめ先進の放射線治療を行っている。 頭頸部外科◆：顔面、口腔、咽喉、喉頭などの頭頸部領域の癌腫いわゆる頭頸部癌治療（Head and Neck Surgery）が専門です。手術、放射線治療による癌の根治と頭頸部機能温存の両立を目指しています。 泌尿器科：泌尿器科各疾患、特に腫瘍性疾患について、標準的治療と先進的医療の実際を学ぶことができる。 形成外科◆：関係各診療科と緊密に連携し、腫瘍切除後の組織欠損に対し、自己組織などを用いて形態等の回復を図っている。			
研修の概説と特徴			
当院は、がんの診療と研究に重点を置いた病院として運営されているが、15病院を数える新潟県立病院における基幹病院の一つとして、総合的診療機能を併せ持っている。そのため、がんセンターとはいえ、一般臨床医としての基本的な臨床能力を修得するのみならず、各専門分野の入り口までの研修が可能である。			
研修医の当直			
1年次より週1回程度、指導医（主当直）とともに、副当直として研修当直する。2年次は、指導医又は上級医とともに、主当直として研修当直する。当直中に経験する症例は経験すべき項目を多く含んでいるので、実習記録に概略を記載する。 〈参考〉当直時間：午後5時15分～午前8時30分			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円、2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（自家用車の場合）職員と同じように支給、 時間外手当：1年目1,976円/時、2年目2,167円/時、当直手当：1年目10,000円/回、2年目20,000円/回 ●食事：昼食は職員食堂や売店が開店しているので不自由はない。 ●宿舍：個人準備 住居手当あり（最大27,000円） ●図書：文献：各種資料検索のための図書室が設置されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネットの接続が可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

②【新潟市民病院】

住 所	〒950-1197 新潟県新潟市中央区鐘木463番地7		病床数：676床
診療科目	血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓・リウマチ科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、新生児内科、皮膚科、形成外科、眼科、耳鼻いんこう科、脳神経内科、精神科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、産科、婦人科、泌尿器科、麻酔科、ペインクリニック外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、総合診療内科、緩和ケア内科、感染症内科、腫瘍内科、乳腺外科、脳卒中科、救急科、病理診断科		
研修責任者名	五十嵐 修一	連絡先：新潟市民病院教育研修室 kensyu@hosp.niigata.niigata.jp	連絡先担当者名：佐藤（教育研修室）
新臨床研修医指導実績	新潟大学臨床研修病院群研修プログラム：なし 新潟市民病院卒後臨床研修プログラム 平成16年度：9人、17年度：10人、18年度：10人、19年度：10人、20年度：9人、21年度：12人、22年度：12人、23年度：12人、24年度：11人、25年度：12人、26年度：11人、27年度：10人、28年度：13人、29年度：11人、30年度：12人、令和元年度：12人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（循環器、内分泌・代謝、呼吸器・感染症、腎臓・リウマチ、消化器、脳神経） 選択研修：脳卒中科、形成外科、泌尿器科、眼科、新生児内科、乳腺外科、耳鼻いんこう科	内科（循環器4人、内分泌・代謝1人、呼吸器・感染症3人、腎臓・リウマチ4人、消化器6人、脳神経5人）、脳卒中科4人、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科2人、新生児内科6人、乳腺外科1人	内科（循環器1人、内分泌・代謝1人、呼吸器・感染症2人、腎臓・リウマチ3人、消化器4人、脳神経5人）、脳卒中科4人、形成外科2人、泌尿器科3人、新生児内科5人、耳鼻いんこう科1人	
施設の概説・特徴			
<p>新潟市民病院は新潟医療圏の中心的な急性期病院であり、地域の病診・病連携の中核です。災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、感染症指定医療機関、エイズ治療ブロック拠点病院の指定も受けています。地域に根ざす第一線の病院であり、コモディシーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病連携や、診療所や開業医との病診連携も経験できます。当院の特徴として、3次救急を含む救急患者の豊富さがあり、救命救急・循環器病・脳卒中センターと周産期母子医療センターを併設しています。病院の理念は、「患者とともにある全人的医療」をめざすことで、ウィリアム・オスラーの言葉による「医学・医療は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」を基に、その信念を何時も全職員が忘れることなく毎日の業務に携わっています。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明・研修の概説			
<p>循環器内科：症例数が多く、広い範囲の循環器疾患が経験できます。各分野の研修施設に認定されており、専門研修が可能です。 内分泌・代謝内科：日本糖尿病学会認定教育施設です。 呼吸器内科・感染症内科：病棟・救急業務、学会・検討会を通して、技術・知識を高め、患者さん・スタッフからも頼られる医師を目指します。 腎臓・リウマチ科：すべての腎疾患に対して、病初期の診断治療から末期腎不全、腎代替療法の開始に至るまで、包括的に診療を行っている。 消化器内科：急性腹症、消化管・腹腔内出血などの救急症例が多く、各種消化器癌とあわせて、内視鏡・経皮・経血管インターベンションを駆使して治療にあたっています。 脳神経内科：麻痺重積発作や中枢神経感染症等の神経救急、神経免疫疾患や変性疾患の検査・治療を多数経験できます。 耳鼻いんこう科：耳鼻科全領域の手術を中心とした研修に加え、急性炎症や遺物、外相、鼻出血、眩暈、気道緊急などの救急医療も経験できる。 脳卒中科：脳梗塞、脳出血の超急性期治療を積極的に行っています。特に、急性主幹動脈閉塞の血管内治療は年間30-40件。（総血管内治療件数は75-90件） 形成外科：3次救急病院のため、顔面外傷に対する手術が多い。各科と連携した再建手術も行っている。皮膚腫瘍に関する紹介も多い。 泌尿器科：悪性腫瘍、泌尿器科救急疾患、尿路結石症などの研修が可能です。年間手術件数（前立腺生検含む）は約650件です。 眼科：専門は網膜硝子体疾患であり、網膜硝子体手術を年間230件ほど行っている。白内障手術は年間800件行っています。 新生児内科：総合周産期母子医療センターとして、周産期から一貫した胎児・新生児管理を行っています。超早産時の呼吸管理を含め、新生児学の基礎を学ぶことができます。</p>			
研修受け入れ可能人数			
2人/月（各科受け入れは1人/月）			
研修医の当直			
<p>当直は月に約4回です。 1年次研修医は17：15～24：00（翌朝までは院内待機）。2年次研修医は24：00～翌朝まで（24：00までは院内待機）、当直明けは休み。指導医とともに積極的にファーストタッチを行い、診療に対しての指導も受ける。</p>			
処 遇			
<p>●給与：1年次（月額）約310,000円 ※時間外勤務手当等を含まない額です。 2年次（月額）約340,000円 別途、期末手当支給あり。 ●食事：なし ●宿舎：なし ●居室：研修医専用の居室なし ●図書：24時間利用可能な図書室、サテライト版UpToDate、電子ジャーナル（欧文約60タイトル 和文メディカルオンライン）、図書司書2名 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能</p>			
※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。			

③【医療法人立川メディカルセンター立川総合病院】

住 所	〒940-8621 新潟県長岡市旭岡1丁目24番地		病床数：481床
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科		
研修責任者名	遠藤 彦聖 (臨床研修管理委員長)	連絡先：saiyou@tatikawa.or.jp	連絡先担当者名：亀山 智弘 (人事部)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：1人、20年度：3人、21年度：6人、22年度：5人、23年度：7人、24年度：4人、25年度：6人、26年度：6人、27年度：2人、28年度：1人、29年度：0人、30年度：2人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：8人、17年度：7人、18年度：7人、19年度：6人、20年度：7人、21年度：4人、22年度：5人、23年度：4人、24年度：5人、25年度：5人、26年度：11人、27年度：9人、28年度：6人、29年度：5人、30年度：10人、令和元年度：8人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科（呼吸器内科・消化器内科・腎臓内科・循環器内科・神経内科）、救急（循環器内科＋麻酔科）、外科（消化器外科・心臓血管外科）、小児科、産婦人科 選択研修：脳神経外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科	内科（内科）21人、内科（循環器）8人、内科（消化器）3人、内科（神経）3人、内科（内視鏡）3人、内科（肝臓）3人、内科（総合）11人、内科（アレルギー）1人、透析2人、腎臓2人、外科（外科）11人、外科（消化器）4人、外科（大腸肛門）1人、外科（心臓血管）5人、脳神経外科3人、脳神経外科（血管内）3人、脳神経外科（脳卒中）2人、整形外科4人、整形外科（手外科）1人、泌尿器科3人、性機能1人、小児科5人、小児科（アレルギー）1人、産婦人科3人、放射線2人、麻酔科1人、耳鼻咽喉科1人	内科（内視鏡）1人、内科（心カテ）2人、内科（神内）1人、内科（腎臓）1人、内科（透折）1人、外科（外科）7人、外科（大腸肛門）1人、外科（消化器）3人、脳神経外科（血管内）1人、外科（心臓血管）2人、泌尿器科2人、整形外科（手外科）1人、産婦人科1人、麻酔科1人、小児2人
施設の概説・特徴			
平成28年11月より新築移転。長岡市救急受け入れ3病院の中の一隅をなし、循環器系は医療圏を越えた救急搬送があり、救急搬送件数は年間約4,000件と多く、屋上ヘリポートへのドクヘリ搬送も増えている。循環器・脳血管センターがあり、循環器疾患患者さんの占める割合が高い。80列&320列マルチスライスCTや1.5テスラ&3テスラMRI等の最新医療機器の導入に努力している。移転を機に導入したハイブリッド手術室を有し、県内初のTAVI認定施設となっている。スタッフ医師の半数は新潟大学以外の出身で占められ県外の情報も受け入れ易い。医局はオープンフロアオフィス型で研修医もこのなかにデスクがあり、年代や科を越えてコミュニケーションが取りやすい環境である。コーメディカルが協力的である。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科は上部・下部消化管内視鏡検査及び治療で年間約9,000件の実績がある。腎臓内科ではCKDの診断・治療を総合的に行っている。呼吸器内科は、気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺がんの症例が多い。循環器内科は、指導医も充実しており、循環器疾患をはじめ原因不明疾患など、多くの臓器別に分類できない内科救急を緊急診療として位置付けている。 外科は消化器外科として腹腔鏡手術を積極的に行っている。心臓血管外科は、開心術（オフポンプ等）及び大動脈ステントグラフト術が300例と多く、全身麻酔手術数は500例行い、医療圏を越えた緊急手術も多い。 脳神経外科は、血管内手術を積極的に行い、外科手術でも多くの疾患に対応している。 整形外科は、緊急での外傷や骨折の緊急手術も多い。産婦人科の年間分娩数は約800件、不妊治療にも力を入れている。 放射線科は医療機器も充実しており最新の画像読影が経験できる。			
研修の概説と特徴			
West L. A. Medical Center での短期研修経験を選択できます。 担当医として研修の時も患者さんの他科受診のときは一緒に受診し、所属中の科以外での指導を積極的に受け入れるようにすること。また臨床談話会、救急診療検討会、研修医ジャーナルクラブには75%以上の出席が求められる。 精神科：関連病院の柏崎厚生病院での研修になるが、協力型としては対応していない。 地域医療：長岡市救急車乗務1週間と関連病院のリハビリテーション、老人地域保健などを体験するが、協力型としては対応していない。			
研修医の当直			
1年次は救急指定日に指導医および2年次研修医につき救急診療を学び、ファーストタッチはない。2年次は月2～3回、指導医と共に救急診療にあたる。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）486,000円（諸手当込み）、当直手当 なし 2年次（月額基本給）573,000円（諸手当込み）、当直手当 救急指定日：45,000円（当直×回数） ●食事：昼夜共に院内レストランおよびコンビニ（seven eleven）、または外食で対応。 ●宿舍：市街病院借り上げマンションまたは病院近くのアパート。どの場合も57,000円/月額の補助が出る。 ●居室：医局オープンフロア（研修医エリア）に専用机および研修医休憩室あり。 ●図書・文献：専任司書管理の図書室完備。Up to date、医中誌 Web、メディカルオンライン契約。 ●インターネット環境：各自 PC にインターネット接続可。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

④[長岡赤十字病院]

住 所	〒940-2085 新潟県長岡市千秋2-297-1		病床数：592床
診療科目	内科、循環器科、神経内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、歯科・口腔外科、消化器外科、病理診断科、救急科		
研修責任者名	竹内 学 (統括診療部長 兼 消化器内科部長)	連絡先：kensyu@nagaoka.jrc.or.jp 0258-28-3600 (代表)	連絡先担当者名：福井 大介 (教育研修推進室)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：3人、21年度：2人、22年度：4人、23年度：3人、24年度：1人、25年度：2人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：0人、29年度：1人、30年度：1人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成16年度：6人、17年度：5人、18年度：8人、19年度：5人、20年度：4人、21年度：8人、22年度：7人、23年度：8人、24年度：8人、25年度：8人、26年度：8人、27年度：10人、28年度：10人、29年度：9人、30年度：11人、令和元年度：11人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科(循環器、呼吸器、消化器、内分泌、腎臓、膠原病、血液、感染症、神経)、外科(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、耳鼻咽喉科)、産婦人科、小児科、救急科 選択研修：脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、麻酔科、形成外科、放射線科、病理診断科、総合診療科	内科(総合内科)25人、(循環器)4人、(呼吸器)5人、(消化器)7人、(消化器内視鏡)5人、(肝臓)3人、(透析医学)2人、(内分泌)1人、(腎臓)2人、(血液)5人、(神経内科)4人、(リウマチ)5人、外科(一般外科)14人、小児科10人、産婦人科3人、麻酔科4人、心臓血管外科3人、呼吸器外科2人、整形外科8人、脳神経外科4人、皮膚科1人、泌尿器科3人、眼科3人、耳鼻咽喉科3人、小児外科1人、形成外科2人、放射線科3人、病理1人、救急6人	内科(総合内科)13人、(呼吸器)2人、(消化器)3人、(消化器内視鏡)2人、(肝臓)1人、(透析医学)1人、(内分泌)1人、(腎臓)2人、(血液)4人、(神経内科)4人、(リウマチ)3人、外科(一般外科)7人、産婦人科2人、脳神経外科3人、泌尿器科2人、小児科4人、心臓血管外科1人、小児外科1人、病理1人、救急1人
施設の概説・特徴			
がんの集学的・集団的治療、救命救急医療を二本柱に中越地域の基幹病院として医療を担ってきている。この他総合周産期医療、非血縁者間骨髄採取施設、神経難病基幹協力病院など、各々の症例数も多くさまざまな研修が可能である。また、新潟県の基幹災害拠点病院であり、研修中の地震や水害時には研修医も医療救護班員として活躍した。			
研修受け入れ可能診療科の説明・研修の概説			
内科：循環器、呼吸器、消化器、腎・膠原病、内分泌、血液、神経内科の分野に分かれているが、各科検討会の他に週1回内科検討会を行い、専門外の勉強会を行っている。 外科◆：消化器外科は悪性腫瘍が主で、その他良性疾患などバラエティに富んだ疾患を経験できる。 脳外科：脳血管障害、脳外傷の治療や血管内治療、脳腫瘍、機能脳神経外科などの中枢神経系疾患全体の診療を行っている。 整形外科：リウマチ科、関節外科、手の外科、脊椎外科の専門医がおり、外傷学から特殊疾患・手術まで症例は豊富である。 心臓血管外科・呼吸器外科◆：開心術、肺癌をはじめ腹部大動脈瘤、末梢血管など豊富な手術を経験できる。 泌尿器科：腎、膀胱、前立腺の悪性腫瘍の根治手術、経尿道的内視鏡手術、腹腔鏡手術を高いレベルで積極的に行っている。 眼科：診療範囲は広範囲で手術数も多い。 耳鼻咽喉科◆：めまい患者さんから腫瘍の手術まで幅広い研修が可能である。 小児科：新生児集中治療室を有し、一次医療から専門医療まで幅広い診療を行っている。 産婦人科：分娩数は月50件以上あり、手術も多い。総合周産期母子医療センターとして周産期医療に力を入れている。 麻酔科：年間3,000例を超える手術の麻酔管理の術後管理まで経験できる。 救急科：救命救急センターとして3次救急患者の搬送を365日受け入れており、ICU病棟等での全身管理も行う。 皮膚科：手術、レーザー治療、褥瘡回診、病棟往診など、幅広く治療にあたる。 形成外科：顔面外傷などの外傷や、先天性疾患から再建手術まで、多くの治療を経験できる。 総合診療科：入院患者のコンサルトや内科的管理のサポートなど、病院総合医としての研修を行う。 放射線科：画像診断、放射線治療まで経験できる。 病理部：月1回のCPCを主催し、臨床に直結したデータと先進的な検索手段を研修できる。			
研修医の当直			
長岡市の救急体制は3病院(長岡中央総合病院、立川総合病院)での輪番制になっており、救急当番日には上級当直医の指導のもと、救急外来の日当直を希望して入ることができる(ただし、基幹型研修医との調整が必要)。また、この他にも産科日当直や小児科日当直に入ることができる。			
処 遇			
●給与：1年次(月額基本給)380,000円、2年次(月額基本給)460,000円(諸手当)時給外・宿日直・休日手当、出張旅費年間150,000円・論文投稿年間100,000円補助 ●食事：昼食は職員食堂や売店。夕食は職員食堂に配達を依頼できる。 ●宿舍：借り上げ宿舍あり(月額18,000円+駐車場5,000円の自己負担、光熱水費除く)、個人準備 住居手当あり(上限28,500円)病院周辺に民間アパート多数あり ●居室：研修医専用の居室あり。 ●図書：24時間利用可能。各領域の主要学会誌、各種ジャーナル、インターネット環境も整備されている。 ●インターネット環境：図書室の他に各自のPCにも接続可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科(必修)担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑤【新潟県立中央病院】

住 所	〒943-0192 新潟県上越市新南町205		病床数：530床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、眼科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科		
研修責任者名	長谷川 正樹（病院長）	連絡先：shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp 025-522-7711（代表）2341（内線）	連絡先担当者名：中村 翼（庶務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：3人、18年度：2人、19年度：2人、20年度：2人、21年度：5人、22年度：8人、23年度：6人、24年度：5人、25年度：7人、26年度：7人、27年度：5人、28年度：5人、29年度：6人、30年度：5人、令和元年度：3人 ・その他プログラム採用 平成16年度：5人、17年度：4人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：2人、21年度：3人、22年度：3人、23年度：9人、24年度：4人、25年度：5人、26年度：6人、27年度：6人、28年度：16人、29年度：17人、30年度：19人、令和元年度：18人		
研修受け入れ可能診療科*	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（呼吸器・消化器・血液・感染症・腎臓・膠原病・内分泌・循環器・神経）、小児科、産婦人科、外科（外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科） 選択研修：整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、病理診断科、皮膚科、形成外科、眼科、救急部門、麻酔科	内科（内科）11人、内科（血液）2人、内科（呼吸器）5人、内科（消化器）4人、内科（腎臓）3人、内科（神経）2人、内科（循環器）6人、救急2人、小児科5人、産婦人科3人、外科（外科）13人、心臓血管呼吸器外科1人、小児外科1人、整形外科8人、脳神経外科4人、耳鼻咽喉科2人、泌尿器科3人、形成外科2人、麻酔科4人、放射線科5人、病理診断科1人、眼科1人	内科（内科）1人、内科（血液）1人、内科（循環器）1人、内科（消化器）2人、外科（外科）5人、心臓外科1人、耳鼻咽喉科1人、小児外科1人、泌尿器科1人、麻酔科2人、病理診断科1人、皮膚科1人、放射線科2人	
施設の概説・特徴			
救命救急センターを併設した530床の上越地域の中核病院で、1日約1,100人の外来、約400人の入院患者の診療を行っている。救急車搬入患者数は年間約4,000件と救急診療を行う急性期病院の一方、がん診療連携拠点病院としてがん医療に取り組んでいる。また、新生児集中治療室を備えた周産期から新生児、小児医療の連携が生かされた病院として充実した病診連携のもとに治療を行っている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：高度先進医療を取り入れ、救急から、がん診療、慢性期疾患、終末期医療にいたる地域の中核施設として、診療し、消化器内視鏡治療、PTCDなどの胆道系疾患の観血的治療、心臓カテーテル治療、血液透析治療、骨髄移植などの治療実績は県内でも有数。 外科◆：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科に分かれて診療しており、どの分野も県内有数の手術件数と治療成績を誇っている。近年増加傾向にある乳癌患者の集学的治療や、消化器系の腹腔鏡手術、呼吸器系の胸腔鏡手術にも積極的に取り組んでいる。 小児科：NICUを完備し、新生児医療の充実は県内屈指である。指導医がマンツーマンに指導し、小児科医の診療を実践できる。 産婦人科：異常分娩の紹介や正常分娩も多く、様々な症例を経験できる。婦人科腫瘍の手術、化学療法、放射線治療も積極的に行っている。 小児外科◆：急性疾患、先天性疾患、悪性腫瘍などの小児領域の外科手術を行うNICU併設の拠点病院である。 心臓血管呼吸器外科◆：肺癌を中心とした呼吸器疾患の治療を呼吸器内科、放射線科と連携し行っている。心臓血管外科は、救急の大動脈瘤手術、冠動脈手術から、先天性心疾患、弁膜症手術などを県内有数の症例数で経験できる。 整形外科：骨折、外傷などの救急疾患、人工関節手術、脊髄疾患、骨悪性腫瘍の治療、マイクロサージェリー、リハビリなど。 脳神経外科：脳血管障害、頭部外傷などの救急診療に加え、脳腫瘍、特に下垂体腫瘍手術を行う、県下唯一の施設である。 耳鼻咽喉科：炎症性疾患、外傷などの救急疾患のみならず、県内でも数少ない悪性腫瘍の根治手術などを行い積極的に診療している。 泌尿器科：腎移植認定施設であり、通常の泌尿器科疾患に加え、悪性疾患の治療も積極的に推進している。 放射線科：診断部門は、CT、MRI、シンチ、血管造影、超音波診断ができ、治療部門は、CTガイド下の精密放射線治療が可能。 形成外科：麻酔科と連携し重症な熱傷の治療を行っている。 病理診断科：県内屈指の検体数の診断を行い、病理解剖、臨床病理カンファレンスも盛ん。電子顕微鏡あり。 救急部門：救急外来での救急搬送患者の診療にあたり、実践的なトレーニングを行う。挿管等は麻酔科とタイアップして研鑽する。ACLSの指導、JATEC対応外傷コース実施。 麻酔科：全身麻酔の件数は県内有数で、終末期緩和医療も行う。手技も多く経験できる。			
研修の概説と特徴			
早期に救急外来の診療に対応できる技量の修得に努め、救急外来、救命救急センターでの診療で、十分な救急診療が経験できる。小児科と産婦人科の研修は、新生児医療を考え、可能な限り連続的に行っている。夜間、休日を問わず、必要時には、専門医のコンサルテーションをface to faceで行える全科拘束体制を敷いている。 臨床病理カンファレンスは、月に1回開催しており、その他の検討会は、各科の診療体制に従うようになっている。 研修医向けの講義は、週1回ずつ、事前のテーマに従い実施。月に1回程度、医局集談会や院内研修会で講演がある。			
研修医の当直			
救命救急センター当直として、外科系、内科系各1人と、本院当直1人、小児科当直1人の計4人が常時当直している。研修医の当直は、1年次は副直で、2年次は「研修医当直」として行い、内科系・外科系当直医師が指導医としてバックアップする。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円（諸手当）宿日直手当40,000円（月4回）平均支給額 約450,000円（諸手当込） 2年次（月額基本給）340,000円（諸手当）宿日直手当80,000円（月4回）平均支給額 約600,000円（諸手当込） 時間外手当：勤務時間外に診療行為を行った実働時間に対し支給 宿日直手当：1回につき、1年次 10,500円、2年次 21,000円 を支給 ●食事：院内食堂、仕出し弁当、売店での弁当販売、24時間営業のコンビニ、スーパーマーケットが近隣にある。 ●宿舍：借り上げ宿舍あり、住居手当あり（上限27,000円） ●居室：研修医専用医局あり、仮眠ベッド（研修医用）3床 ●図書：文献：医学中央雑誌、Up-to-date、Cochrane Library、NEJM、Blood、Chest、Circulation など ●インターネット環境：各個人の机からインターネット接続可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

⑥【新潟県立新発田病院】

住 所	〒957-8588 新潟県新発田市本町1-2-8		病床数：478床
診療科目	内科、循環器内科、脳神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、小児科、産婦人科、精神科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、皮膚科、救急科、病理診断科、乳腺外科、消化器外科		
研修責任者名	塚田 芳久（院長）	連絡先：shomu@sbthp.jp 0254-22-3121（代表）	連絡先担当者名：川合 弘一（診療部長兼教育 研修センター長）
新臨床研修 医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：3人、18年度：2人、19年度：1人、20年度：2人、21年度：1人、22年度：1人、23年度：2人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：1人、29年度：1人、30年度：1人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：12人、17年度：12人、18年度：12人、19年度：11人、20年度：12人、21年度：12人、22年度：12人、23年度：12人、24年度：12人、25年度：13人、26年度：15人、27年度：16人、28年度：15人、29年度：14人、30年度：15人、令和元年度：17人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（消化器、循環器、呼吸器、腎臓、血液、代謝内分泌、脳神経）、救急科、外科（消化器、呼吸器、心臓血管、乳腺）、小児科、産婦人科、精神科 選択研修：泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、整形外科、脳神経外科、病理診断科、麻酔科	内科（総合内科専門医）13人、内科（循環器）3人、内科（消化器）8人、内科（消化器内視鏡）5人、内科（腎臓）2人、内科（血液）2人、内科（脳神経）3人、内科（肝臓）3人、呼吸器内科4人、内科（糖尿病）1人、内科（内分泌代謝）2人、外科11人、外科（心臓血管外科）1人、外科（呼吸器外科）1人、整形外科5人、脳神経外科4人、小児科6人、産婦人科3人、精神科2人、麻酔科5人、泌尿器科3人、耳鼻咽喉科1人、放射線科3人、病理1人、皮膚科1人	内科（内科）24人、内科（消化器）4人、内科（消化器内視鏡）3人、内科（肝臓）1人、内科（呼吸器）3人、内科（腎臓）3人、内科（血液）2人、内科（脳神経）3人、内科（内分泌代謝）1人、内科（循環器）3人、救急3人、産婦人科1人、小児科5人、外科7人、外科（心臓血管外科）1人、整形外科6人、精神科2人、麻酔科5人、泌尿器科3人、病理1人、皮膚科1人、耳鼻咽喉科1人、脳神経外科4人、放射線科3人、総合診療3人	
施設の概説・特徴			
当施設は、新潟県北部に位置し、新発田・村上地区の広域基幹病院としてこの地域の高次医療を担当している。年間6,000台を越える救急搬送があり、1次から3次救急までの幅広い救急診療を経験できる。また、同一医療圏内地域医療・地域保健の研修が可能な施設があり、プライマリケアを重視する新臨床研修制度における研修環境に恵まれている。平成18年11月にはJR新発田駅近くに移転し、救命救急センターの設置、電子カルテの導入、高度医療装置の整備が行われ、総合病院としての機能が格段に向上した。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：消化器は肝胆道系疾患の診療、消化管内視鏡診断・治療などを幅広く行っている。腎臓内科は、最近増加している糖尿病性腎症による慢性腎不全に対して初期の段階からの包括的治療を行っている。血液は、血液性悪性腫瘍に対して幹細胞移植治療を含む積極的治療を行っている。代謝内分泌は1～2週間の糖尿病教育入院を行っている。呼吸器は肺癌の集学的治療（診断、外科的・内科的治療、放射線治療）に対応可能。 外科◆：年間手術件数は900件程度で、そのうち緊急手術は18%を占める。胃癌、大腸癌は100例を越え、手術から化学療法、終末期医療まで行っている。小手術から緊急、癌治療まで幅広い研修が可能である。 心臓血管外科・呼吸器外科◆：心臓血管外科は、心臓血管手術200件、呼吸器外科は呼吸器手術100件を行っており、研修医にも執刀の機会がある。 整形外科：県北地域全体の救急外傷に対応しており、特に高齢者の大腿骨近位部骨折の手術件数は年間300件に及んでいる。他に、人工関節置換術や脊髄手術など多岐にわたる手術を行っている。 脳神経外科：脳血管疾患、神経変性疾患など幅広い診療を行っている。平成16年のスギヒラタケ脳症流行の際、最初にその存在を指摘した。 脳神経内科：脳神経内科は脳卒中超急性期治療、けいれん、意識障害などの神経救急疾患や変性疾患の治療を行っている。 精神科：地域の拠点として、精神科一般と救急、リエゾン、緩和ケア、学習会など幅広く深く、且つ積極的に診療を行っている。 小児科：県北の基幹病院として新生児集中治療室と救命救急センターが設置されたため、小児期全般にわたって1次から3次救急まで幅広い領域の研修が可能である。また検討会、勉強会を積極的におこなっている。 産婦人科：地域同産期センターとして種々の異常妊娠・分娩を扱っている。年間分娩数は約300件。 麻酔科：手術の麻酔業務、ペインクリニックを行っている。手術室の運営、救命救急センターの運営管理にもあたっている。 泌尿器科：悪性腫瘍、尿路結石症、排尿障害、泌尿器救急疾患など幅広い研修が可能である。年間手術件数は体外衝撃波破砕術も含めると約700件。 耳鼻咽喉科：後期研修で習得すべき副鼻腔・頭部手術手技や耳鼻咽喉科救急症例を幅広く経験できる。新病院移転に伴って独自の画像ファイリングシステムを導入し、外来・病棟治療の効率化を進めている。 放射線科：一般画像診断業務だけでなく、放射線治療、インターベンション治療も行っている。 病理診断科：術中迅速診断をはじめ広く病理診断業務を行っている。月1回CPCを実施している。			
研修の概説と特徴			
医師としての基礎づくりのため、内科から研修が始まる。内科は各臓器別（循環器、呼吸器、消化器、腎、代謝内分泌、血液、脳神経）の診療科を、5週ずつローテートする。その後外科、整形外科、脳外科、麻酔、救急、産婦人科、小児科、精神科、放射線科とまわる。研修の評価は、レポート、モーニングカンファレンスでの症例提示内容などで評価している。			
研修医の当直			
当直は、月に2～3回程度で、最初の1年目から指導医とともに、副当直として研修当直する。積極的にファーストタッチを行い、必要に応じて指導医からのチェックを受ける。必ず上級医と一緒に当直であり、コンサルテーションしやすい状況にある。当直翌日が、平日勤務の際は、勤務時間を制限することがある。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円、2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（80km超）、距離に応じた区分により支給、時間外手当：月平均183,000円（時間外勤務時間に応じ支給）、当直手当：1年目10,500円/回、2年目21,000円/回（概ね4回） ●食事：昼は院内の食堂からの出前や売店から購入、朝、夜は院内のコンビニエンスストアの利用が可能。 ●宿舍：借り上げ宿舎あり 住居手当あり（支給額は住宅のグレードにより異なる）、上限27,000円 ●居室：有り（研修医専用の大部屋） ●図書・文献：図書室で各ジャーナル、学会誌の閲覧が可能。インターネット接続環境があり、Medline や日本語文献検索が可能。 ●インターネット環境：各デスクより可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を習得する。

⑦【済生会新潟病院】

住 所	〒950-1104 新潟県新潟市西区寺地280-7		病床数：425床
診療科目	血液内科、腎・膠原病内科、代謝・内分泌内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、形成外科		
研修責任者名	多賀 紀一郎（副院長）	連絡先：rinken@ngt.saiseikai.or.jp 025-233-6161（代表）	連絡先担当者名：上結 可南子（教育研修センター）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：2人、18年度：1人、19年度：1人、20年度：3人、21年度：3人、22年度：3人、23年度：1人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：2人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：13人、17年度：13人、18年度：13人、19年度：9人、20年度：6人、21年度：8人、22年度：14人、23年度：14人、24年度：13人、25年度：14人、26年度：14人、27年度：14人、28年度：14人、29年度：11人、30年度：12人、令和元年度：17人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（消化器、腎膠原病、呼吸器、代謝内分泌、循環器、血液）、外科、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、眼科、泌尿器科、病理診断科、耳鼻咽喉科、麻酔科	内科（消化器）7人、内科（腎膠原病）3人、内科（呼吸器）4人、内科（代謝内分泌）1人、内科（循環器）3人、外科8人、麻酔科4人、小児科4人、産婦人科5人、整形外科5人、眼科2人、泌尿器科2人、病理診断科1人、耳鼻咽喉科1人、内科（血液）1人、内科（神経）1人、皮膚科1人	内科（消化器科）2人、内科（腎膠原病）1人、内科（代謝内分泌）1人、内科（呼吸器）1人、外科b 6人、麻酔科3人、産婦人科2人、泌尿器科2人、病理診断科1人	
施設の概説・特徴			
各診療科を有する総合病院として、幅広い疾患分野の医療や二次救急に対応でき、各専門分野の学会認定施設としての指定も受けている。また、臨床部門と病理部門との検討も活発に行っている。さらに、地域医療支援病院の認可を受け、地域における基幹病院としての役割を担うとともに、病診連携に基づくオープンシステムを稼働し、本システムによる入院ベッドが60床前後稼働している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：地域医療支援病院として地域の内科疾患全般の診療を行っており、日常頻度の高い疾患から専門的医療を必要とする疾患まで幅広い疾患を経験することができます。さらに、各種検討会やカンファレンスを行い、複数の医師やコメディカルスタッフとの連携を通して、チーム医療や患者との接遇を学ぶことができます。また、多数の学会専門医修練施設としての認定を受けています。 外科◆：消化器がんを中心にイレウスや腹膜炎、外傷などの救急疾患を含め、消化器一般外科の幅広い疾患を多数例診療しています。上部・下部消化管、肝胆膵の分野別に専門医がおり、3チーム体制で年間800例以上の手術を、腹腔鏡下手術など低侵襲手術や機能温存手術を積極的にこなしています。 麻酔科：年間3,000例を超える手術患者の麻酔管理を行い、十分な症例数で、末梢静脈点滴確保から各種ライン確保、挿管、呼吸・輸液・循環管理等医療の基本技術が体験できます。 小児科：当院小児科は、新潟市において一次・二次医療を担う施設であり、数多くの common disease を発症初期から経験できます。産科は県内でトップレベルの分娩数があり、小児科医の判断、治療を要するケースに多く関わります。教科書の記載からは実感できない病態、子供と関わる方々とのコミュニケーション、知識の習得と実践、について積極的に学んでいただきたいと願います。 産婦人科：常勤医6名（専門医5名）で、分娩・内視鏡手術・体外受精を3本の柱とし、いずれも県下1～2の症例数です。キラキラの受精卵、可愛い胎児のエコー画像など「美しい風景に出会う」研修であり、帝王切開、腹腔鏡手術を研修医も執刀する「手を動かす研修」です。 整形外科：関節外科を中心に診療を行っています。肩・肘・股・膝・足関節に対する人工関節や骨切り術、関節鏡視下手術を多数施行しています。それに加え、四肢の外傷に対する治療も積極的にこなしています。積極的に手術に参加して研修していただきます。 眼科：糖尿病網膜症や難治性網膜硝子体疾患の硝子体手術では、北日本有数の拠点。最新のテックを駆使して治療にあたっています。白内障手術（眼内レンズ）や緑内障手術・網膜剥離手術も多く、年間の手術件数は約1,000件です。また、デジタル画像ファイリングシステムを全国に先駆けて採用しています。また、ロービジョンクリニックも実践しています。 泌尿器科：尿路結石症と前立腺肥大症の手術療法を中心に診療を行っています。一般泌尿器科としてはやや特殊かもしれませんが、尿路結石症と前立腺肥大症は症例数も多いので、将来他科へ行っても良い経験になります。 病理診断科：当科の年間の組織診、細胞診、術中迅速、病理解剖はそれぞれ約5,300、8,000、130、10件程度です。臨床と乳腺検討会、消化器検討会、CPC（臨床病理検討会）を定期的に行い、研修医に必須のCPCレポート作成にも積極的に関わっています。			
研修の概説と特徴			
これまで習得してきたプライマリ・ケアの知識と技術を基に、当院において各診療科で頻度の高い一般的な疾患を数多く経験してもらい、並行して救急・重症例などを担当することによって、確実に医師としての態度・技術・知識のステップアップが図れるようになっている。また当院で力を入れているオープンシステムを経験することにより、地域医療における医師・病院の役割を理解してもらえるようにしている。			
研修医の当直			
二次救急病院として、内科輪番（月3～4回）、外科輪番（月1回）、小児科輪番（月5～6回）、産婦人科輪番（月7～14回）を担当している。救急外来患者数は年間5,000人程度で、その内救急車で来院した患者は2,500人程度となっている。 当直は、診療科の担当指導医1～2人と研修医1～2人体制で実施する。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）380,900円（諸手当）当直手当40,000円（10,000円/回×4）、超過勤務手当100,000円（1カ月平均） 2年次（月額基本給）410,000円（諸手当）当直手当66,000円（16,500円/回×4）、超過勤務手当100,000円（1カ月平均） ※通勤手当、救急勤務医手当、救急患者受入手当、学会出張費等あり ●食事：売店・ブッカフェ（職員割引あり）、弁当の注文、近隣に大手スーパー有 ●宿舍：個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ●居室：研修医専用の居室有 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室有 Pub Med / Cochrane Library / 医中誌 / Medical Online 医学図書：国内 4,521冊 / 国外 256冊 医学雑誌：国内 196種類 / 国外 77種類 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手術と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

⑧【新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院】

住 所	〒940-8653 新潟県長岡市川崎町2041		病床数：500床
診療科目	内科、消化器内科、神経内科、循環器内科、腫瘍内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、脊椎脊髄外科、リウマチ科、放射線治療科、臨床検査科、救急科（33科）		
研修責任者名	富所 隆（院長）	連絡先：kenshu@nagachu.jp 0258-35-3700（代表）	連絡先担当者名：和田 博美（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：2人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：6人、21年度：3人、22年度：2人、23年度：0人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：2人、27年度：2人、28年度：0人、30年度：1人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成16年度：6人、17年度：5人、18年度：6人、19年度：5人、20年度：8人、21年度：7人、22年度：6人、23年度：8人、24年度：8人、25年度：8人、26年度：7人、27年度：8人、28年度：9人、29年度：9人、30年度：10人、令和元年度：10人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（内科、循環器、消化器、呼吸器、内分泌、糖尿病、腎臓、総合診療科、神経内科）、救急、小児科、産婦人科、外科（消化器、呼吸器） 選択研修：整形外科、眼科、放射線科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、腫瘍内科、麻酔科（いずれの診療科も4週間以上の研修期間が必要）、皮膚科	内科（循環器）3人、内科（消化器）7人、内科（呼吸器）4人、内科（糖尿病）1人、内科（血液）2人、神経内科3人、総合診療科1人、小児科6人、産婦人科4人、外科（消化器）11人、外科（心臓血管）1人、外科（呼吸器）2人、整形外科6人、泌尿器科3人、放射線科4人、麻酔科5人、脳神経外科3人、形成外科1人、眼科1人、耳鼻咽喉科1人、皮膚科1人、病理部1人、検査科1人	内科（血液）2人、内科（消化器）4人、内科（糖尿病）1人、小児科1人、産婦人科1人、外科（消化器）6人、整形外科2人、泌尿器科3人、放射線科2人、麻酔科5人、総合診療科1人、神経内科2人、病理部1人、検査科1人	
施設の概説・特徴			
平成17年10月に長岡市街地より郊外に新築移転し、病床数500床で1日外来患者数1,600人を超える総合病院であり、長岡地区の中心的な医療施設となっております。紹介率40%以上を維持し、地域連携も密に行っております。 先進的な医療技術だけでなく、救急医療や地域に視点を置いたプライマリ・ケアが確実に行えるよう、必要な知識・技術・態度が身につけられるように、指導しております。平成18年8月がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成22年12月には化学療法室を30床に増床しました。また、2019年4月より高度治療室（HCU）病棟12床の運用が開始されました。放射線治療棟による放射線治療の拡充も図ります。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：利用域の全般にわたって高度な医療を実践している。循環器は急性期疾患の心臓カテーテル検査に力を入れ、消化器は内視鏡診断や内視鏡を用いた治療に積極的に取り組んでいる。呼吸器は地域における肺癌に対する診断・治療の機関施設であり、内分泌・糖尿病では糖尿病、甲状腺疾患、肥満症、動脈硬化症等の疾患群についての診療を担当している。腎疾患や血液疾患なども透析・化学療法など広く対応しており、内科全般の研修が十分に可能である。 神経内科：常勤医2人で、病棟は脳外科と一緒に毎週合同カンファレンスを行っている。 救急：総合診療科は診断のついていない、ときにどの領域の専門分野の疾患なのかのトリアージすらされていない症例の初期対応を行う診療科である。総合診療科外来と救急外来があり、総合診療科外来の主たる業務は、診断を付けることが第一に、その診断に基づいて専門診療科への診療依頼をするか、あるいは総合診療科にて治療を行うかを判断することになる。 救急外来は本来日中の診療時間内に行うべき診療の臨時対応となるが、まず緊急を要する、場合によって致命的となりうる疾患の存在を疑い、その可能性があるならばその専門領域での診療に取り掛かる。そこまでの疾患は考えにくいが早めの治療（場合により入院にて）が必要ならばその対応を、後日でもよいならば応急処置を行って後日改めて来院していただくこととなる。そうした振り分け（トリアージ）を行っていくことが主な業務内容となる。 小児科：小児科医7人で幅広く小児疾患を扱っている。感染症から喘息など、急性期疾患から慢性期疾患まで研修することが可能である。 産婦人科：分娩数は年間800件前後で、県内有数の数を誇っている。その他婦人科悪性腫瘍や更年期など幅広い領域の診療を行っている。 外科◆：手術件数は、県内有数の経験数である。消化器外科では、内視鏡による手術を積極的に進めており、胸部外科では、呼吸器内科とともに肺癌に対する集約的治療を行っている。 麻酔科：麻酔科医4人で全ての麻酔を担当している。 整形外科：外傷による急性期医療のみならず、整形外科全ての分野において、高いレベルの治療を行っている。 泌尿器科：泌尿器科癌に対する集約的治療および、結石に対しては碎石療法などを積極的に進めている。 眼科：地域のあらゆる分野の眼科疾患患者の相談や紹介を受けており、一定の水準で対応可能な体制を維持している。 放射線科：診断学のみならず放射線治療にも積極的に取り組んでいる。平成30年度、治療機器の更新をしている。 脳神経外科：地域におけるあらゆる脳神経外科領域、特に、脳神経血管領域における中心センターの役割を果たしている。			
研修の概説と特徴			
当院での研修開始時期によって多少の差はあるが、8週間を一つの単位として各診療科を研修する。内科での研修は研修医と相談の上、希望する診療科を選択してもらい、研修先を決定する。全ての診療科で、マンツーマンの指導医を配し、適切な指導を行えるようにしている。二年次の選択研修では上記の選択科から自由に選び、研修を自ら組立てる。			
研修医の当直			
研修1年目では、上級の当直医と併に診療にあたり、研修医は副直としてその任に当たる。診察・治療の見学から開始し、徐々に診療の補助を行っていくこととなる。研修2年目では、研修中の診療科指導医とともに当直を行うが、救急・夜間の患者のファーストタッチを行い、必要に応じて、指導医のアドバイス、指導を受けることとなる。週に2回、長岡市内の救急当番日を担当するが、内科医師、外科系医師及び研修医2人の計4人体制で当直にあたる。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）、時間外研修手当 厚生連規定による、当直研修手当10,000円/回、通勤手当（内規による） 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）、時間外研修手当 厚生連規定による、当直研修手当20,000円/回、通勤手当（内規による） ●食事：昼食は職員食堂や売店が開店して不自由はないが、夕食は外食あるいは出前となる。 ●宿舎：借り上げ宿舎 住居手当（家賃のみ月額50,000円の範囲内で補助あり）。 ●居室：研修医専用の研修医室あり。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されていて、各領域の主要学会誌も準備されている。 ●インターネット環境：インターネット接続が可能である。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑨【独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院】

住 所	〒942-8502 新潟県上越市東雲町1-7-12		病床数：360床
診療科目	内科、精神科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科		
研修責任者名	川口 誠（検査科部長）	連絡先：info@niigatah.johas.go.jp 025-543-3123（代表）	連絡先担当者名：猪狩 規夫（庶務係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
選択研修：整形外科		内科（血液）1人、整形外科6人、泌尿器科1人、脳神経外科2人	内科（血液）1人、泌尿器科1人、脊髄・脊髄外科2人、細胞診1人
施設の概説・特徴			
昭和35年5月に開院した当院は平成9年3月に新築し診療科も19診療科となった。平成17年5月には（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価で認定され、平成20年5月には地域医療支援病院に指定されている。当院は地域医療と勤労者医療を推進し、地域医療の面では、上越圏における救急医療体制の一翼を担っている。勤労者医療の面では平成16年4月に勤労者医療総合センターを設置し、また、平成17年9月には県内唯一のアスベスト疾患センターを設置し、勤労者医療の中核的役割を果たすための体制を整備した。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
整形外科：小児から超高齢者までの運動器疾患のすべてに、慢性疾患や緊急外傷を問わず幅広く対応しています。			
研修の概説と特徴			
①熱心な指導医のもとで、基本的な診察能力を身に付けるために十分な症例を経験できること。 ②上越医療圏における広域基幹病院から中小病院に至る各医療機関が緊密な連携のもとに実践している地域医療を体験できること。			
処 遇			
●給与：1年次月額約500,000円、2年次月額約520,000円 （諸手当）当直手当：1年次5,000円/回、2年次10,000円/回 ●食事：昼は職員食堂、売店を利用できる。 ●宿舍：借り上げ宿舍（病院宿舍）あり 自己負担なし ●居室：医局に専用デスクあり ●図書・文献：24時間医中誌等の文献データベースが利用可能。 国内図書 1,400冊、国外図書 320冊 国内雑誌 23種類、国外雑誌 8種類 ●インターネット環境：研修医各自の机からインターネットを接続できる。			

⑩【社会医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院】

住 所	〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1		病床数：261床
診療科目	内科・外科・整形外科・小児科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・皮膚科・婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・泌尿器科・リウマチ科・糖尿病内科・心臓血管外科		
研修責任者名	本間 丈成 (臨床研修プログラム責任者)	連絡先：kaetsu_ishikensyuu@niigata-min.or.jp 0250-22-4711 (代表)	連絡先担当者名：大野 豊 (研修担当事務)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：1人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：3人、17年度：3人、18年度：2人、19年度：2人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：1人、23年度：2人、24年度：2人、25年度：3人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：3人、29年度：1人、30年度：1人、令和元年度：2人		
研修受け入れ可能診療科*		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科		内科7人	内科7人
施設の概説・特徴			
当院は、第一線の医療、プライマリーな医療を通して地域に貢献したいと考えています。一般病棟261床（うちHCU4床、回復期リハビリテーション病棟36床、障害者病棟44床、地域包括ケア病棟41床）、16標榜科を持ち、旧新津医療圏を中心に時間外救急件数3,600件（救急車、ウォークインを含む）を受け入れています。また、予防医療活動を重視して取り組み、健康診断を年間1,000件以上、地域での健康相談会を年間約100回行っており、在宅・介護分野でも100人以上の患者さんの往診に対応しています。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：循環器は、若年者から高齢者まで心不全入院が多く、心筋梗塞は周辺地域からも当院に紹介され、緊急時に心臓カテーテル検査・治療が可能な唯一の施設となっています。また、血液透析施設を持ち研修中に透析治療の実施を経験することができます。消化器は、上部消化管内視鏡検査を年間7,000件以上行っており、研修医の希望に応じて技術習得を行うことができます。呼吸器は、在宅酸素療法患者を約50人管理しており、急性期から在宅療法まで幅広く経験することができます。			
研修の概説と特徴			
当院は、1979年より初期研修医の受入れを開始し、これまで多数の医師を養成してきた実績があります。2004年の卒後臨床研修必修化以降は29名の研修医を受け入れてきました。旧新津地域の中核病院として二次救急（一部三次）を担っており、Common Diseaseを経験し、プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力を身につけるには最良の環境にあります。			
研修医の当直			
初期研修期間を通して行い、基本的に全ての科に対応します。指導医とともに副当直として時間外の救急外来と夜間の病棟対応を行います。研修状況に応じて指導医と研修医を同時に呼ぶ“同時コール”、研修医を先に呼ぶ“ファーストコール”と、研修医の力量に合わせてステップアップします。専門医へのコンサルトが必要な場合は各科の拘束医へ連絡をとります。研修医単独での当直は行いません。当直明けは午後から休みが保障されます。			
処 遇			
●給与：（1年次月額）固定給与：399,400円（臨床経験5ヶ月に満たない時期は369,400円）、当直手当：平日15,000円、土休日25,000円（月2回）、半直手当：平日7,500円、土休日12,500円（月2回）、月額平均 計：412,000円、賞与：643,087円 （2年次月額）固定給与：424,400円、当直手当：平日15,000円、土休日25,000円（月2回）、半直手当：平日7,500円、土休日12,500円（月2回）、月額平均 計：554,000円、賞与：1,087,020円 学会出張：年180,000円まで補償。演題発表する場合、別途全額補償。 ●食事：昼食は食堂もしくは売店にて購入できます。当直時は、夕食と翌日の朝食・昼食を病院で用意します。 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（25,000円） ●居室：研修医専用部屋有り。研修医の机は医局内に一人ずつ用意されています。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されていて、医中誌 web など無料で利用可能。各領域の主要学会誌も準備されています。また、月に10,000円が研修医図書費として補償されています。 ●インターネット環境：医局内のパソコンから常時利用可能。各自の机からもインターネット接続が可能。“up to date”施設加入済			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

①【新潟県厚生農業協同組合連合会 柏崎総合医療センター】

住 所	〒945-8535 新潟県柏崎市北半田2-11-3		病床数：400床（一般308床、回復期リハ45床、地域包括ケア47床）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、精神科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科		
研修責任者名	相田 浩（病院長）	連絡先：soum1@kashiwazaki-ghmc.jp 0257-23-2165（代表）	連絡先担当者名：高橋 潤一郎（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：1人、19年度：1人、20年度：1人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：0人、18年度：3人、19年度：1人、20年度：0人、21年度：1人、22年度：2人、23年度：1人、24年度：1人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：1人、29年度：1人、30年度：0人、令和元年度1人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（腎臓、内分泌・糖尿病、血液、循環器、呼吸器、消化器）、救急、外科（消化器外科+乳腺外科+内分泌外科）、小児科、産婦人科 選択研修：脳神経外科、麻酔科、整形外科、泌尿器科	内科（内科）6人、内科（糖尿病）3人、内科（内分泌）2人、内科（甲状腺）1人、内科（循環器）1人、内科（血液）1人、内科（透析）1人、内科（腎臓）1人、内科（消化器）4人、内科（消化器内視鏡）2人、内科（肝臓）3人、内科（腫瘍）1人、外科4人、外科（消化器外科）2人、外科（乳癌）1人、小児科2人、産婦人科3人、麻酔科1人、整形外科3人、泌尿器科1人、脳神経外科1人、放射線1人、心療内科1人、性機能1人	内科（内科）5人、内科（血液）1人、血液（内分泌）1人、内科（糖尿病）1人、内科（甲状腺）1人、内科（消化器）1人、内科（腫瘍）1人、外科（外科）2人、外科（消化器外科）1人、麻酔科1人、泌尿器1人、産婦人科1人	
施設の概説・特徴			
柏崎地区唯一の総合病院で急性期医療を中心としている。主体は救急医療で当該地域の救急件数の8割は当院に集中している。また、一日外来患者数は約800人。地域の医療機関との協力にて柏崎地区は急性期から慢性期及び介護を含む地域完結型の医療が確立している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：領域全般にわたって2次から3次に及ぶ高度医療を担当。循環器は心カテーテル（ステント挿入含む）を年間250例以上実施。消化器は年間1,000件以上の内視鏡手術、経皮的手術を行っている。呼吸器は地域で肺癌、感染症の診断と治療の中心的存在である。内分泌は糖尿病医療をコメディカル、患者会と協力して精力的に実施し、県内では中心的存在である。腎臓内科は、県内2番目の透析規模を有している。血液内科では、血液疾患の診断から標準的化学療法まで幅広く行っている。 外科◆：手術件数は年間約400件で、消化器全般の手術と乳腺・甲状腺などの手術を行っている。適応疾患に腹腔鏡下手術を積極的にを行い、3D腹腔鏡も常備している。 整形外科：外傷をはじめ、手の外科・膝・肩など整形外科全般において高レベルの治療を行っている。手術の件数と内容は、倍の規模の病院に匹敵する。 泌尿器科：良性悪性、年齢を問わずあらゆる泌尿器疾患に適応し、内視鏡手術を積極的に取り入れている。 脳神経外科：大学及び近隣の病院・医院と密に連携と、当地域のあらゆる神経疾患に対応している。MRIを用いた脳梗塞の急性期診断に力を入れている。 小児科：一般小児科診療における基本的知識と技術を修得する。また新生児医療（正常新生児の診察を含む）を経験する。 産婦人科：地域の中核病院として一般診療を行っているほか、中高年外来・思春期外来、助産師によるレディース外来を設けている。 麻酔科：年間3,000件を超える手術症例があり、一般外科から産科麻酔、小児麻酔まで幅広い症例を数多く経験することが可能。麻酔に関わる手技は一通り習熟できる環境が整備されている。			
研修の概説と特徴			
柏崎・刈羽地域の救急搬送のほとんどを受け入れているため、充実した指導スタッフのもと、多様な症例を経験することができる。また、研修医のためのショートレクチャー等を毎週実施しており実践的な研修が出来る。院内だけでなく地元医師会との症例発表の場もある。救急医療に必要な基本的手技・手術の習得をさせる。地域医療の現場（野田診療所・西山ふれあいクリニック、県立柿崎病院）で研修を行う。			
研修医の当直			
原則として1人では当直は行わず、指導医について月2回程度（副直）。また、研修科により、当直免除有。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）当直手当19,400円/回、時間外手当・厚生連規程により支給…月額平均500,000円程度 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）当直手当19,400円/回、時間外手当・厚生連規程により支給…月額平均570,000円程度 ※賞与なし ※2年間20万円まで個人研究費あり。 ●食事：昼食は院内のコンビニや弁当業者を利用しているため不自由はなく、夕食もコンビニや出前、周辺レストランを利用する。 ●宿舎：アパート等の斡旋（50,000円/月の助成有）、赴任時の引越料金病院負担 ※病院周辺に民間アパート多数あり ●居室：専用の居室は有。専用のデスクを用意している。 ●図書・文献：医学図書……24時間 Medline 等の文献データベースが利用可能。Up To Date、医中誌 Web、今日の臨床サポート 国内図書 5,400冊 国外図書 700冊 医学雑誌……国内雑誌 59種類 国外雑誌 16種類 ●インターネット環境：可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

⑫【新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院】

住 所	〒952-1209 新潟県佐渡市千種161		病床数：354床
診療科目	25科 内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、精神科、神経内科、外科、脳神経外科、小児外科、心血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、口腔外科、形成外科、整形外科		
研修責任者名	佐藤 賢治（病院長）	連絡先：soumu@sado-hp.jp 0259-63-3121（代表）	連絡先担当者名：羽二生 明（総務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：3人、18年度：2人、19年度：3人、20年度：2人、21年度：0人、22年度：2人、23年度：2人、24年度：1人、25年度：0人、26年度：1人、27年度：0人、28年度：2人、29年度：1人、30年度：2人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：1人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：1人、22年度：9人、23年度：9人、24年度：29人、25年度：30人、26年度：24人、27年度：24人、28年度：16人、29年度：28人、30年度：23人、令和元年度：17人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（循環器、消化器、呼吸器、腎臓原病、内分泌代謝、神経）、外科（消化器一般外科）、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、脳神経外科	内科2人、内科（循環器）1人、内科（糖尿病）1人、内科（消化器）2人、内科（腎臓）2人、内科（消化器内視鏡）1人、内科（神経）2人、小児科2人、外科3人、産婦人科2人、整形外科2人、脳神経外科3人	内科2人、内科（糖尿病）1人、内科（神経）1人	
施設の概説・特徴			
人口約5万4千人の離島の中核病院で、一次から三次医療（高度な医療は島外の医療機関に紹介）まで行っている。医療連携室を立ち上げ、関連施設の訪問看護ステーションや老健とともに、前方および後方連携に力を入れ地域医療のニーズに答えている。平成23年11月1日に新病院へ新築移転した。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：全ての専門医が揃っており、一部の症例を除き大多数の症例は院内で診療することが可能である。循環器はリハビリやPCIを積極的にやっている。呼吸器はSASの診断治療のシステムをいち早くつくり、実績を上げている。消化器では悪性腫瘍の診断治療はもとより、イレウスや胆石、胆嚢炎等の急性疾患を数多く取り扱っている。腎臓病科は約150人の透析患者を管理している。内分泌代謝は糖尿病以外に甲状腺疾患を数多く見ている。神経内科は平成18年度から3人体制となり、多数の脳血管疾患以外に変性疾患も扱っている。 外科◆：年間手術件数は約250件で、毎週、消化器内科、放射線科と丹念な検討を行い手術適応、術式などを決めている。症例は高齢で併存疾患を持つ患者が多く、周術期の管理に細やかな配慮が必要だ。面倒見のよい先輩医師の下で高齢者術後の管理の研修にはもってこいの環境と言える。 小児科：3人の常勤医が担当している。部長は感染症、免疫のエキスパートだが、若い医師の指導にも優れた能力を発揮している。 産婦人科：4人で、島内の分娩と里帰り出産の全てを見ている。年間分娩数は約300例。更年期障害や尿失禁手術、漢方治療等の診療にも力を入れている。 整形外科：島内では唯一の診療機関なので、骨折の患者は全て集まる。この環境を利用した研究が行われている。 脳神経外科：1人の常勤医が担当している。年間手術件数は約40件で脳動脈瘤、脳出血などの血管障害以外に慢性硬膜下血腫、頭部外傷、脳腫瘍等の手術を行っている。			
研修の概説と特徴			
当院における研修の特徴は、急性期の疾患を初診から退院まで一貫して診療できることである。これは機能分化した大病院では経験できない研修であろう。研修医には可能な限りファーストエイドを経験するとともに、その後の全経過を経験することで、疾患の全体像とその中で急性期医療の在り方を学んでほしい。まず、見てほしい、経験してほしい。			
研修医の当直			
1年次は月2回程度、22時まで副直を行う。最初は主に見学。主当直医が可能と判断すれば、ファーストタッチも行う。2年次は上級医と二名体制、全科拘束でバックアップしている。			
処 遇			
●給与：1年次（月額）基本給350,000円、時間外手当（厚生連規程により支給）、離島手当100,000円 計（平均）600,000円程度 2年次（月額）基本給380,000円、当直手当19,400円/回、時間外手当（厚生連規程により支給）、離島手当100,000円 計（平均）670,000円程度 ●食事：昼、夕食は院内の職員食堂の利用が可能。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり アパート使用料月5,000円以内（自己負担） ●居室：研修医専用の居室あり。 ●図書・文献：約100種類の主要な和文、英文雑誌を購読している。文献検索も可能。 ●インターネット環境：各自の机からインターネットへの接続が可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑬【新潟県立十日町病院】

住 所	〒948-0055 新潟県十日町市高田町三丁目南32-9		病床数：275床
診療科目	内科、脳神経内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科		
研修責任者名	角道 祐一（診療部長）	連絡先：shomu@tokamachi-hosp-niigata.jp 025-757-5566（代表）	連絡先担当者名：滝沢 哲也（庶務係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：1人、19年度：0人、20年度：1人、21年度：0人、22年度：1人、23年度：1人、24年度：2人、25年度：2人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数		学会認定指導医数
必修：内科、救急部門、外科（消化器外科）、小児科、リハビリ科 選択研修：整形外科	内科5人、外科3人、整形外科2人、リハビリ科1人		外科2人、整形外科1人、内科1人
施設の概説・特徴			
<p>当院は世界一の豪雪都市である十日町市の街中に位置し、津南町や長野県栄村も含めた越後妻有地区における約6万人の命を預かっており、平成19年度より管理型臨床研修病院、平成22年度から基幹型臨床研修病院として認定されました。年間約2,000台の救急搬送を一手に引き受け、小児から高齢者まで総合的に医療を提供すると同時に、多職種連携協働および地域包括ケアのサポート、さらには中山間地のへき地巡回診療までこなす地域中核病院（マルチホスピタル）です。とくにあの中越地震を教訓として災害医療にも力を注ぎ、BLS、ICLS、JPTEC やメディカルラリーなどに適宜開催・参加するのみならず、平成21年2月からスポット型ドクターカーの運用を開始、そして平成28年5月には県立病院としては初めて地域救急ステーションが院内に設置されました。平成26年4月からは日本プライマリ・ケア連合学会認定の「後期研修プログラム（Ver.2.0）」、平成30年4月からは日本専門医機構認定「総合診療専門研修プログラム」を運用しています。どんな医師になるか、どの医療分野に進むかに関わらず、「あなたの夢を叶えるための病院」です。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>内科：内科医師群が手厚く指導いたします。さらに消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、循環器内科、脳神経内科、膠原病・リウマチ・アレルギー、内分泌代謝などの内科専門領域における研修も可能です。さらには、レジオネラ肺炎、キノコ過敏性肺炎、マムシ咬傷、ツツガムシ症など地域医療特有の疾患や高齢者疾患を多数経験できます。</p> <p>救急：DMAT との合同研修、院内 BLS 講師、BLS、ICLS、JPTEC 受講を勧めています。</p> <p>外科◆：腹腔鏡・胸腔鏡手術は県下に誇る症例数、優秀な指導陣であり、小児から高齢者まで多くの外科疾患を経験する事が可能です。整形外科領域においては、外傷と骨折、高齢者疾患など将来もニーズの高いプライマリ・ケア領域該当症例が多く、将来整形外科を目指す方には特におすすです。脳神経外科も常勤体制であり、脳血管疾患から腫瘍まで専門医がみっちり指導します。</p> <p>小児科+産婦人科：十日町圏域で唯一の小児科入院施設で、新生児を専門としています。小児科と産婦人科の連携が良く、周産母子管理の研修に最適です。また学校保健など行政との関わりも多く、将来小児科を専攻するかもしれない方には絶好の研修環境です。地域包括ケア病棟の管理を通したリハビリテーション研修も可能です。</p>			
研修の概説と特徴			
<p>手作りカリキュラムで自分に合ったスケジュールを作れます。診療科同士の垣根が低く同時期に複数科にわたる研修も可能です。また仕事でもそうでない時も、研修医のことはいつも誰かが見てくれています。越後妻有・十日町圏域のすべての地域の医療を担っているため、全人的包括的なプライマリ・ケアとしての研修に最適です。また山間部豪雪地における巡回診療や十日町圏域の医療者救急研修施設です。BLS の指導を定期的に行い、救急対応に自信が持てます。</p>			
研修医の当直			
<p>原則として研修1年目は当直免除ですが、適宜準夜帯の業務に入ってもらったり、日曜や祝日救急業務研修を自主的に行う事が出来ます。研修2年目からは概ね月4回程度の当直業務をこなしてもらいますが、個々の研修状況により適宜相談して組んでいきます。なお夜勤免除が必要な方や当直翌日の診療義務免除の希望などは充分配慮いたします。当院は24時間365日において全科医師の拘束体制をとっており、昼夜問わずほとんどの医師が院内もしくは近傍に居ますので、安心して当直研修を行うことができます。</p>			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）310,000円（諸手当）宿日直手当40,000円/月（月4回勤務の場合） 2年次（月額基本給）340,000円（諸手当）宿日直手当80,000円/月（月4回勤務の場合） 当直手当、超過勤務手当、学会出張費などがあります。 ●食事：多くの医師は宅配業者から昼弁当を取ります。病院周囲の食堂からの出前も取れます。院内にコンビニエンスストア、職員食堂（レストラン）があります。 ●宿舍：借り上げ宿舍・個人準備 住居手当あり（上限27,000円）。病院所有3階建職員宿舎に入居可。 ●居室：研修医室があります。 ●図書・文献：毎月購入の研修医用雑誌は「レジデントノート」。その他に各科の専門誌が和文誌28誌、英文誌3誌あり、Up To Date 及び医学中央雑誌の電子検索可能。 ●インターネット環境：研修医室に端末があり、インターネット接続してあります。医師は病院のサーバーを通して、個人のアドレスを与えられ自由に使っています。医局・研究室に Wi-Fi 環境があります。 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の問術期全身管理能力を修得する。

⑭【新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院】

住 所	〒943-8507 新潟県上越市大道福田616番地		病床数：313床
診療科目	総合診療科、内科、循環器内科、神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線治療科、放射線科、救急科		
研修責任者名	籠島 充 (病院長)	連絡先：rinsho-jimu@joetsu-hp.jp 025-524-3000 (代表)	連絡先担当者名：梅澤 真美子 佐藤 真由美
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：2人、21年度：2人、22年度：2人、23年度：2人、24年度：2人、25年度：2人、26年度：2人、27年度：2人、28年度：1人、29年度：3人、30年度：2人、令和元年度：2人		
研修受け入れ可能診療科※	必修：内科（呼吸器内科、消化器内科、腎・糖尿病内科、循環器内科、神経内科）、救急科、総合診療科、外科（一般外科、乳腺外科）、産婦人科、小児科 選択研修：脳神経外科、整形外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、病理診断科、放射線診断科	学会認定専門医数 総合内科専門医10人、呼吸器専門医4人、人間ドック健診専門医1人、アレルギー専門医2人、消化器病専門医1人、消化器内視鏡専門医3人、肝臓専門医1人、胃腸科専門医1人、循環器専門医3人、神経内科専門医2人、腎臓専門医3人、透析医学会専門医3人、救急科専門医2人、心血管インターベンション認定医1人、外科専門医6人、消化器外科専門医5人、産婦人科専門医3人、小児科専門医1人、脳神経外科専門医2人、脳卒中専門医2人、整形外科専門医2人、眼科専門医2人、皮膚科専門医1人、泌尿器科専門医1人、麻酔科専門医4人、病理診断専門医1人、放射線診断専門医1人、放射線治療専門医1人	学会認定指導医数 総合内科10人、呼吸器2人、消化器2人、消化器内視鏡1人、胃腸科1人、アレルギー1人、循環器3人、腎臓1人、透析医学1人、心血管インターベンション1人、外科1人、消化器外科1人、産婦人科1人、救急科2人、麻酔科3人、眼科1人、病理診断科1人
施設の概説・特徴			
<p>当院は上越地域（上越市、妙高市）と近隣の糸魚川市、十日町市の一部を医療圏とする急性期中核病院です。「人にやさしく、地域に開かれ、地域に貢献する病院」を理念にかけ、地域密着型の病院づくりを目指しています。</p> <p>平成27年9月に卒後臨床研修評価機構（JCEP）の臨床研修認定病院に登録されました。病院全体で研修をバックアップする姿勢が高く評価を受けました。常により良い研修を提供できるよう日々邁進していきます。また、臨床研修のみならず、院内スタッフの人材教育にも力を入れています。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>内科：呼吸器、消化器、腎・糖尿病、循環器、神経の分野に分かれています。一般的な病態を理解し、問診、理学的所見、各種検査に基づいて診断し、治療計画を立てることを学びます。また良好な患者医師関係の構築およびチーム医療が実践できます。</p> <p>救急科：救急外来とHCUにて救急科指導医が指導にあたります。緊急を要する病態に適切に対応し、プライマリケアの診療を実施するために地域の救急医療体制と患者のニーズを理解し、他科・他医療機関と協力しながら、適切な初期診療能力を習得します。</p> <p>外科◆：外科系チームの一員として外科的疾患の診断や手術を経験し基本的な手技の習得と共に周術期の管理や外傷、栄養管理等における基本的な診療能力を習得する。救急外来を受診する患者に対し、適切な診断・検査・初期治療を行い、必要に応じて専門医に紹介できる。基本的な心肺蘇生法を確実に身につける。</p> <p>産婦人科：産婦人科疾患・妊娠・分娩に関する基本的病態・生理を理解し適切な診断、治療を行える診療技術を習得する。</p> <p>小児科：新生児期から思春期にかけて小児の発達の特性を理解する。その上でいわゆる common disease を中心とする小児疾患の診断や治療、健診や予防接種などを行うために必要な基本的能力（態度・知識・技術）を習得する。</p> <p>一般外来（総合診療科）：総合診療科で4週、研修が可能。（外来診療は半日のみとなるため2週分のカウントとなる。）日常で遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するため、地域のニーズをふまえた疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動の取組に参画し絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する基本的な知識と技能を身につける。</p> <p>脳神経外科：脳神経外科疾患に対する理解と患者への対応を習得する。臨床診断と種々の画像診断を学ぶ。一時救急における救急処置、創傷処置、必要な検査を学ぶ。手術における基本的手技を習得する。</p> <p>整形外科：臨床医として整形外科医の役割を理解し、プライマリケアに必要とされる基本的知識と診察手技、技術を身につける。</p> <p>眼科：一般眼科臨床に必要な知識を習得する。診断に必要な検査の理解と技術の習得をめざす。手術、薬物等、治療に必要な基本的知識と技術の習得。</p> <p>皮膚科：プライマリケアに必要な皮膚の生理的病的状態の観察の方法を学び、視診・触診の重要性を体験し、全身疾患の一部としての皮膚症状の診察の基本、ならびに皮膚科プライマリケアを修得する。</p> <p>泌尿器科：尿路悪性腫瘍、尿路結石、尿路感染症などを中心に、一般泌尿器科疾患の診断、治療方法の理解、基本的手技の習得を目指す。</p> <p>麻酔科：手術患者の麻酔管理を行い、末梢静脈点滴確保から各種ライン確保、挿管、呼吸、輸液、循環管理等医療の基本技術が体験できます。</p> <p>病理診断科：臨床における生検、細胞診、病理解剖（剖検）の役割を理解する。循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患などの病理の概略を理解する。</p> <p>放射線診断科：日常診療、救急診療で遭遇する疾患の画像を理解し、適切な検査計画を立案できるようにする。放射線科的治療である画像下治療（IVR）について、適切にコンサルトできるように、その基本を身につける。</p>			
研修の概説と特徴			
<ul style="list-style-type: none"> ○研修を受ける側の多様なニーズに配慮し、柔軟性のあるカリキュラムを提供します。 ○指導医との距離が近く、診療科間の垣根が低い細部まで行き届いた研修ができます。 ○症例提示や問題点の抽出を通じてEBMに基づく診療を指導医とともに検討し、医学的知識や判断力を形成する姿勢や方法を身につけることができます。 			
研修医の当直			
<ul style="list-style-type: none"> ○一年次は指導医、先輩研修医と3人で（三重瓦方式）当直を始めます。病院に慣れた6月ごろから、はじめは夜10時ごろまでのプチ当直でスタートします。数ヶ月もすれば、指導医と二人で、一晩通じての当直ができるようになります。 ○二年次は指導医と二人で当直をします。ファーストタッチにかかわり、指導医の援助や助言を受けます。 ○研修医のみの当直はありません。当直も研修の一環であり、指導医の監督のもとに行われます。 			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次固定給：350,000円 当直手当：19,400円/回 超過勤務手当：厚生連給与規定により支給 2年次固定給：380,000円 当直手当：19,400円/回 超過勤務手当：厚生連給与規定により支給 ●宿舎：借り上げ住宅あり。家賃50,000円まで補助します。（インターネット環境あり） ●食事：昼食は弁当注文可。院内レストランや売店（コンビニ）も利用可。 ●居室：研修医室あり。（インターネット環境あり） ●図書：各種学会誌等あり、Up To Date、メディカルオンラインあり。 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑮【新潟県厚生農業協同組合連合会 村上総合病院】

住 所	〒958-8553 新潟県村上市田端町 2-17		病床数：263床
診療科目	内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科		
研修責任者名	林 達彦（病院長）	連絡先：murakami_kensyu@mgh.jp 0254-53-2141（代表）	連絡先担当者名：山貝 直子（教育研修センター）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：2人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：1人、22年度：0人、23年度：1人、24年度：2人、25年度：2人、26年度：2人、27年度：1人、28年度：1人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（一般内科・循環器・消化器・呼吸器・腎臓）、救急、外科（一般外科・消化器外科）、小児科、産婦人科 選択研修：脳神経外科、泌尿器科、整形外科、麻酔科	総合内科専門医 3人、消化器病学会専門医 2人、消化器内視鏡学会専門医 3人、肝臓学会専門医 2人、外科学会専門医 3人、消化器外科学会専門医 3人、食道学会専門医 2人、がん治療認定医機構認定医 1人、産婦人科学会専門医 3人、脳神経外科専門医 2人、整形外科専門医 2人、耳鼻咽喉科学会専門医 1人、日本脳卒中学会専門医 1人、日本脳神経血管内治療学会専門医 1人、日本麻酔科学会専門医 1人	肝臓学会指導医 1人、外科学会指導医 1人、消化器外科学会指導医 1人、臨床腫瘍学会暫定指導医 1人、産婦人科学会指導医 1人、がん治療認定医機構暫定教育医 1人、緩和医療学会暫定指導医 1人、脊椎骨髄外科指導医 1人	
施設の概説・特徴			
当院は急性期から慢性期までの医療を充実させ下越地区の二次救急医療圏の中核施設の一つとして機能を果たしてきた。医療資源確保が困難な状況にあっても、健診業務や福祉施設などで、行政との密接な連携を保った地域完結型医療に力を注いでいる。さらに無医村である粟島浦村へのテレビ電話診療や出張診療を行い、へき地医療に大きく貢献している。また、2020年12月に新病院が開院予定であり、今後も高度医療に基づく医療・保健・介護・福祉の総合的・一体的なサービスを提供すべく、診療体制の整備に取り組んでいく。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：消化器科 3名、循環器科 2名、呼吸器科 3名、腎臓内科 1名の計 9名の常勤医に加え、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科は出張医の外来を行っている。 外科：外科 5名、脳神経外科 2名、整形外科 2名の常勤医が診療を行っている。 脳神経外科：常勤医 2名で診療を行っている。 泌尿器科：常勤医 1名で診療を行っている。 麻酔科：常勤医 1名で麻酔管理を行っている。 産婦人科：常勤医 3名で分娩を含め診療を行っている。 小児科：常勤医 2名で診療を行っている。 救急科：救急科はなく、各科の上級医の急患対応時や日当直時に遭遇した傷病者の初期対応と入院 3 病日までの追跡を行う。			
研修の概説と特徴			
医療資源、特に人的要素が慢性的に不足な状態で、各個人が可能な範囲で傷病者の病態や診断を行い、必要に応じ高次医療機関へ紹介する判断力を身に着ける事が可能である。また高次医療機関では体験が困難な包括地域ケア病棟へ紹介する判断力を身に着ける事が可能である。また、高次医療機関では体験が困難な包括地域ケア病棟を活用した慢性期疾病の管理、積極的はりハビリテーションや綿密な医療相談の介入より在宅復帰を目指す地域密着型医療プロセスを学習できる。			
研修医の当直			
基本的に二年間は上級医と一緒に当直する。1年目は上級医の診療の見学、補助から開始する。2年目は下ファーストタッチから診断、治療まで実施し終わった時点で上級医からアドバイスを含めたチェックを受ける。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円 当直手当19,400円/回、時間外手当・厚生連規程により支給 2年次（月額基本給）380,000円 当直手当19,400円/回、時間外手当・厚生連規程により支給 ●研究費：年間100,000円の範囲で支給 ●食事：弁当注文可。院内レストランや売店、仕出しも利用可。 ●宿舍：借り上げ住宅あり（月額家賃50,000円まで補助） ●居室：研修医専用室あり ●図書・文献：図書室があり各領域の主要学会誌も用意されている。 ●インターネット環境：図書室で24時間使用可能。各自の机からも接続可能。 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑩【新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院】

住 所	〒941-8502 新潟県糸魚川市大字竹ヶ花457-1		病床数：261床
診療科目	内科、小児科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、歯科、放射線科、精神科、循環器内科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科		
研修責任者名	樋口 清博（病院長）	連絡先：somu4@itoigawa-hp.jp 025-552-0280（代表）	連絡先担当者名：山崎 麻美（総務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：2人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：1人、19年度：0人、20年度：2人、21年度：3人、22年度：3人、23年度：6人、24年度：4人、25年度：7人、26年度：12人、27年度：12人、28年度：8人、29年度：9人、30年度：10人、令和元年度：9人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科（循環器、消化器、内分泌・糖尿病、腎臓）、救急、外科（消化器外科）、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、脳外科、麻酔科、眼科 ※小児科、産婦人科は毎月1名が上限	日本内科学会専門医3人、日本内科学会認定医6人、日本消化器病学会専門医5人、日本肝臓学会専門医4人、日本消化器内視鏡学会専門医2人、日本循環器学会専門医2人、日本透析学会認定医1人、日本外科学会専門医3人、日本消化器外科学会専門医3人、日本麻酔学会専門医1人、日本外科学会認定医2人、日本消化器外科学会専門医2人、日本ペインクリニック学会認定医1人、日本整形外科学会専門医2人、日本眼科学会専門医1人	日本内科学会指導医4人、日本肝臓学会指導医1人、日本外科学会指導医2人、肝胆膵高度技能指導医1人、日本消化器病学会指導医2人、日本麻酔科学会指導医1人、日本消化器外科学会1人
施設の概説・特徴			
病床数261床。糸魚川地域の唯一の中核病院としてすべての疾患を対象に診療を行っている。糸魚川市の90%以上の救急患者（救急車1,900台/年）を引き受けており、平成25年度には救急棟を新設。また災害拠点病院として毎年消防と合同でのトリアージ訓練を行っている。 研修では、ERで初診患者にファーストタッチすることにより診断推論と基本的治療技術の習得が強化されている。経験症例の振り返りのためにER検討会・勉強会が週3回開催されている。外国人を含めた著名な院外指導医によるクリニカルカンファレンスやERでの直接の診療指導は糸魚川総合病院の研修の特徴であり、平均して月に4回開催されている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科は常時110床以上占めている。（循環器系・消化器系・腎尿路系・代謝系総合診療）血液系・心療内科の非常勤医も勤務している。全領域に亘る研修が可能である。研修目標はプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることにおいており、1人の指導医の下で各領域の研修を行う。 外科◆：救急も含め一般消化器外科疾患を対象としている。特に肝胆膵および結腸、直腸領域において高い専門性を持った手術を行っている。到達目標は必要な検査・処置を立案し、術前診断を下し、術式を選ぶこと、手術関連手技の修得など。昨年度より、呼吸器、血管外科を開設した。手術症例330例程。 産婦人科：周産期、婦人科腫瘍、月経異常など女性特有のプライマリ・ケアを研修する。地域唯一の小児科開設病院であり、年間出産件数は200人程度。 小児科：地域唯一の小児科開設病院として、救急患児をはじめ急性疾患児から慢性疾患児までを扱っており、新生児診療や地域保険活動も含め、広範囲の研修ができる。 麻酔科：日本麻酔学会認定病院であり、同学会指導医による麻酔に関連する事項に関して指導を受ける。 整形外科：日本整形外科学会研修施設である。常勤医は3人であり、同学会専門医により整形外科疾患に関して指導を受ける。 脳外科：脳卒中を始めとした神経疾患の指導を受ける。			
研修医の当直			
研修医は、救急・夜間のファーストタッチを行うことを原則としています。同時に日中のER研修もdutyとして行われ、年間で750例の経験・記録を行っていただきます。			
処 遇			
●給与：1年次500,000円程度（基本給350,000円＋当直手当19,400円/回＋時間外手当 厚生連規程により支給） 2年次570,000円程度（基本給380,000円＋当直手当19,400円/回＋時間外手当 厚生連規程により支給） ●食事：院内食堂 外食可能 外注弁当等 ●宿舎：宿舎借り上げあり（単身用） 住居補助として50,000円まで支給。 ●外部の研修活動：学会研究会への参加可（参加費、出張費含めて研修費として個人枠あり） ●図書：医局図書、文献検索可能（クリニカルキー・Up To Date、メディカルオンライン、医中誌） ●インターネット環境：個人利用可能、Wifi			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑩【新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター】

住 所	〒950-2022 新潟県新潟市西区小針 3-27-11		病床数：404床
診療科目	内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、病理診断科、心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、皮膚科、精神科、心療内科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、消化器外科、乳腺外科		
研修責任者名	佐久間 一弘（教育研修センター長）	連絡先：soumu@niigata-medical.jp 025-232-0111（代表）	連絡先担当者名：佐久間 一弘（教育研修センター長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成17年度：4人、18年度：3人、19年度：0人、20年度：2人、21年度：4人、22年度：7人、23年度：4人、24年度：6人、25年度：4人、26年度：3人、27年度：2人、28年度：5人、29年度：2人、30年度：3人、令和元年度：3人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（内科、循環器、消化器、神経内科、内分泌、糖尿病、呼吸器内科）、外科（消化器一般外科）、小児科 選択研修：泌尿器科、整形外科、皮膚科、脳神経外科、麻酔科、病理診断科、緩和ケア	内科（循環器）5人、内科（消化器）3人、内科（肝臓）3人、内科（消化器内視鏡）2人、内科（神経）3人、内科（糖尿病）1人、内科（内分泌代謝）1人、内科（呼吸器）4人、小児科2人、外科（外科）3人、外科（消化器）3人、外科（脳）2人、泌尿器科2人、整形外科2人、皮膚科1人、形成外科1人、麻酔科1人	内科（内科学会教育関連病院指導医）14人、内科（呼吸器）2人、外科（外科）1人、外科（消化器）2人、内科（糖尿病）1人、内科（内分泌代謝）1人、外科（脳）2人、泌尿器科2人、臨床細胞学会細胞診1人、麻酔科1人	
施設の概説・特徴			
当院は、ベッド数404床（介護病棟、緩和病棟を含む）の総合病院で、多くの学会研修指定病院になっており、一般的な医療から高度な医療にまで幅広い症例を経験できるものと考えている。また、救急医療にも積極的に取り組み、昼夜を問わず救急患者を受け入れ、救急患者に対する処置についても研修医が参加し、十分な研修ができるものと考えている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：4科をローテートして研修を行っている。循環器内科では、心カテーテル治療を年約150例、不整脈の電氣的焼灼術やICD植え込み術等、積極的な治療を行い、退院後の回復期心大血管リハビリテーションも行っている。紹介患者も多く、多数の循環器疾患を経験できる。消化器内科では、腹部の基本的診察、内視鏡および超音波の基本手技、治療内視鏡の見学を研修項目にしている。神経内科では、脳梗塞などの脳疾患を中心に診察を行い、週1回画像検討会で各症例を検討している。 小児科：新潟市小児救急体制の2次救急輪番病院となっており、小児2次救急患者の受け入れを行っている。 外科◆：手技向上のために研修医には、積極的に手術や麻酔への参加を推進している。手術の内容としては、鼠径ヘルニア手術・気管切開・粉瘤などの小手術、開腹・閉腹、中心静脈カテーテル挿入、腰椎麻酔、気管挿管等。 整形外科：スポーツ外傷と膝疾患の診療で全国的な評価。21人のPTの協力、膝関節症の疫学や生体力学研究を行っている。 泌尿器科：体外衝撃波破砕装置を設置し、尿路結石については診断から内視鏡手術を中心とした治療を完結でき、症例数も非常に多い。 皮膚科：一般患者他、在宅の患者の支援にも力を入れている。			
研修の概説と特徴			
当院では、内科、外科及び選択科目の研修を行い、内科は、循環器内科・消化器内科・神経内科・呼吸器内科4科をローテートし、各診療科の指導医のもとで研修をしている。外科は、消化器外科で研修を行うが、希望により、脳神経外科・整形外科等の手術見学・参加も可能である。学会・研究会等への発表の機会を積極的に作っている。			
研修医の当直			
日当直は、月2回、原則として指導医とペアで業務にあたる。1年目は指導医の診察、治療の見学及び診療の補助業務が中心であるが、2年目からは症例によっては、初診の診察をしていただき、必要に応じて指導医からアドバイスを受け、治療を行う。当院は時間外の患者を積極的に受け入れており、救急搬送も多く、日当直での診療は、緊急疾患の症例を数多く経験でき、研修医にとっても重要な研修の場であると考えている。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）、当直手当19,400円/回、時間外手当（厚生連の規定による）、研究・学会出張費あり 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）、当直手当19,400円/回、時間外手当（厚生連の規定による）、研究・学会出張費あり ●食事：院内には、売店、有。 近所には、食堂等があり、出前も可能である。 ●宿舎：住居手当あり（上限50,000円 所得税法に定める住宅使用料は自己負担） 自宅から通勤する場合は、通勤手当支給。 ●居室：研修医専用室有。 ●図書・文献：国内・国外の医学図書、医学雑誌等を揃え、教育用シミュレーターを完備。 ●インターネット環境：医局内にインターネット環境有。個人利用可。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑩【新潟医療生活協同組合 木戸病院】

住 所	〒950-0862 新潟県新潟市東区竹尾4-13-3		病床数：312床
診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、内分泌内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、緩和ケア科、麻酔科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科		
研修責任者名	山口 利夫 (副院長、プログラム責任者)	連絡先：kensyu@kido-hp.com 025-273-2151 (代表)	連絡先担当者名：久住・松澤 (事務局)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：2人、18年度：1人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：1人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：1人、令和元年度：1人 ・その他プログラム 平成26年度：0人、27年度：1人、28年度：1人、29年度：1人、30年度：4人、令和元年度1人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科 (内科、呼吸器、消化器、循環器、内分泌・糖尿病、腎臓、神経)、外科 (外科、消化器外科) 選択研修：整形外科、皮膚科	総合内科10人、腎臓2人、糖尿病3人、内分泌2人、消化器3人、循環器3人、呼吸器1人、神経内科3人、外科4人、消化器外科3人、整形外科2人、皮膚科1人	内科4人、糖尿病1人、消化器2人、神経内科1人、呼吸器1人、消化器外科3人、整形外科1人、皮膚科1人	
施設の概説・特徴			
当院は312床を持つ医療生活協同組合立の総合病院である。平成22年1月に電子カルテを導入、平成23年7月には病院を新築移転する。平成26年9月に地域包括ケア病棟を開設し、平成27年11月には回復期リハビリ病棟を開設するなど、近年、病院機能が格段に向上した。当院では、常にかんがいの早期発見・早期治療を目指した診療を行っている。生活習慣病である高血圧症、糖尿病、高脂血症、虚血性心疾患に対しては、専門医による治療のほか栄養指導を中心に生活習慣の改善指導にも力を注いでいる。糖尿病センターの症例数がかつ豊富であり、消化器病センターとともに新潟市東地域のの中核病院として更なる発展を目指している。また、地域住民の生涯健康管理の支援を最大の任務と捉え、健診事業にも力を注いでいる。2017年度に病院機能評価を更新【一般病院2 リハビリテーション病院 (副)】			
研修受け入れ可能診療科の説明			
呼吸器内科では、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、気管支喘息の日常管理及び入院管理を行います。消化器内科では、早期癌の内視鏡治療、肝臓に対する治療、胆管系の治療など、広い分野の診療を行っている。循環器内科では、カテーテル検査と治療を通して虚血性心疾患患者の救命と予後の改善を図っている。心不全や心房細動に対しても治療と同時に再発や脳梗塞予防に努めている。糖尿病治療は、患者とのコミュニケーションを大事にした双方向の治療を心がけている。また、内分泌疾患の早期発見と治療にも力を注ぎ、甲状腺機能亢進症、低下症などの治療も行っている。腎臓内科では、血液透析及び血漿交換療法のほか、腎生検を含めた精査治療も行っている。そのほか、腎不全外来を設け、腎炎や糖尿病性腎症のごく早期から腎臓内科医が関わって、慢性腎不全の進行悪化の防止に努めている。神経内科では、脳血管疾患の急性期治療からリハビリテーション、再発予防のための危険因子管理まで包括的な診療を行っている。また、さまざまな神経難病の診断、診療にも広く取り組んでいる。外科◆では外科的手術治療のみならず内視鏡の治療を積極的に用い、患者への手術侵襲の軽減を図っている。がんの治療に際してもインフォームド・コンセントを最優先し、手術から末期の緩和医療に至るまで、不安なく治療を受けて頂けるよう努力している。整形外科では、主体になるのが骨粗鬆症の概念と骨粗鬆症関連の治療薬の習得、併発する疼痛関連の治療方法について、将来整形外科医を目指す人へのための1ヶ月コースと、整形外科専門医を目指す2ヶ月専門コースで行います。皮膚科では、外来・病棟診療、手術を通して、発疹の記載法、皮膚病理診断法、皮膚科特有の検査・治療法を研修し皮膚科の基本手技を身につけます。皮膚生検など簡単な手術は一人で出来るようになります。			
研修の概説と特徴			
当院では、4週間または6週間を一つの単位として各診療科を研修する。研修する診療科については研修医と相談の上希望を尊重して決定します。内科は全科合同で毎週カンファレンスを行っている。外科系では外科、消化器外科、希望により整形外科の研修ができる。積極的な学会・研究会等への参加に対して、費用面への補助もあります。			
研修医の当直			
研修一年目では、原則として救急外来のファーストタッチは行わない。研修中の診療科指導医が当直の際に一緒に当直し、救急患者の診療について学ぶ。研修二年目は上級医、指導医が当直の際に一緒に当直を行い、必要に応じて指導医のアドバイスを受け、また各科専門医と相談して診療を行う。			
処 遇			
●給与：1年次 (月額基本給) 550,000円 (日当直手当) 10,000円 / (回) 2年次 (月額基本給) 600,000円 (日当直手当) 20,000円 / (回) (諸手当) 住宅手当：上限45,000円、通勤手当：医師給与規定に準ずる ●食事：院内職員食堂 (11:00~15:00)、売店 (7:00~19:00)、宅配弁当利用可。夜間休日は近隣の大手スーパー、コンビニ、飲食店などで対応。 ●宿舍：個人準備 住居手当あり (上限45,000円) ●居室：専用の研修医室有。専用の机有。 ●図書・文献：各種資料検索のための24時間利用可能な図書室を常備。各領域の主要学会誌を含む、国内の図書2,000冊以上、国内雑誌100種以上、国外の図書200冊以上、雑誌30種以上が常設。 ●インターネット環境：医局内で共有端末が複数台設置。各居室にも個別に接続環境あり。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科 (必修) 担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑱【社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院】

住 所	〒950-2087 新潟県新潟市西区新通南3-3-11		病床数：325床
診療科目	内科、腎臓内科、呼吸器内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、胸部・血管外科、眼科、リハビリテーション科、放射線診断科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科口腔外科		
研修責任者名	松原 琢（副院長）	連絡先：keiri@shinrakuen.com 025-260-8200（代表）	連絡先担当者名：経理係
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：3人、17年度：2人、18年度：4人、19年度：1人、20年度：1人、21年度：1人、22年度：1人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：1人、28年度：2人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成26年度：1人、28年度：3人、29年度：6人、30年度：6人、令和元年度：7人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（内科、腎臓、呼吸器、感染症、消化器、循環器、糖尿病・内分泌、神経）、外科（消化器・一般外科） 選択研修：脳神経外科、放射線診断科、病理診断科	内科（内科）11人、内科（循環器）3人、内科（心血管インターベンション）1人、内科（消化器内視鏡）3人、内科（消化器病）3人、内科（肝臓）2人、内科（呼吸器）2人、内科（感染症）1人、内科（糖尿病）2人、内科（病態栄養）1人、内科（腎臓）5人、内科（透析）4人、内科（神経）1人、内科（脳卒中）1人、内科（認知症）1人、病理診断科（病理）1人、放射線診断科（放射線診断）2人、外科（外科）3人、外科（消化器外科）3人、外科（大腸肛門病）1人、脳外科（脳神経外科）3人、脳外科（脳卒中）2人、脳外科（脳血管内治療）2人、麻酔（麻酔）2人	内科（内科）10人、内科（心血管インターベンション）1人、内科（呼吸器）1人、内科（感染症）1人、内科（病態栄養）1人、内科（糖尿病協会）1人、内科（腎臓）3人、内科（透析）3人、内科（神経）1人、内科（認知症）1人、外科（消化器外科）1人、脳外科（脳神経外科）3人、脳外科（脳神経血管内治療）1人、脳外科（脳卒中の外科）1人、放射線診断科（放射線診断）1人、病理診断科（病理）1人	
施設の概説・特徴			
主に成人病を対象とした専門病院である。なかでも透析医療は日本の先駆けをなし、県内はじめ日本の中心的役割を担っていると自負している。救急医療部門では心疾患を循環器内科が、脳卒中に脳神経外科・神経内科が、急性腹症に消化器内科・外科が迅速な対応に当たっている。また糖尿病、リハビリテーション、神経難病など慢性期医療にも力を入れている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科全般にわたって高度な医療を実践しているが、急性白血病などは他の病院の専門医に依頼している。循環器の心臓カテーテル検査・治療例数は県内有数であり、消化器は消化器一般と肝疾患を得意としている。呼吸器・感染症はとくに感染症に力を入れており、糖尿病・内分泌は多数の糖尿病症例と多彩な内分泌疾患を扱っている。神経内科は脳神経外科とも協力し広い地域から脳血管障害を受け入れている。また変性疾患も扱い、さらに在宅医療にも力を入れている。腎・高血圧は透析療法に関しては日本の老舗の一つであり、腎臓病全般の研修が可能である。 外科◆：肝・胆・膵外科を得意とするが、内視鏡手術も含めた消化器外科全般の手術を行っている。 脳神経外科：脳血管障害全般に対し超急性期～慢性期まで網羅した幅広い治療を行っている。従来の動脈瘤クリッピング術や頭蓋内外バイパス手術などの外科治療に加え、急性期血栓回収術、頸動脈ステント留置術、脳動脈瘤コイル塞栓術、脳動脈奇形塞栓術などの脳血管内治療を積極的に導入している。また新潟西地区の頭部外傷も引き受けている。			
研修の概説と特徴			
当院の研修では、技術的な勉強もさることながら、生涯医師を続ける際に必要な論理的な考え方を身につけてほしいと考えている。6～8週間を一つの単位として各診療科を研修し、診療科の選択に関しては研修医の希望を尊重する。検討会や回診等は診療科により異なるが、各診療科指導医が研修指導を行う。CPC、組織検討会等は研修している科に係わらず積極的に参加する。剖検も経験していただく。			
研修医の当直			
1年次：新潟市内科輪番及び研修中の診療科の上級医の日当直日において、月2～3回の日直あるいは準夜帯（17：15～0：00）の副当直を行い、日当直医の指導のもと、救急患者の診療・処置に参加する。 2年次：月2～3回の日直及び当直（17：15～8：30）を上級医あるいは指導医とともに。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）370,000円、（諸手当）宿日直手当11,000円/回、時間外手当（当院給と規則による）、研修・学会出張費あり 2年次（月額基本給）390,000円、（諸手当）宿日直手当22,000円/回、時間外手当（当院給と規則による）、研修・学会出張費あり （諸手当）宿日直加算手当：平均52,000円、通勤手当：上限35,000円 ●食事：昼食は職員食堂や売店。夕食は各自用意。 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（上限28,000円） ●居室：研修医専用の居室有 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室有 医中誌 Web/Up To Date/最新看護索引 Web 書籍：和書2,548冊/洋書841冊 雑誌：国内24誌/国外23誌（電子ジャーナル10誌） ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

⑳【新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院】

住 所	〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4132番地		病床数：454床
診療科目	総合診療科、内科（循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病内科、呼吸器・感染症内科、消化器内科）、神経内科、精神科、小児科、消化器外科、一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科		
研修責任者名	高田 俊範（新潟大学地域医療教育センター長）	連絡先：ttakada@med.niigata-u.ac.jp 025-777-3200（代表）2303（内線）	連絡先担当者名：左記のとおり
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成29年度：4人、30年度：5人、令和元年度：5人 ・その他プログラム採用 平成30年度：魚沼基幹病院（基幹型）2人、県立十日町病院1人、長岡中央総合病院1人 令和元年度：魚沼基幹病院（基幹型）2人、県立十日町病院1人、県立中央病院2人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（総合診療、内分泌・代謝、血液、腎臓、呼吸器・感染症、神経、消化器）、救急科、小児科、産婦人科、外科（消化器・一般、呼吸器）、精神科、整形外科 選択研修：泌尿器科、放射線治療科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、麻酔科、眼科 ※救急科のみの研修以外は、12週間の総合診療科研修を必修とします。	内科（総合内科15人、循環器1人、内分泌1人、血液1人、腎2人、肝4人、透析1人、糖尿病1人、呼吸器3人、消化器5人、内視鏡4人、神経3人）、救急科2人、小児科（小児3人、小児循環器1人、新生児1人、母体・胎児3人）、産科婦人科6人、外科（外科6人、消化器外科4人、胸部外科1人、呼吸器外科1人）、精神科2人、整形外科6人、泌尿器科2人、放射線治療科1人、脳神経外科3人、耳鼻咽喉科2人、皮膚科1人、病理診断科1人、麻酔科3人	内科（総合内科2人、内分泌1人、血液1人、腎1人、肝2人、糖尿病1人、呼吸器1人、消化器2人、内視鏡2人、神経3人）、小児（小児1人、母体・胎児1人）、産婦人科2人、外科（外科2人、消化器外科4人、呼吸器外科1人）、精神科1人、泌尿器科2人、脳神経外科3人、病理診断科1人、麻酔科1人	
施設の概説・特徴			
魚沼圏域において、高次救急医療、高度専門医療を担う唯一の急性期基幹型病院として、2015年6月に誕生した。医療再編に伴い改組・移譲あるいは新設された魚沼市立小出病院（134床）、南魚沼市立南魚沼市民病院（140床）や南魚沼市立ゆきぎに大和病院（45床）等との連携を図り、「地域全体でひとつの病院」の中心として地域完結型医療を目指している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科系疾患の超急性期から慢性期まで、また総合診療から専門医療まで、切れ目のない診療を実践している。総合診療（総合内科）では、多数の疾病あるいは社会的問題を持つ患者や、診断が明らかになっていない患者を中心に、幅広い疾患群を対象に診療を行っている。また、系統別各専門分野の診療についても、新潟大学地域医療教育センター教員や専門医が中心になり、最先端の知識と技術で高度専門医療を提供している。 救急科：魚沼地域の救命救急センターとして、一次から三次まで救急症例を受け入れる。重症症例は救急外来から直接集中治療室に入室し、専門医による高度な医療を受ける。 小児科：新生児集中治療室と救命救急センターが設置されており、小児科全般にわたって幅広い領域の研修が可能である。NICUを完備し、新生児医療の充実は県内屈指となっている。 産婦人科：地域周産期センターとしてさまざまな異常妊娠・分娩を扱っている。加えて、婦人科悪性腫瘍手術や腹腔鏡下手術など幅広い手術を取り扱う。総合病院の利点を活かし、放射線治療も積極的に行っている。 外科：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科に分かれて、新潟大学医学部総合病院と同水準の診療、手術を行う。乳癌患者の集学的治療、消化器系の腹腔鏡手術、呼吸器系の胸腔鏡手術にも積極的に取り組んでいる。研修では、主に基本的外科手術と周術期全身管理が習得できる。 精神科：精神科一般診療に加え、精神科救急、リエゾン、緩和ケア、学習会などに渡り、幅広く診療を行う。 麻酔科：手術中の全身麻酔管理を担当する。術前診察に基づき麻酔計画を立ててインフォームド・コンセントを行い、実際の手術麻酔（術中の全身管理）から術後診察までを担当する。さらに、術後疼痛管理も行う。 整形外科：外傷センターを設置し救急外傷に対応する。また、整形外科領域の腫瘍性疾患の診療を積極的に行う。 泌尿器科：泌尿器科の日常疾患の診療に加え、同領域の腫瘍性疾患に対して、集学的治療を行う。 放射線治療科：放射線治療学に専門医が1人所属し、各科専門医と協力して集学的治療を行う。 脳神経外科：脳神経領域の疾患に対し、外科の立場から専門的診療を行う。また、救急外来を受診する脳神経血管疾患に対し、地域の中核医療機関として対応する。 耳鼻咽喉科：耳科領域（中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺など）、鼻科領域（アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など）、口腔咽頭領域（扁桃炎、咽喉頭炎、睡眠時無呼吸症候群など）、頭頸部腫瘍（喉頭腫瘍、咽頭腫瘍、甲状腺腫瘍、唾液腺腫瘍など）の多岐に渡る疾患を対象に、魚沼圏域で唯一の耳鼻咽喉科医師常勤医療機関として一般診療をおこなう。加えて、耳鼻咽喉科救急疾患や難治疾患にも対応する。 皮膚科：全ての皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、感染症、腫瘍、乾癬、毛髪疾患など）について、最適な治療（5年、10年後に振り返ってみても、令和3年度の治療としては、最適だったと考えられる治療）と教育を行う。 眼科：加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症への硝子体注射、眼の外傷、斜視弱視、角膜炎どう膜疾患など眼科診療所単独では難しい疾患に対応する。また、重症の糖尿病網膜症、甲状腺眼症、視神経炎、ぶどう膜炎など全身疾患に伴う眼疾患も多く、他の専門科と協力して診療にあたる。			
研修の概説と特徴			
当院の研修コンセプトは「超高齢「フレイル」社会に活躍できるジェネラリストの育成」である。総合診療（総合内科）で総合診療マインドを育み、救急医療や専門医療を併せて研修して、ジェネラリストに求められる基本的診療能力を効率的に習得できるよう、必要なローテーションスケジュールや教育ツールを適用している。大学教員による教育はもちろん、県外研修病院出身指導医/上級医によるカンファレンスや米国臨床現場と結んでのWeb教育回診のほか、スキルアップ目的のレジデントコアカンファレンス等が開催されている。			
研修医の当直			
週に1回程度の日・当直を基本に、初期救急対応の力を十分に養うための目標を設定する。個別の研修履歴を反映しながら、初期救急で頻繁に関わる症候や内科・小児疾患から外科系、重症患者まで、内科系・外科系および救急科の日・当直医師の指導を受けながら順次診療を担当する。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円（当直手当）10,500円/回 時間外勤務手当：当院規定により支給 月額 計：477,000円程度（時間外勤務45時間の場合） ※上記以外に、各種手当あり 2年次（月額基本給）340,000円（当直手当）21,000円/回 時間外勤務手当：当院規定により支給 月額 計：561,000円程度（時間外勤務45時間の場合） ※上記以外に、各種手当あり ●食事：院内の職員食堂、コンビニエンスストア等利用が可能 ●宿舍：新築の研修医宿舎あり（1K又はDK。単身用30戸/家賃付） 使用料 居室：月額15,000円 駐車場：月額5,000円 Wi-Fi 完備 ●居室：研修医専用の居室あり ●図書：文献：図書室で各ジャーナル、学会誌の閲覧が可能のほか、Medline、UpToDateなどの使用が可能 ●インターネット環境：各個人の机からインターネット接続可能			

※「必修」、「選択必修」で掲載されている診療科は、「自由選択」でも研修可能です。

②【独立行政法人国立病院機構 西新潟中央病院】

住 所	〒950-2085 新潟県新潟市西区真砂1-14-1		病床数：400床
診療科目	内科 呼吸器内科 呼吸器外科 脳神経内科 精神科てんかん科 脳神経外科 整形外科 小児整形外科 小児科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 神経小児科 歯科		
研修責任者名	小池 亮子（教育部長）	連絡先：224-GC@mail.hosp.go.jp 025-265-3171（代表）	連絡先担当者名：赤坂 進也（庶務係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：1人、21年度：1人、22年度：2人、23年度：1人、24年度：1人、25年度：2人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：2人、30年度：4人、令和元年度：3人 ・その他プログラム採用 平成25年度：1人、26年度：1人、27年度：2人、28年度：3人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：2人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科（内科、呼吸器、神経）、外科（呼吸器外科）、小児科（神経・てんかん・重度障害児） 選択研修：脳神経外科（機能脳神経外科）、整形外科	内科（内科）11人、内科（呼吸器）6人、内科（脳神経）5人、外科（呼吸器）2人、小児科6人、精神科1人、脳神経外科4人、整形外科3人	内科（神経）5人、内科（内科）6人、内科（呼吸器）3人、外科（呼吸器）1人、小児科（小児）1人、脳神経外科1人
施設の概説・特徴			
当院は、神経系と呼吸器系に特化した専門性の高い11のセンターで構成され、それぞれが内科・外科合同のチーム医療を実践し、新しい治療体系の構築を旨とし、機能回復を重視したリハビリテーションも積極的に組み入れています。新潟市中心部から車で約10分、西区中心に位置し海の見下ろせる住宅街にあり、2013年7月に新病棟が完成しました。向上心と熱意、笑顔あふれた若いドクターを歓迎します。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：呼吸器分野と脳神経内科分野を中心に、合併症や全身管理を通して幅広い内科研修に取り組みます。呼吸器では、肺がん、肺炎などの感染症、気管支喘息、びまん性肺疾患、COPDや呼吸不全、睡眠時無呼吸の症例を経験でき、画像診断や内視鏡検査、人工呼吸管理、放射線治療なども含む広範な研修が可能です。脳神経内科では、主にALS、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経難病の初期診断、リハビリテーション、長期療養、在宅支援まで含めた全人的医療を研修することができます。 小児科：当院は、小児科領域の中でも小児神経学の専門施設であり、その診察能力を修得することを旨とします。 外科（呼吸器外科）◆：肺がんをはじめとして、気胸、膿胸等の感染症を含む呼吸器外科を中心に研修します。肺がん治療では、内視鏡手術にも積極的に取り組み、内科とともに集学的治療を行います。 神経科：全国的にも数少ないてんかんセンター機能をもち、発作性疾患であるてんかんの適切な対応ができる基本的な診療能力を修得します。 脳神経外科：機能脳神経外科疾患の診療を通じて、QOLを重視した全人的医療を実施する考え方、知識、診療技術を修得します。 整形外科：全医師に必要とされる運動器疾患と外傷のプライマリーケアの研修等を行います。			
研修の概説と特徴			
新潟大学における研修との一貫性が保たれ、幅広い臨床能力の修得が可能です。また、他の研修病院では経験できない診療分野の患者さんとの出会いも、医師としての成長を後押しするはずです。病める人々のための高い診療水準、国立医療機関として新潟から全国を対象とした情報発信、世界を視野に入れた臨床研究、これらを旨とし実践する当院の先輩医師たちが、向上心と熱意に満ちた若き医師をサポートします。			
研修医の当直			
研修1年次（3月まで）は、診療科指導医とともに日当直業務にあたり、ファーストタッチは行わない。研修2年次も、上級医と一緒に日当直体制をとるが、救急・入院患者対応は単独で行う。必要ならば、いつでも上級医のアドバイス、指導を受けることができるようなサポート体制を敷いている。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）180,000円（超過勤務手当等実績給の為変動有り） 2年次（月額基本給）400,000円（諸手当）200,000円（超過勤務手当等実績給の為変動有り） ●食事：昼食は院内食堂（営業時間 10：00～15：00、ランチ500円～）や売店（営業時間 8：00～19：00）を利用する。周辺は市街地であり外食にも不自由しない。近隣にコンビニ、ドラッグストアあり。 ●宿舎：利用可。 ●居室：医局に有。専用の机あり。 ●図書・文献：各領域の主要雑誌やテキストの配備がされている図書室あり。 ●インターネット環境：各自の机から接続でき個人使用可能。メールアドレスも供与され、新潟大学医学歯学総合病院臨床研修センターとも直結。院内LANも整備されている。レジデント JAPAN も利用できる。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

②【新潟県立吉田病院】

住 所	〒959-0242 新潟県燕市吉田大保町32-14		病床数：199床
診療科目	内科、小児科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科		
研修責任者名	中村 厚夫（院長）	連絡先：syomukakarichou@yoshida-hosp.jp 0256-92-5111（代表）	連絡先担当者名：星野 秀雄（庶務係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科（内科、消化器、呼吸器、腎臓、血液、糖尿病）、小児科、外科	内科（総合内科）2人、内科（消化器）2人、内科（消化器内視鏡）2人、内科（腎臓）1人、内科（透析）1人、内科（アレルギー）1人、小児科1人、小児（アレルギー）1人、外科（外科）2人	内科（消化器）1人、内科（消化器内視鏡）1人、内科（腎臓）1人、内科（透析）1人	
施設の概説・特徴			
県央地区の交通の要衝、燕市（旧吉田町）に位置し、地域中核病院として、「地域に信頼され愛される病院」を基本理念に、患者中心の医療、良質で安全な医療・看護、他の医療施設と連携しての地域完結型の医療の提供に努めている。また、当院の特徴として、県立特別支援学校を併設し、小児慢性疾患、特に最近では「子どもの心の疾患」の診療に力を入れ、注目されている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：プライマリ・ケアから各専門的医療まで多岐にわたる。消化器は、食道、胃、大腸の早期癌に対してEMR、ESD、粘膜下腫瘍にEUS-FNA、肝癌にTAEやRFA、また、総胆管結石や隣石にはESWLなど最先端医療のすべてを行っている。呼吸器は喘息・COPD・癌を中心に、血液は無菌室で白血病・悪性リンパ腫の診療を、その他、18台での血液透析、肥満・高血圧・糖尿病・高脂血症など増加の著しい生活習慣病を病診連携のもと診療している。 小児科：日常一般診療の他、腎疾患、アレルギー疾患、子どもの心の診療は専門医のもとで研修できる。小児腎移植の実績がある。 必修である内科、外科を選択することも可能である。 外科◆：腹部外科から癌緩和医療や外来手術まで広範囲な疾患を相手に、術者など実践的で高密度な研修が行える。			
研修の概説と特徴			
協力型病院として大学での研修に引き続きおよそ9ヶ月の研修を受け持つ。内科で2～4区間に分かれ、それぞれ専門の医師が指導に当たる。 外科では縫合や小手術などの手術手技だけでなく、腹部所見の見方や急性腹症の治療方針の決定、患者の病態に応じた全身管理法を学ぶ。			
研修医の当直			
一年目は内科と外科の指導医と二人体制で当直または日直に入ってもらい、診療の見学・介助を行う。二年目は常勤医と同様、ひとりて日直表に組み込まれる。しかし、内科、外科、小児科がオンコール体制に入っているので必要に応じてサポートをする。			
処 遇			
●給与：1年次月額310,000円、2年次月額340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（距離に応じた区分により支給）、 時間外手当：（時間外勤務時間に応じ支給）、 当直手当：1年目10,500円/回、2年目21,000円/回（概ね4回） ●食事：昼食は売店が開店している。 夕食は院外食堂からの出前も利用できる。 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ※不動産業者斡旋可 ●居室：研修室は、正規医師と共用である。 ●図書・文献：図書室は医局に隣接し、二十四時間自由に利用できる。 外国雑誌、邦文雑誌それぞれ各領域20種類が準備されている。医中誌 web 利用可。 ●インターネット環境：各自の机からインターネットの接続が常時可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

②【新潟県立精神医療センター】

住 所	〒940-0015 新潟県長岡市寿2-4-1		病床数：400床
診療科目	精神科、児童精神科、内科、歯科		
研修責任者名	細木 俊宏（病院長）	連絡先：shomu@psyche-niigata.jp 0258-24-3930（代表）	連絡先担当者名：渡邊 誠（庶務係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：12人、17年度：12人、18年度：12人、19年度：8人、20年度：6人、21年度：6人、22年度：8人、23年度：3人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：6人、17年度：6人、18年度：6人、19年度：6人、20年度：8人、21年度：8人、22年度：8人、23年度：3人、24年度：5人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：精神科、児童精神科	精神科4人	精神科4人
施設の概説・特徴			
患者の人權に配慮しつつ、精神保健対策の新しい方向を踏まえ、新潟県の精神医療の基幹病院としての役割を果たすため、精神障害の発症予防から治療、デイケア、退院患者の社会復帰の支援まで包括した精神医療活動を積極的に進めている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
精神科：指導医の下で主として成人の入院患者を受け持ち、統合失調症、気分障害、認知症、不安障害、身体表現性障害、ストレス関連障害を中心とした精神障害の救急、急性期から診断、治療、ケアに携わり、研修を行う。 また、児童病棟にて、自閉症スペクトラム障害や注意欠如多動性障害を中心とするこどもの心の診療についても研修する。			
研修医の当直			
研修期間内に数回（応相談）、指導医当直の際に副直として精神科救急の現場を研修する。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円（諸手当）宿日直手当1回1万円、時間外手当2年次（月額基本給）340,000円（諸手当）宿日直手当1回2万円、時間外手当 ●食事：病院内に食堂及び売店あり。 ●宿舍：個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ●居室：有り。 ●図書・文献：各種資料検索のため図書室常備。 ●インターネット環境：各自インターネット接続可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

④【新潟県厚生農業協同組合連合会 三条総合病院】

住 所	〒955-0055 新潟県三条市塚野目 5-1-62		病床数：199床
診療科目	内科、循環器内科・消化器内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科		
研修責任者名	神田 達夫（病院長）	連絡先：soum.san@iris.ocn.ne.jp 0256-32-1131（代表）	連絡先担当者名：久住 信司郎（事務長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：1人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
	研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：内科（消化器、呼吸器、腎臓）、外科、小児科 選択研修：整形外科、麻酔科	内科3人、内科（消化器）3人、内科（腎臓）2人、内科（消化器内視鏡）3人、内科（透析）2人、外科（外科）2人、産婦人科1人、整形外科2人	内科4人、内科（腎臓）2人、内科（透析）2人、外科（日本外科学会）（日本消化器外科学会）（日本消化器病学会）で各1人
施設の概説・特徴			
当院は三条市、燕市、加茂市等の県央地区を中心とした約20万人の医療圏の中央に位置し、MRI、シンチグラム等も装備した地域の中心的施設のひとつであります。特に透析では55ベットを有し、この地域では最大の施設です。また、訪問診療の実施、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の併設、ドック、検診車での健康管理活動等、医療、福祉、保健活動を総合的に展開しています。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：現在、腎臓2人、呼吸器1人、消化器3人他、計7人の常勤医で診療を行っています。各医師の専門性を重視し患者に総合的に向合う医療を展開しています。特に透析医療は55ベットを有する地域で最大の施設です。 外科：現在3人の常勤医師で診療を行っています。手術は消化器が中心であり、化学療法も積極的に行っています。 小児科：現在1人の常勤医師で診療を行っています。病院の当直とは別に医師会の行う一次救急診療のサポート体制を市内の小児科医と協力して行っています。 整形外科：整形外科専門医2人が常勤しています。専門は膝関節、手の外科です。MRI、関節鏡、手術用顕微鏡などを用いて診療にあたっています。リハビリはOT、PT計10人が勤務しています。			
研修の概説と特徴			
検討会や回診等は各研修科により異なりますが、診療科毎（内科は専門毎）に固定した指導医師が研修指導を行います。その他、研修科指導医の他に全研修期間を通じ、1人の指導医が研修医師の総合的な支援、指導に当たります。			
研修医の当直			
救急、夜間の当直は平均月2回程度、診療指導医師と一緒に当直を行います。見学、補助、ファーストタッチと段階的に研修を行っていただきます。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次 本俸350,000円（諸手当）時間外手当、当直研修手当、通勤手当：厚生連内規に定める 2年次 本俸380,000円（諸手当）時間外手当、当直研修手当、通勤手当：厚生連内規に定める ●食事：院内に食堂施設はない。近隣の食堂、売店、業者の弁当の利用が中心 ●宿舎：借り上げ宿舎 住居手当あり（上限50,000円、超えた分は自己負担）ただし、厚生連規程に定める住宅料を徴収。 ●居室：研修医師専用の居室はないが、他の医局員との2人～3人での同室提供 ●図書・文献：医学図書は国内図書約480冊、国外図書約100冊、医学雑誌国内24種、国外6種あり、24時間利用可能。図書閲覧室にインターネット端末1台有り ●インターネット環境：医局員各自の机から、インターネットの接続可能 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

㊤【新潟県厚生農業協同組合連合会 小千谷総合病院】

住 所	〒947-8701 新潟県小千谷市大字平沢新田111番地		病床数：300床
診療科目	内科、消化器内科、神経内科、心療内科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科		
研修責任者名	高橋 達（病院長）	連絡先：TEL 0258-81-1600	連絡先担当者名：長谷川 拓史（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成29年度：4人、30年度：6人、令和元年度：6人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科、消化器内科、外科、小児科、産婦人科	日本内科学会認定内科医4人、日本内科学会総合内科専門医4人、日本消化器病学会専門医5人、日本消化器内視鏡学会専門医4人、日本肝臓学会専門医4人、日本循環器学会循環器専門医1人、日本血液学会血液専門医1人、日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医1人、日本腎臓学会腎臓専門医2人、日本透析医学会透析専門医2人、日本外科学会外科専門医2人、日本消化器外科学会消化器外科専門医1人、消化器がん外科治療認定医1人、日本静脈経腸栄養学会認定医1人、日本がん治療認定医機構がん治療認定医1人、日本乳癌学会乳癌専門医1人、日本整形外科学会整形外科専門医1人、日本小児科学会小児科専門医、日本産科婦人科学会専門医3人、日本専門医機構認定産婦人科専門医1人、日本臨床細胞学会細胞専門医1人、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医1人、日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医1人	日本消化器病学会指導医3人、日本消化器内視鏡学会指導医2人、日本肝臓学会指導医2人、日本外科学会外科指導医1人、日本消化器外科学会消化器外科指導医1人	
施設の概説・特徴			
2017年4月開院 病床数300床 小千谷市ならびに隣接諸地域を主な診療圏として、地域での医療拠点としての役割を担う。 急性期医療から回復期・慢性期、そして在宅や施設への橋渡しに至るまでをトータルで実施する病院として医療を提供している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
消化器内科：常勤医師4名 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの消化管と、肝臓、膵臓、脾臓、胆嚢、胆管、腹膜など消化管に付属する各種臓器の疾患全般を扱う。長岡地域の高度急性期3病院と連携し、消化器疾患について軽度なものから高度なものまで対応している。 外科◆：常勤医師3名 消化器疾患を中心に、一般外科領域も対象に治療に当たる。			
研修の概説と特徴			
研修診療科での専門分野の指導医が、外来や入院での診療、臨床検討会、当直などの研修指導にあたる。 小千谷地域での医療を中心的に担っていることから、急性期医療から慢性期まで、さらには在宅や施設サービス等との連携まで、全人的包括的な医療を経験できる。			
研修医の当直			
週1回程度、指導医と共に、第二当直医として勤務し、救急患者の診察・検査・治療、三次救急病院への転送を体験する。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円、2年次（月額基本給）380,000円 （諸手当）通勤手当：上限50,000円、時間外手当、当直研修手当 ●食事：院内食堂は無、売店有、弁当か外食 ●宿舍：借り上げ宿舍 住居手当あり（上限50,000円） ●居室：研修医専用室有 ●図書：図書室有、常勤科関連の主要雑誌有 ●インターネット環境：各自の机から接続可			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手術と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

㊤【新潟白根総合病院】

住 所	〒950-1214 新潟県新潟市南区上下諏訪木770-1		病床数：179床
診療科目	内科、脳神経内科、心療内科、呼吸器内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、リハビリテーション科、歯科		
研修責任者名	黒崎 功（病院長）	連絡先：mmorikawa@healthcoop-shirone.or.jp 025-372-2191（代表）	連絡先担当者名：森川 政弘（総務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：0人、18年度：1人、19年度：1人、20年度：1人、21年度：1人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：1人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（内科、循環器、消化器、腎臓、脳神経）、外科	内科（総合内科専門医）2人、内科（循環器）2人、内科（消化器）3人、内科（神経内科）1人、内科（消化器内視鏡）3人、内科（肝臓）1人、外科（外科）4人、（消化器外科）3人	外科（日本外科学会）（消化器外科学会）で各2名	
施設の概説・特徴			
当院は新潟市南区の急性期医療を担っており、かつ南区の地域包括ケアシステムの中核として機能している。病診連携・病病連携だけでなく、地域とは単に“病院と患者”という枠を超えて、予防医学の啓蒙と情報提供を積極的に行っている。隔週で開催する地域住民向け健康セミナーはすでに100回を超え、南区役所の健康福祉課、消防、警察などの行政とも連携を密にしている。医師・病院職員と患者・地域住民との距離が近いことが病院の特徴と言える。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
研修受け入れの可能な診療科は内科、外科である。外科は消化器外科、肝胆膵外科、及び一般外科、消化器癌化学療法を現在4名で行っている。2016年以降、継続して日本外科学会外科専門医制度修練施設に認定されている。消化器内科は上部・下部内視鏡検査、ESDなどの内視鏡的治療、肝胆膵領域にも対応した interventional radiology を行っている。腎臓内科は約100名の透析患者を有し、慢性透析だけでなく、各種疾患後の急性腎不全にも対応し、また多数の糖尿病患者の管理を行っている。脳神経内科は神経難病患者、循環器内科は心不全患者に対応し、さらに積極的にペースメーカー増設を行っている。			
研修の概説と特徴			
研修はman-to-manの丁寧な指導をモットーとしている。内科では、腎臓、消化器、循環器および神経内科、外科では消化器外科が主体となるが、1例1例で治療の実践を目標とする。特に消化器系では、内視鏡診断や小外科、初歩的な腹部外科の研修が可能である。			
研修医の当直			
研修中の診療科指導医が当直医の際、一緒に当直し、診察・治療の見学から開始し、徐々に診療を行って、救急・夜間の患者のファーストタッチも行き、必要に応じて、指導医のアドバイス、指導を受けることとなる。いずれにしても、研修医一人での当直は行わない。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）311,900円（諸手当）研修手当164,200円/月、当直手当10,000円/回、賞与約50万円/研修期間1回 2年次（月額基本給）328,500円（諸手当）研修手当197,600円/月、当直手当10,000円/回、賞与約50万円/研修期間1回 ●食事：昼食は数社の弁当業者が入っている売店もあるため不自由ではない。夕食は外食あるいは出前となる。 ●宿舍：借り上げ宿舍あり 住居手当あり（家賃から自己負担額15,000円を控除した額） ●居室：研修医用の居室有り。 ●学会：年間10万円以内で学会参加費、出張旅費支給。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室完備。図書室には選任の職員を配置してある。 ●インターネット環境：各自室からインターネット接続可能。 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

②【新潟県立燕労災病院】

住 所	〒959-1228 新潟県燕市佐渡633		病床数：300床（稼動233床）
診療科目	内科、神経内科、循環器内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科		
研修責任者名	鈴木 幸雄（院長）	連絡先：syomu01@tsrh.jp 0256-64-5111（代表）	連絡先担当者名：藤原 直人（総務課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科）、外科（外科、消化器外科） 選択研修：脳神経外科、整形外科	内科（内科）6人、内科（呼吸器）2人、内科（循環器）1人、内科（神経内科）2人、外科（外科）3人、外科（消化器外科）1人、整形外科2人、脳神経外科1人	内科（神経内科）1人、外科（外科）1人、外科（消化器外科）1人	
施設の概説・特徴			
<p>平成30年4月1日に独立行政法人労働者健康安全機構から新潟県に移譲され、「新潟県立燕労災病院」として新たにスタートした。</p> <p>現在、県央地域では、令和5年度早期の開院を目指し、救急救命医療や高度・専門的医療を提供し、地域医療支援等の拠点となる「県央基幹病院」の整備が進められており、県立燕労災病院は、再編対象病院の1つとして、地域の医療機能の維持に努めるとともに、県央基幹病院に向けた準備を進めている。</p> <p>引き続き地域の中核病院として、救急医療、がん、心疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、脳疾患、生活習慣病、人工透析に関する治療を始め、病期の早期発見のため定期健康診断、人間ドック、特殊健診、さらには病期の未然防止のための健康管理指導、過労死予防指導などに関し、良質な医療を提供するよう努めている。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>内科：循環器は県央地区で唯一、心臓カテーテル検査・治療を行っている。消化器は消化管内視鏡治療や肝・胆道系のIVRを積極的に行い、ウイルス肝炎では先端的診療を行っている。呼吸器は肺癌や感染症の症例が豊富である。腎・透析部門は症例増加にともないベッド数を増床した。神経内科は脳血管障害とともに、脱髄疾患・変性疾患など貴重な症例が多い。</p> <p>外科◆：消化器外科全般および乳腺外科にわたり多数の手術実績をあげており、難易度の高い手術も手がけている。内視鏡手術や癌の化学療法も積極的に行っている。</p> <p>脳神経外科：脳神経外科の疾患、とくに脳卒中症例を多数扱っており、優れた成績をあげている。</p> <p>整形外科：一般外傷患者の受け入れおよび手術に力を入れており、初期研修医には「当直で困らない整形外科初期診療」を身につけてもらうことが可能である。</p>			
研修の概説と特徴			
<p>研修医は、内科（各専門内科）、外科（消化器外科）および選択診療科をそれぞれ4～8週間単位で研修する。研修診療科の固定した指導医が、診療活動、臨床検討会、回診、当直などの研修指導にあたる。内科の研修では、内科全体の研修の一貫性を保つべく総括指導医が助言・指導する。</p>			
研修医の当直			
<p>研修診療科の指導医が当直医の場合かオンコールで呼ばれた場合、研修医は指導医と行動を共にし、指導医の指導・指示を受けながら当直医としての診療に携わる。原則として研修医単独での当直は行わない。</p>			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次 給与310,000円（諸手当あり） 2年次 給与340,000円（諸手当あり） ●食事：昼食、夕食は職員食堂が利用できます。売店も開店しています。 ●宿舎：職員宿舎あり。住居手当あり（上限27,000円）。 ●居室：研究室有 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されていて、各領域の主要学会誌も準備されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

㊤【新潟県済生会三条病院】

住 所	〒955-8511 新潟県三条市大野畑 6-18		病床数：199床
診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科		
研修責任者名	坂内 均（病院長）	連絡先：総務課 soumuka@saisanhp.com 0256-33-1551（代表）	連絡先担当者名：山崎 知洋（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：1人、18年度：2人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
・必修：内科 ・選択必修：外科系（外科、泌尿器科）、小児科、産婦人科、麻酔科	内科5人、外科2人、小児科2人、産婦人科2人、泌尿器科2人	内科1人、泌尿器科2人	
施設の概説・特徴			
<p>当院は我が国最大の社会福祉法人である済生会の全国80以上ある病院のひとつであり、三条市の国道8号線三条大橋のたもとにある許可病床数199床の病院である。訪問看護ステーション、附属保育園、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム等を併設し、保健・医療・介護・福祉の総合的なサービスを提供している。社会福祉法人として無料・低額診療事業をはじめとする社会福祉事業を行い、災害拠点病院の指定も受け、23年度にはDMATも編成し、公的医療機関として県史地域の中核的施設にふさわしく設備を充実させて診療を行っている。常勤医師20名を含め、370名の職員が勤務し、一日平均450人の外来患者と163人の入院患者の診療に当たっている。産婦人科2名、小児科常勤医を3名配置し、県史地域の周産期医療・小児医療の中心的役割を担っている。常勤麻酔医もあり、大手術も数多く施行している。特に腹腔鏡下手術は外科・婦人科・泌尿器科で積極的に施行している。平成25年に透析室を新築増床。平成26年に地域包括ケア病床開設し、地域医療にも力を入れている。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>必修 内科：一日平均228人の外来患者と109人の入院患者の診療を行っている。呼吸器科は喘息、肺炎、肺気腫、陳旧性肺結核など頻度の高い疾患の診療を行っている。腎臓内科は透析ベッド40床を有し血液透析を行っている。消化器内科は年間2,242件の上部消化管や1,335件の下部消化管の内視鏡検査及び治療を行い、また、超音波内視鏡（EUS）により診断精度を上げている。</p> <p>選択必修 外科：専門は消化器一般外科で年間手術件数は186件。胃癌、結腸・直腸癌、乳癌などに対する手術やイレウス、虫垂炎、ヘルニア、痔疾に対する手術、胃癌、大腸癌、胆嚢結石、総胆管結石に対する腹腔鏡下での手術も行っている。 泌尿器科：3人の医師で診療を行っている。尿路結石の治療に必要とされる器械がそろっている。特に、前立腺癌、腎癌、副腎腫瘍に対する腹腔鏡下での手術に力を入れ、経尿道的レーザー前立腺核出術も行っている。年間手術件数は378件。 小児科：小児科は3人の医師で小児疾患全般にわたり幅広く診療を行っている。一日平均54人の外来患者と6人の入院患者の診療を行っている。 産婦人科：2人の産婦人科専門医で年間264件の分娩と223件の手術を行い、特に腹腔鏡下での子宮外妊娠手術、子宮筋腫核出術、腹腔鏡併用腔式子宮全摘出術、子宮鏡下子宮筋腫摘出術、腹腔鏡下子宮付属器腫瘍摘出術等も行っている。</p>			
研修の概説と特徴			
<p>当院では内科8週間または16週間、小児科6週間、産婦人科6週間、選択の診療科16週間または8週間の研修を行う。外来診療、病棟回診、検査、手術への研修医の関わり方や症例検討会などの開催状況に関しては各診療科により異なる。</p>			
研修医の当直			
<p>研修1年目では研修中の診療科指導医が当直の時に、月1～2回（回数に関しては各診療科により異なる）一緒に当直し、診療の見学や補助を行いながら指導を受ける。研修2年目では一人で当直（月0～3回）を行うが、必要があればいつでも研修中の診療科指導医や他科の指導医に協力を依頼し、アドバイスや指導を受けることができる。</p>			
処 遇			
<p>●給与：1年次（月額基本給）380,000円（諸手当）通勤・超勤手当支給、日当直手当月額20,000円 2年次（月額基本給）410,000円（諸手当）通勤・超勤手当支給、日当直手当月額40,000円 ※諸手当：日当直手当・通勤手当、超過勤務手当を支給</p> <p>●食事：昼食は院内レストラン、レストランから弁当の出前、弁当宅配、売店、外食が可能。夕食は外食又は事前の用意が必要。</p> <p>●宿舍：借り上げ宿舍あり（自己負担27,000円）、個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ※どちらでも可能</p> <p>●居室：研修医専用室。</p> <p>●図書・文献：各領域の主要学会誌の用意あり。</p> <p>●インターネット環境：インターネット24時間使用可。各自の机から接続可能。</p>			

※「必修」、「選択必修」で掲載されている診療科は、「自由選択」でも研修可能です。
※上記の診療件数は平成30年度実績です。

②【社会医療法人仁愛会 新潟中央病院】※整形外科のみ研修可能

住 所	〒950-8556 新潟県新潟市中央区新光町1-18		病床数：262床
診療科目	整形外科、内科、形成外科、脳神経外科、リハビリテーション科、歯科口腔外科		
研修責任者名	山崎 昭義（病院長）	連絡先：akiyoshi-y@nice-hp.or.jp（病院長）、 office@nice-hp.or.jp（総務課） k.mizusawa@nice-hp.or.jp（事務長） 025-285-8811（代表）	連絡先担当者名：水澤 清隆（事務長）
新臨床研修医指導実績	なし		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	選択研修：整形外科	日本整形外科学会専門医10人、日本手外科学会専門医1人	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医3人
施設の概説・特徴			
昭和60年に県庁前、新光町に新築移転して以来、救急病院として主に整形外科、脳外科を中心に新潟市の救急医療に貢献してきた。現在は交通事故、労災事故等の減少、あるいは脳外科の縮小にともなって整形外科が専門分野毎（脊椎・脊髄、関節、手、足、外傷・一般整形外科）に発展し、整形外科手術件数2,767件（令和元年）と多くの実績をあげている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
整形外科：脊椎・脊髄、関節、手、足、外傷と専門分化されたチームがそれぞれトップレベルの診療を行う。			
研修の概説と特徴			
研修期間が短いので4等分し、4つの専門領域をひとつずつ指導医とともに研修する。到達目標は日本整形外科学会臨床研修プログラムに準じ、基本的な手術手技も能力に応じて習得させる。			
研修医の当直			
研修医一人での当直は行わない。研修中の整形外科指導医が当直の際、一緒に当直し、診察・治療の見学から開始し、徐々に診療を行って、必要に応じて、指導医のアドバイス、指導を受ける。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）249,800円（諸手当）初任給調整手当216,000円、特殊勤務手当15,000円 2年次（月額基本給）265,000円（諸手当）初任給調整手当216,000円、特殊勤務手当50,000円 ●食事：昼食は外来食堂、売店が開店していて不自由はない。夕食は各自での用意となるため、やや不自由である。 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（13,000円）。 ●居室：他の常勤整形外科医師との共同の居室となる。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室完備。国内図書1,300冊、国外図書200冊、国内雑誌30種、国外雑誌10種。医中誌 Web。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能。 			

③【山形県立中央病院】

住 所	〒990-2292 山形県山形市大字青柳1800番地		病床数：609床
診療科目	内科、心療内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、感染症内科、腫瘍内科、小児科、新生児内科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、頭頸部・耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、緩和医療科、救急科		
研修責任者名	沼畑 健司（教育研修部長）	連絡先：lib@ypch.gr.jp 023-685-2626（代表）	連絡先担当者名：平田 賢司（総務専門員）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：1人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：8人、17年度：12人、18年度：14人、19年度：13人、20年度：17人、21年度：15人、22年度：14人、23年度：15人、24年度：12人、25年度：21人、26年度：17人、27年度：17人、28年度：18人、29年度：18人、30年度：17人、令和元年度：18人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科、救急科、外科（呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、小児外科、乳腺外科）、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、脳神経外科、泌尿器科、頭頸部・耳鼻咽喉科、放射線科	内科31人、救急科8人、麻酔科6人、外科8人、整形外科5人、脳神経外科6人、呼吸器外科2人、心臓血管外科4人、泌尿器科3人、頭頸部・耳鼻咽喉科3人、小児科5人、産婦人科5人、精神科1人、放射線科4人	内科19人、救急科1人、麻酔科2人、外科4人、脳神経外科3人、呼吸器外科2人、心臓血管外科2人、泌尿器科2人、小児科1人、産婦人科1人	
施設の概説・特徴			
当院は、がん・生活習慣病センター、救命救急センターを併設し、山形県の基幹病院として、高度先進医療、予防医療、三次救急医療、さらには緩和ケアまで、幅広い診療活動を行っています。また、周産期医療の充実のためにMFICU・NICU・GCUが設置されています。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科として、呼吸器、血液、糖尿病・内分泌、腎臓・膠原病、消化器内科、循環器内科及び脳神経内科。呼吸器は肺癌の診断、化学療法、肺炎治療。血液は遺伝子標的療法、同種末梢血幹細胞移植、分子標的療法。糖尿病・内分泌は、糖尿病、高血圧、高脂血症、甲状腺疾患、下垂体疾患。腎臓・膠原病は副腎疾患の治療が中心。消化器内科は、内視鏡的治療、癌に対する化学療法、ピロリ菌除菌療法、インターフェロン治療。循環器内科は、心カテ、冠・腎・末梢動脈のインターベンション、ICD 植え込み、アブレーションを含めた不整脈診断・治療。脳神経内科は、全ての神経筋疾患の他に、神経系救急疾患の緊急入院も多い。 外科◆：消化器、乳腺、甲状腺からヘルニア、痔疾患まで、多様な疾患を治療対象としている。 小児科：小児の各種疾患の診断治療、早産児、その他の新生児医療、小児救急医療、小児保健活動などを幅広く行っており、特に新生児医療と循環器医療に力を入れている。 心臓血管外科◆：新生児から高齢者まで、心大血管手術を中心に末梢動脈外科、静脈外科を含め診療を行っている。 産婦人科：産科及び婦人科領域全般。			
研修の概説と特徴			
研修の目標として、プライマリーケアに要求される知識・技能及び態度の修得を含む幅広い能力をもった医師の養成を目指しています。当院の研修は、受入科1科での研修が基本であるが、希望によっては複数科のローテーションも可能です（1科2か月以上）。初期研修医・専門研修医から構成される研修医会が、研修医向けの講義を企画し、また、救急当直での示唆に富む症例についての勉強会（救急 review）を週に1回開催しています。			
研修医の当直			
研修医の当直は5月から開始され、1年次と2年次が1人ずつペアで当直にあたり、当初は2年次から基本的な事項について指導を受けられるようになっていきます。また、上級医も、総合系、救急系、循環器、脳神経など計6人が常時当直しており、研修医当直の診療行為に対して指導的責任を持ちます。また、当直医以外にも各診療科で当番体制をとっており、24時間あらゆる疾患に対し指導を受けることができるようになっていきます。			
処 遇			
●給与：1年目月額361,804円、2年目379,784円、その他期末手当、時勤外勤務手当、宿日直手当（1回5時間以上につき、20,000円）、通勤手当等支給。年周総額1年目約620万円、2年目約870万円 ●食事：院内食堂、仕出し弁当、売店での弁当販売、近隣にコンビニ、飲食店あり ●宿舍：個人準備 住宅手当あり（上限27,000円）なお、希望があれば病院敷地内に医師公舎があり入居可能です。 ●居室：研修医専用医局あり、専用机あり ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されており、医学中央雑誌、Up To Date 等が利用可能。また、外国雑誌を中心に電子ジャーナルあり ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「自由選択」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑨【鶴岡市立荘内病院】

住 所	〒997-8515 山形県鶴岡市泉町4-20		病床数：521床
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理科		
研修責任者名	吉田 宏 (副院長)	連絡先：rinken@shonai-hos.jp 0235-26-5111 (代表)	連絡先担当者名：富樫 航平 (総務課)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：3人、17年度：5人、18年度：3人、19年度：0人、20年度：1人、21年度：5人、22年度：0人、23年度：1人、24年度：1人、25年度：0人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：2人、18年度：3人、19年度：2人、20年度：4人、21年度：4人、22年度：2人、23年度：2人、24年度：2人、25年度：2人、26年度：5人、27年度：1人、28年度：5人、29年度：1人、30年度：3人、令和元年度：4人		
研修受け入れ可能診療科*	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科(内科、神経内科、消化器科、循環器科)、外科(外科、小児外科)、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、眼科	内科(内科2人、神経内科1人、呼吸器科1人、消化器科1人、循環器科3人)、外科5人、小児科6人、産婦人科3人、整形外科6人、脳神経外科2人、小児外科1人、皮膚科1人、泌尿器科2人、放射線科2人、麻酔科2人、眼科3人、病理科2人	内科(内科2人、神経内科1人、循環器科2人)、外科4人、小児科3人、産婦人科2人、整形外科2人、小児外科1人、泌尿器科2人、麻酔科2人、病理科1人	
施設の概説・特徴			
新潟県に隣接する庄内平野の南域、155,000人医療圏における急性期医療の中核を担う基幹病院。平成15年に移転し、平成25年には創立100周年を迎えた。屋上ヘリポート等を備える災害拠点病院で、近年では地域医療支援病院、県地域周産期母子医療センター、県がん診療連携指定病院に指定されている。豊富な症例を通して幅広く知識・技能を修得できるだけでなく、地域社会への密接な関わりを感じながら、地域急性期医療の重責を担う自覚を育むことができる病院である。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科は、腎疾患・膠原病・糖尿病を中心に、その他、感染症などを含む総合的な診療分野を担当している。神経内科は、脳、脊髄、筋肉、抹消神経などに病気がある患者さんについて、その原因が何かを考えて治療する。神経内科疾患全般の他に脳卒中の経験も積める。消化器科は、上部消化管、下部消化管をはじめとして胆道疾患、肝疾患などの消化器疾患全体を網羅して診療を行っています。循環器科は、狭心症、心筋梗塞、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧、抹消血管の閉塞性疾患などの心血管疾患を対象に診療している。カテーテル治療(冠動脈形成術・高周波焼灼術など)やペースメーカー植込みなどの小手術も行う。 外科◆：食道から直腸・肛門までの消化管と、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓や乳腺・甲状腺などの疾患に対して、主として手術を中心とした治療を行う科であるが、抗がん剤を用いた化学療法なども積極的に導入し、精神面のケアを含む緩和医療の充実にも力を注いでいる。 小児科：一般小児科入院医療、小児救急、新生児医療の3本立てで診療し、チーム医療を大切にしている。毎日当直をして、午後9時までの小児救急とNICU業務を担当している。 産婦人科：合併症・リスクのある妊娠出産例や婦人科悪性腫瘍など地域の基幹病院(母児医療センター併設)として幅広い産婦人科疾患に対応している。 整形外科：骨、関節などの治療を行い、対象疾患はきわめて多岐にわたる。骨折、脱臼などの外傷はもちろんのこと脊椎、関節、手などのさまざまな疾患の多くを経験する。 脳神経外科：脳卒中をはじめとした急性期医療が中心である。脳卒中を研鑽したい若い医師には良い病院である。 小児外科◆：新生児から中学生までの患児を治療する。手術内容も、新生児手術から代表的疾患である先天性胆道拡張症、ヒルシュスプルング病等様々な症例が経験できる。また、腹腔鏡手術も積極的に取り入れている。 皮膚科：皮膚疾患全般を診療しており、検査、診断、初期治療から慢性疾患管理まで経験できる。 泌尿器科：外来では腹部超音波検査、膀胱鏡検査など、入院では膀胱癌、前立腺肥大症の経尿道的手術、体外衝撃波結石破砕術、膀胱全摘術などを行っている。 放射線科：画像診断(CT、MRI)、核医学検査、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)等のインターベンショナルラジオロジー(IVR)、放射線治療を行っている。 麻酔科：ペインクリニック外来で、ペインクリニック専門医の指導を受けられます。 眼科：白内障に対する水晶体再建術はもちろん、網膜硝子体疾患に対して硝子体手術も行っている。網膜剥離等の緊急性の高い疾患にも対応している。			
研修の概説と特徴			
臨床医に求められる初期治療・救急医等、プライマリ・ケアの基本的診療能力(態度、技能、知識)の修得をはじめ、高度・多様化する医療と社会的必要性に対応できる医師の養成を目指す。広大な圏域の唯一の基幹病院であり、プライマリ・ケアから多岐にわたる救急、がん診療まで豊富な症例を有し、疾患内容も広範であることから幅広い臨床研修ができる。研修医主導でローテーションが組めて、規模に対して研修医を少数にしているため、他の研修医との重複も少なく、多くの手技経験を積むことができる。			
研修医の宿日直			
1年次は、診療科の担当指導医の日直などで補佐を行う。2年次は、月2~3回宿日直研修を行う。医療圏の急性期・重症患者が集まる地域の中核病院として、年間約16,000人の救急患者、年間約4,100件の救急車受入がある。			
処 遇			
●給与：1年次(月額基本給)335,000円(諸手当)地域手当53,600円、診療手当10,000円、研究手当30,000円(期末手当)約650,000円/年 2年次(月額基本給)340,900円(諸手当)地域手当54,544円、診療手当20,000円、研究手当50,000円(期末手当)約1,020,000円/年 ほか、時間外勤務手当、宿日直手当、通勤手当など。年間給与見込額 1年次750万円、2年次1,090万円。 ●食事：院内コンビニエンスストア(7:00~21:00)があるほか、弁当注文(食堂、院外)ができる。 ●宿舍：医師公舎あり(集合住宅形式40戸、戸建て形式1戸)自身で準備の場合は住居手当あり(上限 月27,000円) ●居室：研修医室あり(医局に隣接)図書、雑誌のほかUpToDate等の利用、専門業者への文献複写依頼が可能。 ●インターネット環境：各自の専用機からインターネット接続が可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和3年度当院での外科(必修)担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

協力型病院

⑨【秋田赤十字病院】

住 所	〒010-1495 秋田県秋田市上北手猿田宇苗代沢222-1		病床数：480床
診療科目	内科、腎臓内科、代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、精神科、小児科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、放射線科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、緩和ケア内科、病理診断科、小児外科		
研修責任者名	河合 秀樹	連絡先：soumu@akita-med.jrc.or.jp 018-829-5000 (代表)	連絡先担当者名：西谷 悠佑 (総務課)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：1人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：12人、18年度：11人、19年度：12人、20年度：21人、21年度：22人、22年度：24人、23年度：20人、24年度：24人、25年度：17人、26年度：26人、27年度：23人、28年度：22人、29年度：25人、30年度：19人、令和元年度：22人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（腎臓内科、代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科）、救急科、外科（消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科）、小児科、産婦人科（産科+婦人科）、精神科 選択研修：整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科	呼吸器外科学会専門医1人、人間ドック学会専門医20人、日本アレルギー学会専門医2人、日本プライマリ・ケア連合学会専門医1人、日本リウマチ学会リウマチ専門医3人、日本リハビリテーション医学会専門医1人、日本医学放射線学会専門医3人、日本化学療法学会専門医2人、日本外科学会専門医15人、日本肝臓学会専門医3人、日本眼科学会専門医1人、日本気管食道科学会専門医1人、日本救急医学会専門医1人、日本胸部外科学会専門医1人、日本形成外科学会専門医1人、日本血液学会専門医2人、日本呼吸器学会専門医2人、日本産科婦人科学会専門医7人、日本耳鼻咽喉科学会専門医3人、日本周産期・新生児医学会専門医7人、日本循環器学会専門医6人、日本小児科学会専門医6人、日本小児外科学会専門医1人、日本小児循環器学会専門医1人、日本消化管学会専門医2人、日本消化器外科学会専門医7人、日本消化器学会専門医1人、日本消化器内視鏡学会専門医7人、日本消化器病学会専門医13人、日本神経学会専門医3人、日本人類遺伝学会専門医2人、日本腎臓学会専門医4人、日本整形外科学会専門医6人、日本精神神経学会専門医2人、日本創傷外科学会専門医1人、日本大腸肛門病学会専門医1人、日本超音波医学会専門医3人、日本東洋医学会専門医1人、日本糖尿病学会専門医5人、日本透析医学会専門医4人、日本内科学会専門医33人、日本乳癌学会専門医2人、日本脳神経外科学会専門医3人、日本脳神経血管内治療学会専門医1人、日本脳卒中学会専門医3人、日本泌尿器学会専門医5人、日本皮膚科学会専門医1人、日本病理学会専門医2人、日本婦人科腫瘍学会専門医2人、日本麻酔科学会専門医2人、日本脈管学会専門医1人、日本臨床細胞学会専門医3人、日本臨床腫瘍学会専門医3人、日本老年精神医学会専門医1人	人間ドック学会指導医2人、日本アレルギー学会指導医1人、日本プライマリ・ケア連合学会指導医1人、日本リハビリテーション医学会指導医1人、日本医学放射線学会指導医1人、日本化学療法学会指導医1人、日本外科学会指導医6人、日本肝臓学会指導医1人、日本胸部外科学会指導医1人、日本形成外科学会指導医1人、日本呼吸器学会指導医1人、日本産科婦人科学会指導医3人、日本耳鼻咽喉科学会指導医1人、日本周産期・新生児医学会指導医1人、日本小児外科学会指導医1人、日本小児循環器学会指導医1人、日本消化管学会指導医1人、日本消化器外科学会指導医5人、日本消化器学会指導医1人、日本消化器内視鏡学会指導医6人、日本消化器病学会指導医7人、日本神経学会指導医3人、日本腎臓学会指導医2人、日本精神神経学会指導医1人、日本脊椎脊髄病学会指導医2人、日本大腸肛門病学会指導医1人、日本超音波医学会指導医2人、日本糖尿病学会指導医2人、日本脳神経外科学会指導医2人、日本脳卒中学会指導医2人、日本泌尿器学会指導医3人、日本病理学会指導医2人、日本婦人科腫瘍学会指導医1人、日本臨床細胞学会指導医3人、日本臨床腫瘍学会指導医1人、日本老年精神医学会指導医1人	
施設の概説・特徴			
当病院は県内唯一の救命救急センターを有し、3次救急医療の中核的医療機関の役割を果たしている。救命救急センター、総合周産期母子医療センター、神経病センターでは、政策医療を行っている。さらに、消化器病センター、腎透析センター、健康増進センターも備え、地域社会の要請に応える医療活動の推進はもとより、災害・救急活動や国際救護活動を積極的に行うことも使命としている。また、平成23年度よりドクターヘリの運航が開始され、平成24年度には、NPO 法人卒後臨床研修評価に認定された。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科、外科、産科、婦人科、小児科、新生児科、精神科、救急科（救急外来及び病棟処置）。 内科：内科（総合診療）、腎臓内科、代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科（消化管）、消化器内科（肝胆脾）、循環器内科から選択。 外科◆：消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科から選択。			
研修医の当直			
研修医当直はそれぞれ1人ずついる内科系、外科系の上級医の指導の下、研修医2名体制（1年次、2年次各1名）で、月に約4～6回救命救急センターで行う。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）400,000円（諸手当）研修手当 計100,000円支給（年2回） 2年次（月額基本給）450,000円（諸手当）研修手当 計100,000円支給（年2回） ●食事：昼食は、職員食堂や売店（7：00～21：00）を利用することができる。夕食は職員食堂に弁当を注文などがある。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり 個人準備 住居手当あり（上限28,500円）※病院近辺に民間アパート多数あり。 ●居室：研修医専用の居室あり。 ●図書・文献：図書室あり。（24時間利用可能）電子図書設置。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

③【長野赤十字病院】※脳神経外科志望者のみ研修可能

住 所	〒380-8582 長野県長野市若里5-22-1		病床数：700床
診療科目	内科、血液内科、呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、小児科、精神科、神経内科、膠原病リウマチ内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、小児外科、リハビリテーション科、リウマチ科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科、臨床検査科、歯科口腔外科		
研修責任者名	天野 芳郎（臨床研修センター長）	連絡先：kennsyuui@nagano-med.jrc.or.jp 026-226-4131（代表）	連絡先担当者名：竹内 智子（医師業務支援課 臨床研修担当）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学医歯学総合病院プログラム採用 平成17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：1人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：1人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成17年度：6人、18年度：5人、19年度：4人、20年度：8人、21年度：7人、22年度：9人、23年度：7人、24年度：10人、25年度：9人、26年度：11人、27年度：13人、28年度：12人、29年度：10人、30年度：12人、令和元年度：13人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（血液内科、循環器、消化器、呼吸器、糖尿病・内分泌、腎臓、神経）、救急部、外科（呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、心臓血管外科、消化器外科）、小児科、産婦人科、精神科 選択研修：脳神経外科、麻酔科	内科（内科）27人、内科（血液内科）8人、内科（循環器）7人、内科（消化器）9人、内科（呼吸器）3人、内科（糖尿病）2人、内科（腎臓）3人、内科（神経）5人、救急4人、外科（外科）11人、外科（消化器）4人、外科（心臓血管）3人、小児科4人、産婦人科4人、精神科3人、脳神経外科4人、麻酔科5人	内科（内科）27人、内科（血液内科）4人、内科（循環器・インターベンション学会）1人、内科（消化器）3人、内科（呼吸器）3人、内科（糖尿病）1人、内科（腎臓）1人、内科（神経）3人、救急4人、外科（外科）5人、外科（消化器）2人、外科（心臓血管）3人、小児科1人、精神科3人、脳神経外科2人、麻酔科5人	
施設の概説・特徴			
明治4年頃、近隣の開業医が長野市内大門付近に共同医学所を開設し、重症及び病態不明の患者を集め診察にあたることも、医師の育成教育を行ったのが病院の起源とされています。その後、「共立長野病院」「公立長野病院」「長野市立病院」と変遷を重ね、明治37年「日本赤十字社支部病院」として発足し、昭和58年長野市若里（現在地）に新築移転しました。赤十字病院としては平成26年に110周年を迎えました。現在許可病床数700床、救命救急センターを有し、1日の外来患者数も約1400人と、長野県北信地域を代表する中核基幹病院として、救急医療をはじめ、地域支援・病診連携に重点をおいた信頼される医療活動を展開しています。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
血液内科：血液悪性腫瘍、止血異常疾患などの血液疾患全般及びHIV感染症に関する診療を行っています。 消化器内科：上部消化管、下部消化管をはじめとして膽道疾患、肝疾患など消化器疾患全体を網羅して診療を行っています。 糖尿病・内分泌：糖尿病を代謝異常のみを是正するという立場だけではなくむしろ背後にある疾患の発見、診断治療が重要と考えて診療を行っています。 呼吸器内科：当科の入院患者は、肺癌、肺炎、肺気腫や肺結核後遺症などの慢性呼吸器不全、自然気胸が多くを占めています。 神経内科：科全体として、すべての神経内科疾患に対応できる偏りのない診療が可能です。（膠原病リウマチ内科含む） 循環器科：循環器疾患全体にわたって診療しており、救急疾患については365日24時間体制で積極的に取り組んでいます。 産婦人科：婦人科では悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮脱、不妊症などを中心に診療を行い、産科では通常の妊婦健診に加え、いわゆるハイリスク妊娠の治療を行っています。 小児科：長野県北信地域の小児医療の中核をなし、新生児医療では、地域周産期センターとして重症新生児を受入れ、集中治療を行っています。 外科◆：長野県北部の中核病院として、消化器外科（食道、胃、大腸、肝胆膵、ヘルニア、急性腹症など）、乳腺・内分泌外科（乳腺、甲状腺など）呼吸器外科（肺、縦隔など）領域の疾患に対して手術を行っています。 脳神経外科：専門医3人体制で中枢神経系疾患のほとんどを扱っています。 総合病院の利点を生かし、各科各部門との緊密な連携のもと、CT、MRI、脳血管撮影装置、SPECTなどの最先端診断装置を利用し、より良い医療を提供するべく努力しています。			
研修の概説と特徴			
内科研修では7つの診療科の中から希望の科を8週間ずつローテーションしてもらいます。基本的に各研修科の指導医についての研修となります。院内のカンファレンス、クルスス、症例発表会にも参加していただきます。救急外来での時間外勤務は1年目は準夜当直を担当します。当直回数はおおよそ1ヶ月に4回程度です。			
時間外救急外来診療			
平均月4回の準夜帯（17：00～24：00）・休日日勤帯の救急外来時間外診療を行います。救急患者のファーストタッチを行い、トリアージの経験を重ね、指導医・上級医と相談し治療を行います。救急外来は、救急当直、内科系、外科系医師各1名とともに研修医が対応します。その他にNICU担当（小児科医師）、ICU担当、EICU担当、産科担当の医師が院内に待機しています。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）253,100円（諸手当）医師確保手当67,965円 2年次（月額基本給）268,100円（諸手当）医師確保手当90,215円 ●食事：院内には、食堂、喫茶室、売店があり、病院周辺には、ファミレスなどの飲食店が多数ありますので不自由はありません。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり 住居手当（上限28,500円） ●居室：研修医専用の居室あり。近くにシャワー室、仮眠室あり。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室があり、24時間利用可能です。医学中央雑誌WEB、JDREAM利用できます。インターネット可能な端末も整備されています。国内雑誌約120タイトル、外国雑誌約75タイトル、メディカルオンライン、クリニカル・キー、MEDLINE with Full Text、シュプリンガー・リンク等契約中。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
 ◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

③④【水戸済生会総合病院】

住 所	〒311-4198 茨城県水戸市双葉台3-3-10		病床数：472床
診療科目	内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、内分泌内科、緩和ケア内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科		
研修責任者名	千葉 義郎(臨床研修センター長兼循環器内科部長)	連絡先：resident@mito-saisei.jp 029-254-5151 (代表)	連絡先担当者名：平根、廣木 (臨床研修センター)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：2人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：2人、27年度：2人、28年度：0人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：12人、17年度：16人、18年度：8人、19年度：9人、20年度：14人、21年度：15人、22年度：18人、23年度：17人、24年度：19人、25年度：19人、26年度：10人、27年度：12人、28年度：11人、29年度：9人、30年度：10人、令和元年度：17人		
研修受け入れ可能診療科*	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科(循環器、消化器、腎臓、緩和ケア)、救急科、外科(消化器、心臓血管、呼吸器)、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、脳神経外科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、麻酔科	内科(循環器)4人、内科(消化器)7人、内科(血液)1人、内科(腎臓)1人、救急科4人、外科(外科)9人、外科(消化器)3人、外科(心臓血管外科)2人、整形外科3人、脳神経外科2人、眼科2人、皮膚科1人、小児科3人、産婦人科6人、麻酔科5人、形成外科1人、泌尿器科1人	内科(消化器)1人、内科(血液)1人、内科(腎臓)1人、救急科1人、外科(外科)4人、外科(消化器)1人、外科(胸部外科)2人、麻酔科2人、泌尿器科2人	
施設の概説・特徴			
救命救急センターを有する急性期型の総合病院である。茨城県のドクターヘリの基地病院の一つであり、かつ水戸市のドクターカーも運用している。救急科をローテーション中に、これらに同乗する機会もあるためプレホスピタルケアが学べる。総合周産期母子医療センターは茨城県の県央県北地域の周産期救急を担っており、隣接する県立こども病院との連携が密である。その他、緩和ケア病棟を持ち、終末期医療にも積極的に取り組んでいる。研修医のみならず、救急救命士、看護師、薬剤師など様々な職種の研修生、実習生を受け入れている。これらを特徴とした水戸地域の基幹病院であり、多種多様な疾患が経験できる。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科では救命救急センターとの連携を密にしており、多種多様な症例が経験できる。循環器内科ではカテーテルインターベンションのみならず、不整脈に対するカテーテルアブレーションやICD植え込みなど幅広い診療を行っている。また心臓血管外科との連携も密で、研修医が手術に参加することも可能である。消化器内科では消化器センターとして外科と連携しながら最新技術を取り入れながら診療に当たっている。腎臓内科は新規の血液透析導入を年間約100件程度行っており、地域最多である。また腎生検数も多く、多くの症例を経験できる。 救急科では茨城県のドクターヘリの基地病院の一つであり、かつ水戸市のドクターカーも運用している。救急科をローテーション中にこれらに同乗する機会もあるためプレホスピタルケアが学べる。 外科◆：消化器外科、年間手術症例は約550件。消化器外科全般にわたる診療を行っている。NSTチームが機能している。胸部外科の年間手術症例数は約420件。開心術を中心に診療を行っている。整形外科は、年間手術件数約1,100件。関節疾患、脊椎脊髄疾患の症例が多い。脳神経外科は脳血管障害、脳腫瘍など脳・神経疾患のほぼ全域を対象に24時間体制で臨んでいる。 小児科：日常臨床で遭遇することの多い疾患の初期治療を修得し、一般小児科医あるいは家庭医として小児診療ができることを目標としている。 麻酔科：年間4,500件以上の麻酔科担当症例があり、心臓手術の麻酔を含むあらゆる種類の麻酔を行っている。 眼科：白内障手術が主体だが、緑内障・網膜剥離手術など手術の種類は豊富である。 皮膚科：皮膚に現れるすべての発疹に対応する。湿疹、蕁麻疹、中毒疹、細小・ウイルス性疾患、良性・悪性腫瘍など。アザに対するレーザー治療も行う。 産婦人科：総合周産期母子医療センターがあり、ハイリスク分娩など豊富な症例を経験できる。 形成外科：先天異常、外傷、皮膚腫瘍などを中心に幅広く形成外科分野の手術を行っている。 泌尿器科：泌尿器科におけるプライマリケアの取得を目標とする。血尿、尿路結石の診断や治療、スタイレットを用いたFoleyの挿入、膀胱鏡、エコー検査の取得など。状況にて経尿道的手術手技、開腹手術の会得。			
研修の概説と特徴			
水戸済生会総合病院での研修プログラムでは、内科と救急科を必修として履修し、選択科目は研修医の希望に可能な限り柔軟に対応している。地域の基幹病院として内科系、外科系とも豊富な症例を有している。			
研修医の当直			
当直体制は、主に救急車対応の救急科1人、walk-in対応の一般診療科1人、ICU担当1人、産科1人、初期研修医1人または2人の計6～7人体制。研修医は上級と伴に救急患者の初期対応にあたる。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次(月額基本給)350,000円(諸手当)賞与600,000円、2年次(月額基本給)460,000円(諸手当)賞与1,020,000円 ●食事：朝食、昼食、夕食とも医局で可。 ●宿舎：研修医宿舎あり。3万円の補助あり。 ●居室：研修医専用居室あり。 ●図書・文献：図書室あり。主要和洋雑誌。 ●インターネット環境：各自の机から接続可。 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。
◆令和3年度当院での外科(必修)担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

⑨【竹田綜合病院】

住 所	〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3-27		病床数：837床
診療科目	内科、リウマチ科、循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、外科、大腸・肛門外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、精神科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、歯科、呼吸器外科、頭頸部外科、緩和ケア内科、内視鏡外科、病理診断科		
研修責任者名	神本 昌宗（診療部長）	連絡先：r-kensyu@takeda.or.jp 0242-27-5511（代表）	連絡先担当者名：武田・吉田（臨床研修管理室）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：0人、20年度：0人、21年度：0人、22年度：0人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成16年度：7人、17年度：10人、18年度：7人、19年度：6人、20年度：4人、21年度：7人、22年度：10人、23年度：1人、24年度：8人、25年度：8人、26年度：8人、27年度：8人、28年度：10人、29年度：10人、30年度：9人、令和元年度：10人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科）、外科 選択研修：脳神経外科	内科（内科）5人、内科（循環器）2人、内科（消化器）3人、内科（呼吸器）1人、内科（脳神経内科）3人、外科6人、脳神経外科3人	内科（内科）1人、内科（循環器）0人、内科（消化器）1人、内科（呼吸器）0人、内科（脳神経内科）2人、外科3人	
施設の概説・特徴			
当院は、会津地域の基幹病院として、できるだけ先進的な医療を取り入れると共に、2次救急告示病院ではあるが、24時間受け入れ可能な救急体制を構築し、多数の救急患者さんを受け入れている。また、救急・急性期医療のみならず亜急性期から慢性期医療や在宅介護などにも力を入れており、地域に密着した広範なヘルスケアサービスを提供していることが特徴である。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科は糖尿病、高血圧症、高脂血症等生活習慣病、感染症、膠原病、腎臓病内分泌疾患等多くの症例を取り扱っている。循環器内科は心臓血管外科医と連携をとり24時間対応している。消化器内科は内視鏡検査の件数は県内一を誇り、早期胃がんに対する内視鏡的粘膜切除は年間約37例施行している。呼吸器科は呼吸器内科医と呼吸器外科医により構成されており、多岐にわたる呼吸器疾患の診断から治療までの全てを担っている。神経内科は会津地方の基幹病院で、常勤の神経内科医がいる唯一の病院である。 外科◆：腹部外科中心に乳腺外科・大腸・肛門外科・小児外科をカバーしている。手術件数は年間700件を超え、症例も豊富で様々な疾患が経験できる。 脳神経外科：脳神経内科との診療連携を強化のため「脳神経疾患センター」を開設し、脳卒中の発症から在宅まで切れ目のない治療・ケアを提供し、地域の脳神経疾患治療に重要な役割を果たしている。			
研修の概説と特徴			
当院での研修開始時期によって多少の差はあるが、2ヶ月を一つの単位として各診療科を研修する。各診療科において指導医の指導の下、積極的に治療、手技の経験を積んでいる。各科研修とは別に、当院研修期間を通して、週2回の研修医勉強会を実施している。また、救急外来では common disease を含む数多くの症例が経験できる。			
研修医の当直			
当院の救急医療は、年間約48,000人の救急患者、約7,000台の救急車を受け入れており、1次から3次救急まで多彩な患者さんを診療している事が特徴である。救急の研修は1年次の後半から、救急室での準夜（16:30～24:00）及び休診日の日直を各科研修と並行して行う。頻度は月5回程度。上級医を含む3人体制で行っているが、各診療科のバックアップ体制は十分整っている。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）472,050円（職務手当含む）、2年次（月額基本給）500,400円（職務手当含む） （諸手当）通勤手当：上限24,500円、緊急診療手当：上限24,000円/1日（30分につき2,000円）、 救急室準夜手当：25,000円/回、救急室日直手当：25,000円/回、 当直手当：20,000円/回（芦ノ牧温泉病院） ●食事：病院休診日に関らず、朝、昼、夕と職員食堂が利用可能。（ただし、夕食は7時半まで）また、日中は院内の売店が開店している。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり 住居手当あり（上限35,000円） ●居室：研修医専用の居室有 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されており、文献検索のデータベースは院内LANの図書室HPから利用可能である。 電子ジャーナル、医中誌Web（Ver 4）、PubMed、JDream II、Up To Date（CD-ROM版）、診療ガイドライン、CochraneLibrary、MDConsult、ID/Password また、各領域の主要学会誌も準備されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和3年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。

〈地域型病院〉

㊤【新潟県立妙高病院】

住 所	〒949-2106 新潟県妙高市大字田口147-1		病床数：56床
診療科目	内科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、脳神経内科、リハビリテーション科		
研修責任者名	岸本 秀文（病院長）	連絡先：keieigakari2@myoukou-hsp.gr.jp 0255-86-2003（代表）	連絡先担当者名：古山 彩織（主事）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：2人、17年度：5人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：1人、21年度：1人、22年度：2人、23年度：2人、24年度：1人、25年度：2人、26年度：3人、27年度：2人、28年度：1人、29年度：2人、30年度：1人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成16年度：4人、17年度：2人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：3人、21年度：2人、22年度：3人、23年度：2人、24年度：3人、25年度：2人、26年度：3人、27年度：4人、28年度：5人、29年度：5人、30年度：6人、令和元年度：4人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		内科1人、腎臓1人、透析1人	
施設の概説・特徴			
日本百名山に数えられる妙高山を目前にする当院は、妙高市（妙高高原・妙高地区）、上越市中郷地区、長野県信濃町を診療圏とし、プライマリケアからターミナルまで地域医療を提供し、基幹病院である県立中央病院をはじめとする地域の医療機関と連携して地域完結型医療を行っている。また、温泉を利用した療養環境の入院施設を備え、リハビリ医療、訪問診療・看護等の在宅医療を重視した地域密着型医療実践病院である。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：研修期間は6週間であり、外来診察と入院患者受け持ちの両方を担当する。すなわち、入院した患者の退院後も自分で外来治療を行うこととなる。 また、指導医とともに訪問診療（月50人程度）及び隣接する特別養護老人ホーム「名香山苑」入所者の健康管理にも携わる。			
研修医の当直			
地域医療研修は研修二年目で行われるため、当直の際には、救急・夜間の患者のファーストタッチを行うこととなる。必要に応じて近隣に居住する指導医と連絡を取り、アドバイス・指導を受けることとなる。医療チームの中心的存在である医師としての地位・比重は、大規模病院とは比較できないほど大きい。医療チームリーダーとしての研修は十二分に行えることとなる。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）通勤手当：2,900円/月（上限33,700円、車2 km以上で支給）、 時間外手当：1年次@2,470～3,162円/h、2年次@2,709～3,468円/h（年度ごとに変動あり。勤務日・時間により額変動）、 当直手当：1年次10,000円/回、2年次20,000円/回（当直時間5時間未満は50/100の額） ●食事：昼は売店を利用できるが、夕食は外食あるいは出前となる。近くにスーパー、コンビニ、食堂もあるため不自由はない。 ●宿舎：借り上げ宿舎（医師用病院宿舎）あり 無料 ●居室：研修医専用個室有り。 ●図書・文献：各種医学図書、雑誌を整備。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能。 			

㊦【新潟県立柿崎病院】

住 所	〒949-3216 新潟県上越市柿崎区柿崎6412-1		病床数：55床
診療科目	内科、外科、眼科、整形外科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、脳神経内科		
研修責任者名	太田 求磨（院長）	連絡先：keieika@kakizaki-hp.niigata.jp 025-536-3131（代表）	連絡先担当者名：田辺 茂男（経営係長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成23年度：3人、24年度：3人、25年度：3人、26年度：6人、27年度：2人、28年度：1人、29年度：2人、30年度：1人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成23年度：4人、24年度：5人、25年度：4人、26年度：4人、27年度：3人、28年度：5人、29年度：2人、30年度：4人、令和元年度：6人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		総合内科専門医 1人、日本呼吸器学会専門医 1人	日本感染症学会指導医 1人
施設の概説・特徴			
新潟県上越市北に位置し、明治8年に創立され、140年の歴史がある。キャッチフレーズは、「親切、信頼、安全、安心、愛される病院」(2S3A)、「きれいな病院、明るい病院、喜ばれる病院、また来たい病院、笑顔のある病院」、「自ら考え働く病院」、「開かれた病院」3K「感謝、感動、関心」職場である。プライマリケア、救急医療、訪問診療・看護の提供は勿論のこと、地域医療病院として、「地域づくりに役立つ」活動を積極的に行う。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
総合診療科を平成28年に設立し、様々な症状に対する初期診療に対応する能力を身に着けることを目標としている。従来の初期臨床研修では、入院診療に重きを置いているが、臨床医として、初診外来診療や再診への対応する能力が求められる。指導医とともに初診患者のマネジメントを行う。初診1回では、対応することができない場面もあり、数回に分けて問題解決していくことや、治療効果を外来で判定し、治療効果を実感する経験をする中で、臨床医としての能力向上を図る。一つの診療科のみでなく、複数の診療科にまたがって受診する患者の健康問題、ポリファーマシーなど今後の医療で重要な問題点の視点を身に着ける。また、基幹病院と地域医療提供する医療機関の役割、病院のみでなく、地域の複数の医療、介護提供する機関でのケアの提供体制を経験していく。			
研修医の当直			
原則1人当直である。内科拘束医が待機しており相談できる。問診、診察、検査指示、その結果判断など、プライマリケアの救急を経験できる。心肺蘇生、気管内挿管、気管支鏡を使用した挿管と吸引、中心静脈カテーテル挿入、尿路カテーテル挿入、上部消化管内視鏡、腹部エコー、胸腔穿刺法、腹腔穿刺法など、各種手技を経験できる。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）310,000円、2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（車の場合通勤距離が2 km以上ある場合、距離に応じ支給）、 時間外手当：勤務時間外に診療行為を行った実務時間に対し支給、 当直手当：1年次10,000円/回、2年次20,000円/回（5時間未満は1/2） ●食事：病院での食事の提供はなし。朝・夕食は自炊または外食、昼食は業者配達弁当または出前。付近にコンビニが2軒有り。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり 住居手当あり（上限27,000円） ●居室：常勤医と同じ研究室に専用デスク有り。 ●図書・文献：小図書室有り。いくつかのジャーナルの定期購入を行っている。インターネット検索ができる。必要な文献は、県立病院中央図書室である県立がんセンター新潟病院図書室に依頼して、取り寄せ可能である。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能（無線LAN使用）。 			

地域型病院

㊸【新潟県立松代病院】

住 所	〒942-1526 新潟県十日町市松代3592-2		病床数：50床（55床）
診療科目	内科、整形外科、精神科		
研修責任者名	鈴木 和夫（院長）	連絡先：matsudai.hospital2@pref.niigata.lg.jp 025-597-2100（代表）	連絡先担当者名：野口 良二（事務長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：6人、17年度：6人、18年度：3人、19年度：2人、20年度：2人、21年度：4人、22年度：4人、23年度：2人、24年度：4人、25年度：3人、26年度：1人、27年度：2人、28年度：0人、29年度：1人、30年度：0人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成16年度：0人、17年度：0人、18年度：0人、19年度：6人、20年度：2人、21年度：2人、22年度：1人、23年度：3人、24年度：3人、25年度：2人、26年度：1人、27年度：3人、28年度：4人、29年度：6人、30年度：2人、令和元年度：2人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	総合内科専門医2人、呼吸器学会1人、アレルギー学会1人	内科学会指導医2人
施設の概説・特徴			
新潟県十日町市の中山間地に位置し、約5,500人の住民全体を対象とする、一般病床50床の小規模地域医療病院です。当地域の医療施設は当院と国保診療所が1カ所あるのみで、内科一般診療・プライマリケアを中心に、地域内の保健・医療・福祉の全分野にかかわる業務を担っています。地域社会の一員として、「地域の生活を医療で支える」が職員全員の合言葉です。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：入院から外来・訪問での退院後フォローまで、主治医として地域に提供する医療すべてに直接携わり、また保健所・福祉施設・医師会・訪問看護ステーション等での院外業務に参加し、地域に必要な医師業務全般を研修します。			
研修医の当直			
検査科・放射線科の技師業務を研修の最初に習得してもらい、レントゲン・CT・エコーなどの画像検査、血液ガス・緊急生化学などの検体検査を自分ひとりでできるようになります。もちろん困ったときは専門技師と上級医が待機しています。プライマリ救急にファーストタッチで係わることも研修目標の一つです。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次月額310,000円、2年次月額340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（片道2 km以上、距離応じ支給） 時間外手当：1年次1,976円、2年次2,167円（年度ごとに変動あり。勤務日、時間により額変動） 当直手当：1年次10,000円/回、2年次20,000円/回 ●食事：昼食は売店にて弁当を斡旋しています。朝食、夕食は自炊あるいは外食となります。近くにコンビニあり。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり ●居室：研修医専用室1室有り 宿舎管理規定に基づく宿舎貸付料を負担 ●図書・文献：図書室あり ●インターネット環境：研修医専用室にパソコンあり。インターネット接続可能。 			

㊿【新潟県立加茂病院】

住 所	〒959-1397 新潟県加茂市青海町1-9-1		病床数：168床
診療科目	内科、神経内科、緩和ケア内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリ科、放射線科		
研修責任者名	秋山 修宏（院長）	連絡先：shomu1@kamo-hospital.kamo.niigata.jp 0256-52-0701（代表）	連絡先担当者名：松田 朋子（経営課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：8人、18年度：5人、19年度：2人、20年度：2人、21年度：2人、22年度：5人、23年度：2人、24年度：2人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		内科（消化器）1人、外科1人、整形外科1人、耳鼻科1人、緩和ケア科1人	消化器内視鏡1人
施設の概説・特徴			
<p>加茂市に位置し、加茂市、田上町の唯一の、そして約60年の歴史ある県立病院。 内科医5人（呼吸器、消化器、緩和ケア、総合診療）、外科医1人、整形外科医2人、耳鼻科医1人、リハビリ科医1人、放射線科医1人、麻酔医1人の計12人の病院。 新潟大学等から、神経内科、眼科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科の助勤があり、診療を行っている。 新潟県立病院で唯一の療養型病棟を持ち、訪問診療、訪問看護などを含め地域医療病院として機能している。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>地域密着型の病院として、地域包括ケア及び、緩和ケアに力を入れている。訪問診療を積極的に行っており、訪問診療に参加してもらう。 外来での一般内科診療や救急外来での診療が経験でき、急性期から慢性期までの入院診療が経験できる。希望者は緩和ケアの研修会やラウンドに参加し、緩和ケアの実際を体験できる。希望があれば、上部・下部内視鏡検査が経験できる。</p>			
研修医の当直			
<p>指導医と2人当直を行う。問診、診察、検査指示、その評価と治療方針の決定など、指導医とともに行う。 心肺蘇生、気管内挿管、気管支鏡を使用した挿管と吸引、中心静脈カテーテル挿入、尿路カテーテル挿入、骨髄穿刺、胸腔穿刺など、各種手技を経験できる。</p>			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）310,000円、2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（車の場合、通勤距離が2 km以上ある場合に距離に応じて支給） 時間外手当：勤務時間外に診療行為を行った場合、実務時間に対して支給、 当直手当：2年次20,000円/回 ●食事：昼、夕食は、売店が開店している。（病院からの提供なし） ●宿舍：個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ●居室：常勤医師と同じ研究室に専用デスクあり。 ●図書・文献：各種ジャーナルの定期購入を行っている。 インターネット検索ができる。 必要な文献は、県立病院中央図書室の役割を担っている、県立がんセンター新潟病院図書室に依頼して、取り寄せ可能である。 新潟大学医歯学総合病院図書室までそれほど遠くないので、文献探しに向くことも可能である。 ●インターネット環境：医局、外来、病棟から、インターネット接続可能。 			

地域型病院

④【新潟県立津川病院】

住 所	〒959-4402 新潟県東蒲原郡阿賀町津川200		病床数：67床
診療科目	内科・心療内科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・泌尿器科・神経内科・リハビリテーション科・麻酔科		
研修責任者名	原 勝人（院長）	連絡先：tug-keiei@sage.ocn.ne.jp 0254-92-3311（代表）	連絡先担当者名：角田 直之（経営課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：7人、17年度：6人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：5人、21年度：7人、22年度：9人、23年度：4人、24年度：5人、25年度：4人、26年度：2人、27年度：1人、28年度：2人、29年度：1人、30年度：2人、令和元年度：1人 ・その他プログラム採用 平成16年度：7人、17年度：8人、18年度：8人、19年度：8人、20年度：8人、21年度：5人、22年度：6人、23年度：18人、24年度：19人、25年度：17人、26年度：17人、27年度：19人、28年度：12人、29年度：11人、30年度：13人、令和元年度：12人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	総合内科専門医 1人、日本アレルギー学会専門医 1人、産業医 1人	日本プライマリケア指導医 1人
施設の概説・特徴			
阿賀町は新潟県の最も福島県境に位置し、佐渡より広大な中山間地に人口1万2千人が住む超高齢社会です。この日本の未来を先取りする地域医療の中には、実に手ごたえのある仕事があふれています。在宅生活を支えるための病院医療とは何か。集める医療と出向く医療とは何か。生活機能を維持するために医師ができることは何か。住民の願いは何か・・・このような疑問の解決をいろいろな角度から試みている小粒でピリリとからい病院です。あなたもこの研修を通して、プライマリ・ケアという漠然とした概念をいろいろなツールで経験してみませんか？それは専門分化された高度医療の中から、あなたのすすむべき最もふさわしい道を見つけ出す一助となるでしょう。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：なんといってもまずひとりで考えて医療を実践する楽しみを味わっていただくことでしょう。外来診療は上級医と看護師とクラークが常にバックアップしています。そして救急患者入院の際は上級医とペアで主治医になり、すべての指示をまず自分の手で行っていただきます。入院指示からインフォームドコンセントからコメディカルへの指示、そして患者とその家族およびそれらを取りまく福祉／保健関係者との連携から退院までの場面を1つ2つ主体的に実践していただきます。医療安全対策は万全ですのでご安心を。 阿賀町診療所研修における無医地区への巡回診療（へき地診療）と訪問診療は実に面白くて魅力的です。またナイトスクールで住民の前で行う紙芝居など地域密着型夜の院外研修も山積で、あなたを飽きさせません。			
研修医の当直			
上級医との二人体制ですべての救急症例の初期対応を行います。また救急転送を通して高度専門病院への搬送の判断やタイミングを経験し、さらに患者さん（家族）の心のケアも実践していただきます。なお田舎といえども医療に対する目は厳しいものです。当院では院外拘束医やコメディカル（検査科、放射線科など）が迅速な対応を行っておりますのでご安心ください。おそらくプライマリケア（一次救急）の面白さと難しさを実感していただけるのではないのでしょうか。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）310,000円、2年次（月額基本給）340,000円 （諸手当）実績に基づいて支給。 通勤手当：交通用具使用44,100円上限、 時間外手当：2,176円／1h（2年次研修医単価）、 当直手当：21,000円／1回（2年次研修医単価） ●食事：お昼は売店やお弁当など ●宿舎：当院で職員宿舎の一室を提供。宿舎管理規程に基づき宿舎貸付料は免除。各種設備は当院で負担。使用した光熱水費等は研修医本人が負担。 ●居室：みんなで医局です。椅子と机はカーテンで一人一人仕切られています。 ●図書・文献：医学中央雑誌Web、PubMedなどです。 ●インターネット環境：院内LANを通してインターネットへの接続可能です。			

④【新潟県立坂町病院】

住 所	〒959-3193 新潟県村上市下鍛冶屋589		病床数：148床
診療科目	内科、小児科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、歯科、麻酔科		
研修責任者名	近 幸吉（副院長）	連絡先：sakamachi-hospital@ml.murakami.ne.jp 0254-62-3111（代表）	連絡先担当者名：経営課庶務係
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：3人、17年度：5人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：3人、21年度：4人、22年度：9人、23年度：3人、24年度：4人、25年度：3人、26年度：9人、27年度：1人、28年度：2人、29年度：2人、30年度：0人、令和元年度：2人 ・その他プログラム採用 平成17年度：4人、18年度：4人、19年度：4人、20年度：10人、21年度：8人、22年度：9人、23年度：9人、24年度：9人、25年度：9人、26年度：10人、27年度：10人、28年度：11人、29年度：12人、30年度：10人、令和元年度：10人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		内科4人、外科1人、小児科1人	内科1人
施設の概説・特徴			
新潟県の北部、村上市南部に位置し、同地域のみならず近隣市町村の公的医療の中核を担っている。平成5年より現地に移転。現在、本間院長以下常勤医9人に新潟大学医歯学総合病院、県立新発田病院医師の助勤等によって診療が行われている。地域に密着した病院を目指し、訪問診療などにも取り組んでいる。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：当院での、地域医療研修は、外来、入院、訪問診療を通して地域医療の実際を経験してもらっている。さらに、診療活動を病院内外で支えてくれている（1）病院内各セクションへの“一日入門”（2）病院周辺の特老、中間施設、長期療養型病院、調剤薬局さらには（3）粟島へき地出張診療所での離島診療などでの研修を通して多くの施設、スタッフの協力のもとに医療が実現できていることを実感してもらえるようなカリキュラムとなっている。			
研修医の当直			
地域医療研修は、研修二年目で行われるため、当直の際は、救急・夜間の患者のファーストタッチを行うこととなる。指導医は常に病院近くに存在し、必要に応じてアドバイス、指導を行うこととなる。従って、原則として研修医一人での当直は行わない。医療チームの中心的存在である医師としての地位、比重は、大規模病院とは比較できないほど大きいため、医療チームリーダーとしての研修は十二分に行えることとなる。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：2年次（月額基本給）340,000円（日割有）（諸手当）宿日直手当 1回につき21,000円 他時間外勤務手当、休日給、通勤手当、住居手当有 ●食事：売店あり。平日昼は弁当の出前あり。車で数分以内にコンビニ、スーパーあり。 ●宿舎：借り上げ宿舎あり ●居室：研修医室あり（4人で一室の研究室） ●図書・文献：図書室あり。New England Journal of Medicine, Up-To-Date の電子ジャーナル利用可能。各領域の主要学会誌も準備されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット利用可能 			

④【佐渡市立両津病院】

住 所	〒952-0007 新潟県佐渡市浜田177-1		病床数：一般病床99床
診療科目	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、矯正歯科		
研修責任者名	石塚 修（病院長）	連絡先：hh-ryotsu-dr@city.sado.niigata.jp 0259-23-5111	連絡先担当者名：鶴岡 克己（管理課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：7人、17年度：5人、18年度：3人、19年度：3人、20年度：2人、21年度：5人、22年度：6人、23年度：2人、24年度：3人、25年度：3人、26年度：3人、27年度：2人、28年度：2人、29年度：3人、30年度：1人、令和元年度：3人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		内科：2人、小児科：1人	内科：1人、小児科：1人
施設の概説・特徴			
<p>平成16年3月1日に1市7町2村が合併し佐渡市となりました。佐渡市は離島ではありませんが、東京23区の1.4倍の面積を誇り、多くの歴史文化が継承され、トキに代表される美しい自然を四季折々に感じることができます。また、近年では多くのスポーツ大会に島外から多くの方が訪れるようになり、観光だけでなく、また違った魅力を感じることができるようになりました。</p> <p>両津病院は佐渡市の東部に位置する旧両津市にある病床数99床、診療科8科を擁する公立病院です。常勤医は内科4名、小児科医1名です。新潟大学医歯学総合病院、佐渡総合病院及び新潟市民病院から非常勤で応援をいただいています。</p> <p>全国に先駆けて病院に特別養護老人ホーム「歌代の里」や介護老人保健施設「すこやか両津」の施設を併設したゾーンを創設し、現在でもこれらの施設と協力して医療と介護の連携を図っています。</p> <p>高齢化の進展が著しい佐渡市に於いて、通常の診療のほかへき地への巡回診療、訪問診療や訪問看護など地域に密着した医療を住民へ提供しています。また、人間ドックや健診なども実施しており、「地域のかかりつけ病院」として佐渡市民の医療、介護、保健事業に貢献しています。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>地域医療：内科と小児科の外来・入院患者さんを担当していただきます。更に希望があれば内視鏡、エコー等の検査も行います。同時に、巡回診療、訪問診療、施設診療等も研修に含まれています。</p> <p>小児科では予防接種、児童健診等も指導医と一緒に行っていただきます。</p> <p>上記のほか、可能な限り本人の希望も考慮したプログラムを作成しています。</p>			
研修医の当直			
<p>5週で4回程度の当直、月1回程度の日直を行っていただいています。内科、小児科の患者を中心に、診察していただいています。常勤医によるバックアップ体制をとっていますので、常に相談可能な状態です。また、放射線科、検査科の協力体制もしっかりしており、夜間のCT、血液検査も可能です。</p>			
処 遇			
<p>●給与：1年次（日額基本給）25,952円（諸手当）日当直手当22,400円/回、研修医手当20,000円（社会保険に加入しないとき、雇用期間中1回支給） 2年次（日額基本給）25,952円（諸手当）日当直手当22,400円/回、研修医手当20,000円（社会保険に加入しないとき、雇用期間中1回支給）</p> <p>●食事：基本的に職員食堂や院内売店の利用となりますが、外食の場合は近くのコンビニや食堂を利用することも可能です。</p> <p>●宿舎：借り上げ宿舎あり（住居手当なし）、医師用病院宿舎 月額8,000円、光熱水費実費負担、駐車場有</p> <p>●居室：研修医専用室 有（個室対応）</p> <p>●図書・文献：各種検索のための図書室が常備されています。</p> <p>●インターネット環境：共用のものを設備しています。個人持込の場合でも接続は可能です。</p>			

④【津南町立津南病院】

住 所	〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁2682番地		病床数：97床（52床休床）
診療科目	内科、精神科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科		
研修責任者名	林 裕作（院長）	連絡先：tsunan-hp@town.tsunan.niigata.jp 025-765-3161（代表）	連絡先担当者名：根津 和博（事務長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：0人、令和元年度：0人 ・その他プログラム採用 平成24年度：2人、25年度：2人、26年度：2人、27年度：2人、28年度：2人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：3人		
研修受け入れ可能診療科		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		総合内科専門医1人、内科（循環器）1人、内科（血液）1人、内科（糖尿病）1人	日本内科学会指導医1人、日本糖尿病学会指導医1人
施設の概説・特徴			
地域密着型の中小病院です。外来診療、入院診療、訪問診療、予防医療（人間ドック・健康増進活動）を4本柱にしております。また、NST、ICT、糖尿病透析予防チーム、認知症ケアチームなど、多職種協同でのチーム医療を積極的に行っております。身近な、かかりつけ医として、人生のあらゆるステージで、全人的な医療とサポートを行っております。平成31年4月より、整形外科の常勤医師が着任され、整形外科部門の強化をはかっています。また、平成31年4月に、日本糖尿病学会教育関連施設及び日本病院総合診療医学会認定施設に認定されました。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
外来診療、入院診療、訪問診療に加え、人間ドック・健康講話・水中運動教室への参加などの予防医療活動も研修プログラムに入っています。ベテラン内科医師と整形外科医師が指導にあたります。			
研修医の当直			
1年次には原則として当直を行わず、指導医の判断によって副当直を経験する。2年次には月2回程度、指導医のサポートの下に当直を担当する。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）310,000円（諸手当）なし 2年次（月額基本給）340,000円（諸手当）当直手当21,000円/回 ●食事：食事は職員食堂で3食可能。売店又は出前及び飲食店の利用も選択可 ●宿舍：借り上げ宿舍あり 宿舍利用料2,000円/月 光熱費は自己負担 ●居室：医局にて常勤医と同室 ●インターネット環境：医局にてパソコン、インターネット利用可。受け入れが確定すれば住宅での利用も可能にする予定。 			

地域型病院

④【新潟県厚生農業協同組合連合会 あがの市民病院】

住 所	〒959-2093 新潟県阿賀野市岡山町13-23		病床数：196床
診療科目	内科・小児科・神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科・血管外科・胸部心臓外科		
研修責任者名	藤森 勝也（病院長）	連絡先：info@aganocity-hp.com 0250-62-2780（代表）	連絡先担当者名：白鳥 真（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成29年度：4人、30年度：15人、令和元年度：19人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：地域医療		内科3人、外科2人、小児科1人、産婦人科2人、麻酔科1人、呼吸器1人、アレルギー1人、漢方1人	内科2人、呼吸器1人、呼吸器内視鏡1人、消化器1人、日本プライマリケア学会1人、漢方1人
施設の概説・特徴			
<p>昭和29年に水原町国保直営病院として発足し、平成27年に新病院の「あがの市民病院」として開院した。研修医が使用する医局スペース、当直環境は充実している。病院周辺には、白鳥で有名な瓢湖、五頭山など自然豊かで、出湯・村杉・今板の五頭温泉郷がある。白龍、越後桜、越のあじわい、代々泉などの歴史ある酒蔵と銘酒がそろっている。当院は、地域医療の向上に努める阿賀野市（人口4万1千人）の中核病院として「地域住民のいのちを守り、人と人とのふれあいを大切に、皆様から親しまれ、信頼され、安心される病院を目指す」を合言葉に運営している。ベッド数196床（一般病床92床、地域包括ケア病床104床）、16診療科の総合病院で介護医療病院、訪問看護ステーションを併設しており、急性期から回復期、慢性期、在宅医療に至るまで対応している。また健診センターがあり、人間ドックも行っている。</p>			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>地域医療：外来診療を主に行い、訴えから、何を考え、どのような身体診察を行い、検査を出し、それらを総合的に判断して診断名を考え、治療するかを、指導医とともに実践する。治療では西洋薬とともに、漢方薬を駆使した統合医療を経験する。回診、検討会、院内勉強会でのプレゼンテーションを通じて、考えをまとめ、発表するスキルを向上させることができる。希望者には、腎臓内科では透析を、外科、整形外科、産婦人科では手術を、小児科では、予防接種、小児診療を経験できる。</p>			
研修医の当直			
<p>救急室は設備が充実している。指導医と2人当直体制であり、すぐに相談できる。プライマリケアの救急を経験できる。</p>			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）臨床研修特別手当40,000円／月、時間外研修手当50,000円／月、当直研修手当1回19,400円 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）臨床研修特別手当40,000円／月、時間外研修手当60,000円／月、当直研修手当1回19,400円 ●食事：院内売店あり ●宿舍：新築に準ずる宿舍あり（単身用・世帯用あり）（無料） ●居室：研修医専用の居室ブース。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室が常備されていて、各領域の主要学会誌等も準備されている。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能である。 			

⑭【新潟県厚生農業協同組合連合会 豊栄病院】

住 所	〒950-3327 新潟県新潟市北区石動1丁目11-1		病床数：199床
診療科目	内科、内視鏡内科、精神科、心療内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科		
研修責任者名	柄澤 良（副院長）	連絡先：soumu@toyosaka-hospital.jp 025-386-2311（代表）	連絡先担当者名：島田 玲子（総務課長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成22年度：4人、23年度：3人、24年度：3人、25年度：4人、26年度：6人、27年度：6人、28年度：4人、29年度：3人、30年度：4人、令和元年度：4人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	11人	1人
施設の概説・特徴			
平成9年に現在地へ移転新築。新潟市内北区に位置するため、新潟市中心部からの通勤も容易である。「地域の中核病院として心温まる医療を提供し保健・福祉を積極的に推進する」を病院の理念とし、急性期の二次医療、慢性期医療及び在宅医療・介護支援等を一体化した地域医療を展開している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
研修受け入れ可能診療科は内科です。消化器内科、腎糖尿病内科、呼吸器内科の常勤医が研修させます。消化器内科には常勤医師4名がおり、内視鏡や血管造影などの検査を行っていますので、やる気次第でいろいろ経験できます。腎糖尿病内科は常勤医師2名が担当し、100名を超える透析患者を管理しており、透析導入や慢性腎不全管理や腎生検などの経験ができます。呼吸器内科は常勤2名で担当し、肺癌や慢性呼吸不全を診ています。「一人で診療する」ことを目指します。午前是新患を常勤医の先生と二人で担当します。新患を担当すると診断する楽しさが分かってくると思います。当直は月に3～4回でファーストタッチをやってもらいますが、必ず内科常勤医と一緒に泊まりますので安心です。入院患者を10～15名担当してもらいますが、常勤医が副主治医となりますので安心です。地域医療研修は2年目なので、1年目で得た知識や経験を発揮する研修ができ、3年目に不安なく移行できると思います（柄澤良）。			
研修医の当直			
週1回程度の当直を行います。ファーストタッチをしていただきますが、これが力をつけると思われれます。地域の1次あるいは2次救急患者が集まりますので、心肺蘇生、気管内挿管、中心静脈栄養を含む血管確保、胸腔や腹腔穿刺、緊急内視鏡、緊急透析などの経験ができます。小さい病院ですので、夜間緊急医療を通して、医療のチームリーダーとしての経験が可能と思われれます。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）当直研修手当19,400円/回、時間外手当 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）当直研修手当19,400円/回、時間外手当 ●食事：昼食は業者による宅配弁当、売店が利用可能。夕食は周辺の飲食店（レストラン、コンビニ、弁当業者）や出前が利用可能。 ●宿舎：住居手当あり 月額50,000円上限 ●居室：専用室あり。 ●図書・文献：総合医局内の図書・各種雑誌を24時間対応で閲覧可能。 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能 			

④【新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院】

住 所	〒944-8501 新潟県妙高市田町2丁目4番7号		病床数：120床
診療科目	内科、小児科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科、リハビリテーション科		
研修責任者名	政二 文明（病院長）	連絡先：info@keinansogo.jp 0255-72-3161（代表）	連絡先担当者名：青木（総務課）
新臨床研修 医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 ・その他プログラム採用 平成26年度：3人、27年度：0人、28年度：0人、29年度：0人、30年度：3人、令和元年度：2人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	日本循環器学会専門医1人、総合内科専門医1人、日本外科学会専門医2人、日本消化器外科専門医2人、日本消化器内視鏡学会専門医3人、日本産婦人科学会専門医1人、日本消化器学会専門医1人	日本外科学会指導医2人、日本消化器外科学会指導医2人、日本大腸肛門病学会指導医2人
施設の概説・特徴			
妙高地域の中核病院として、医療・保健・福祉が一体となった準急性期病院としての地域医療を担っております。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：内科疾患全般にわたる診断・検査・治療の基本を学ぶ。訪問診療など地域包括ケアシステムでの位置づけを学ぶ。 小児科：地域唯一の小児科開設病院として、急性疾患児から慢性疾患児までを対象に診療している。			
研修医の当直			
指導医と2人で当直をし、指導医の援助や助言を受けます。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）あり 2年次（月額基本給）380,000円（諸手当）あり ●食事：昼食は外注弁当等（院内レストランの出前・売店 可）、朝食・夕食は個人で対応 ●宿舍：借り上げ宿舍（単身用・扶養親族同伴者用あり） ●居室：医局内研究室提供 ●図書：医局に各種学会専門誌が取り揃えあり。院内に図書室あり（24時間利用可能） ●インターネット環境：医局内にインターネット環境有り。個人毎に利用可。 			

④【五泉中央病院】

住 所	〒959-1825 新潟県五泉市太田489番地 1		病床数：199床
診療科目	内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、心臓血管外科、放射線科、リハビリテーション科、眼科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、こう門科、麻酔科、歯科		
研修責任者名	高橋 姿（院長）	連絡先：g-ikyoku@sinjinkai.or.jp 0250-47-8150（代表）	連絡先担当者名：高橋 姿（院長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成22年度：8人、23年度：2人、24年度：2人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：2人、28年度：0人、29年度：1人、30年度：0人、令和元年度：0人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	内科（呼吸器）1人、内科（アレルギー）1人、外科（外科）1人、外科（消化器外科）1人、小児科2人、内科（総合）1人、内科（循環器）1人	内科（呼吸器）1人、外科（外科）1人、脳神経外科1人、小児科1人
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：各診療科病棟で担当医として指導医とマンツーマンで診療に当たる。研修医というよりもチームの一員として第一線の臨床医の業務と生活に接し、その思いに触れて欲しい。指導内容は本研修プログラムの指針によるが、指導医の判断により外来診療や副当直で多彩な急性期疾患に接し、患者の社会的背景を通して地域の実情と医療・介護制度の実際を知る事も重要である。院内症例検討会での発表を担当し、発表と討論の力をつける。			
研修医の当直			
1年次には原則として当直を行わず、指導医の判断によって副当直を経験する。2年次には月3回程度、指導医のサポートの下に当直を担当する。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）210,000円（諸手当）240,000円 2年次（月額基本給）260,000円（諸手当）240,000円 ●食事：医局食堂で3食提供可能。半径2 km以内に寿司屋、レストラン有、ほか居酒屋数軒。五泉市内飲食店多数。半径500m以内にスーパー1軒、コンビニ2軒 ●宿舍：借り上げ宿舍あり、個人準備の場合住居手当あり（上限25,000～30,000円） 宿舍は用意しますが、個人でアパート希望の場合、病院周辺に民間アパート多数あり。 ●居室：個室なし。医局内に机、椅子ロッカー、書類棚各1 提供 ●図書・文献：図書室 8：30～17：00利用可能。各科領域主要学術雑誌あり。PC（共同使用）にてPubMed、電子版医中誌利用可能。 ●インターネット環境：医局にて各自利用可能。 			

㊤【医療法人恒仁会 新潟南病院】

住 所	〒950-8601 新潟県新潟市中央区鳥屋野2007番地 6		病床数：177床
診療科目	内科、血液内科、呼吸器内科、内分泌内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、神経内科、泌尿器科、外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、小児科、産婦人科、眼科、歯科		
研修責任者名	横山 明裕（地域医療担当内科部長）	連絡先：jimu01@niigataminami-hp.com 025-284-2511（代表）	連絡先担当者名：渡部 学（事務長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成24年度：2人、25年度：3人、26年度：3人、27年度：4人、28年度：1人、29年度：2人、30年度：4人、令和元年度：4人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	総合内科5人、内科（血液）3人、内科（消化器）4人、内科（循環器）7人、内科（呼吸器）2人、内科（感染症）1人、小児科2人、てんかん1人、外科3人、産婦人科1人、眼科1人、整形外科3人、泌尿器科1人	内科6人、内科（血液）1人、内科（呼吸器）1人、小児科1人、外科2人、脊椎脊髄外科1人、泌尿器科1人
施設の概説・特徴			
新潟市の中央区に位置し、地域医療を担う病院として他の医療機関と連携をとり、中心的な役割を果たしている。老人保健施設、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、訪問介護センター、サービス付高齢者向け住宅が併設されており、地域のニーズに応えている。一方、新潟大学の関連病院として、可能な限りの先端医療を積極的に取り入れている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：内科は常勤医のいる循環器、消化器、血液が中心となる。全ての分野に渡った研修はできないが、分野を限定しての集中的研修が可能である。循環器は不整脈を中心として、高齢者の心不全の管理等地域のニーズに応えている。消化器は内視鏡検査を始めとして一般的な診察を行っている。血液は大学病院と連携して造血器腫瘍を中心に診療しており、この規模の病院としては稀有である。外科は消化器外科のみであるが、充実した研修と自負している。研修中に消化器外科専攻を決めた研修医も少なくない。小児科は、プライマリ・ケアから二次救急まで幅広く対応している。			
研修医の当直			
適宜副当直として現場研修を行う。随時各科の拘束番と相談していく体制である。日勤帯の救急車には原則として指導医と共に対応するが、指導医が他の業務中の場合は、対応可能な他の医師がその患者に関する際の臨時の指導医となる。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円、2年次（月額基本給）400,000円 （日当直手当）平日22,000円、土曜37,000円、日祝50,000円 ●食事：ケータリングや売店の利用ができる。 ●宿舍：個人準備 住居手当あり（上限11,000円） ※病院周辺に民間アパート・マンション多数あり ●居室：研究室での研修医専門の机あり。 ●図書・文献：各種ジャーナル、各領域の主要学会誌も準備している。医中誌 Web 利用可 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続が可能 			

④【新潟臨港病院】

住 所	〒950-0051 新潟県新潟市東区桃山町1-114-3		病床数：199床
診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、消化器外科、こう門外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科		
研修責任者名	大澤 豊（副院長）	連絡先：rh-master@rinko-hp.com 025-274-5331（代表）	連絡先担当者名：塚本 亮介（事務部長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成16年度：1人、17年度：1人、18年度：2人、19年度：0人、20年度：1人、21年度：2人、22年度：1人、23年度：0人、24年度：0人、25年度：0人、26年度：0人、27年度：1人、28年度：4人、29年度：1人、30年度：4人、令和元年度：5人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：地域医療	内科（内科）7人、内科（消化器）3人、内科（呼吸器）2人、内科（腎臓）4人、内科（リウマチ）2人、内科（透析）2人、内科（消化器内視鏡）3人、外科（外科）3人、外科（消化器）2人、外科（大腸肛門）1人、整形外科5人、泌尿器科1人、整形（脊椎、脊髄）1人、整形（肝臓）1人、整形（手外科）2人、内科（睡眠）1人、産婦人科1人、眼科1人	内科（内科）2人、内科（腎臓）2人、内科（透析）2人、内科（消化器）1人、内科（消化器内視鏡）1人、内科（呼吸器）1人、外科（消化器）1人、泌尿器科1人、外科（大腸肛門）1人、内科（高血圧）1人、内科（呼吸器内視鏡）1人、外科（外科）1人、内科（リウマチ）1人	
施設の概説・特徴			
一般150床、療養49床の総合病院。1日外来患者数は約450人で昭和26年開設以来、地域医療の一翼を担ってきた。外科・整形外科の手術件数も多く透析センター、内視鏡センター、健診センターなどの専門施設を有し、慢性腎臓病、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸などの近隣の診療所との病診連携、訪問診療やリハビリテーション、へき地診療などを行い、地域に根ざしたトータル医療の提供を行っている。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
地域医療：当院の中心的な診療科目である内科は、透析治療を中心とした腎疾患治療（透析センター 30床）、胃・大腸など消化器系の内視鏡検査及び治療、全国的に不足している睡眠時無呼吸症候群の検査および治療ができるほか、喘息やCOPDの治療など専門医が従事している。 外科は、胃癌、大腸癌を中心とした消化器一般の治療・手術から、胆石、肛門疾患の治療・手術を行っている。 整形外科は、股関節・手の外科・外傷を専門に診療している。 眼科は、白内障を中心に手術症例が拡大。 泌尿器科は、前立腺の治療、手術を中心に行っている。			
研修医の当直			
指導医と一緒に当直し、診察・治療の見学から開始し、徐々に診療の補助を行うが、原則として研修医一人での当直は行わない。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）350,000円（諸手当）、当直手当20,000円/回 2年次（月額基本給）350,000円（諸手当）、当直手当20,000円/回 ●食事：昼食は配達弁当、院内売店。夕食は事前に本人が弁当等、売店で購入。 ●宿舍：個人準備 住宅手当あり（定額13,000円） ●居室：診療部として一つの部屋になっており、他の指導医と同室。一人ひとりが仕切りでセパレートされている。 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室がある。医中紙 Web ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能 			

⑤【医療法人愛仁会 亀田第一病院】

住 所	〒950-0165 新潟県新潟市江南区西町2-5-22		病床数：197床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科、整形外科、小児整形外科、脳神経外科、肛門外科、産婦人科、リハビリテーション科、麻酔科、リウマチ科		
研修責任者名	村岡 幹夫（院長）	連絡先： jinji@jin.or.jp 025-382-3111（代表）	連絡先担当者名： 枝並 明男（事務局長）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成25年度：0人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：3人、29年度：1人、30年度：3人、令和元年度：6人		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
	必修：地域医療	日本内科学会認定医4人、日本内科学会専門医1人、日本消化器内視鏡学会専門医3人、日本消化器病学会専門医2人、日本肝臓学会専門医1人、日本外科学会専門医3人、日本消化器外科学会専門医3人、がん治療認定医2人、日本整形外科学会専門医8人、日本整形外科学会脊椎脊髄病医2人、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医名簿2人、日本整形外科学会認定スポーツ医1人、日本リハビリテーション医学会専門医1人、日本リウマチ財団リウマチ登録医1人、日本臨床神経生理学会認定医1人、日本麻酔科学会専門医2人、日本ペインクリニック専門医1人、日本頭痛学会専門医1人、日本脳神経外科専門医1人、日本産婦人科学会専門医2人	日本外科学会指導医2人、日本消化器外科学会指導医3人、日本脊椎脊髄病学会指導医3人、日本頭痛学会指導医1人、日本リハビリテーション医学会指導医1人、日本整形外科学会指導医6人
施設の概説・特徴			
昭和42年開院以来、旧亀田町唯一の病院として地域医療を担ってきた。所在地周辺は、交通の利便性も良いため大型商業施設等の進出も盛んで人口も増加している。病床を一般156床と地域包括ケア41床に再編した。診療科では特に整形外科分野で2つのセンター（脊椎外科、股関節）を設置し、高度な先進的医療を提供している。また救急指定病院として地域医療の一翼を担い、信頼され喜ばれる病院を目指している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<p>地域医療：内科は、地域の中核病院として豊富な症例を経験できる。専門としては常勤医師のいる消化器、呼吸器、循環器領域が中心となる。消化器領域は、消化器内視鏡学会専門医のもとで、上部及び下部消化管内視鏡による診断、治療を積極的に行っている。呼吸器領域では、肺炎等の感染症が中心であるが、気管支鏡による肺癌や呼吸器疾患の診断も行っている。循環器領域では、高齢者の心血管疾患を中心に診療し、他科患者の循環器合併症への対応を主に行っている。</p> <p>外科は、胃癌、大腸癌、胆石症などの消化器疾患、乳腺疾患、腹部ヘルニア、肛門疾患などを対象に診断・治療を行っている。癌治療では、内科と連携しガイドラインに沿った進行度に応じた過不足ない治療を行っている。また必要な患者には外来化学療法室を拠点に抗がん剤治療を行っている。</p> <p>整形外科は、脊椎外科、股関節の2つのセンターを設置し、全国的にも質の高い診療を行っている。センター以外にも、肩、膝をはじめとする関節外科から一般整形外科、外傷に至るまで幅広く行っている。遠方からの患者も多く、年間手術数は約1,500件と県下有数である。幅広い症例のもとに、質の高い診断、治療を経験できる。</p> <p>麻酔科は、全体の年間手術数は約2,300例、内約1,200例が麻酔管理症例である。特色は、脊椎、整形外科手術における全身麻酔管理が多いことである。複数の麻酔科専門医のもとで、きめ細かい研修を行うことができる。</p>			
研修医の当直			
救急指定病院として年間約1,200台の救急車を受け入れている。原則として研修医一人での当直は行わない。救急・夜間の患者のファーストタッチを行ってもらい、必要に応じて指導医のアドバイス、指導を受けてもらう。			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次（月額基本給）450,000円、2年次（月額基本給）500,000円 （諸手当）通勤手当：上限50,000円、時間外手当：上限50,000円 当直手当：20,000円／1回 ●食事：朝、昼、夕とも職員食堂で対応できます。もちろん病院近くに、コンビニ、レストラン、食堂等があり、不自由はありません。 ●宿舍：個人準備（住居手当なし） ●居室：居室あり（他の常勤医師と共同）。机は個別 ●図書・文献：24時間利用の図書室あり。各種ジャーナル、各科領域主要学術誌も準備している。又、医中誌の文献データベース利用可能 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能 			